# 北海道大学
# サステナビリティ・ウィーク
# 2009

## 年次記録

持続可能な社会の実現に向けて、
ここから広がる未来への一歩

気候変動や食料不足といった、一国一地域では解決が難しい人類共通の課題に対し、
世界中から最新の研究成果を持ち寄り、解決策を集中的に議論する機会です。

北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

# 本書について

本書は、2007 年に北海道大学が開始した持続可能な社会の実現に向けた研究・教育の促進強化イベント「サステナビリティ・ウィーク」2009 年開催の年次記録です。主に、ウェブサイトをそのまま PDF 化して集約しています。

サステナビリティ・ウィーク企画者の熱い想いを可能な限り記録に残すことに努めました。よって、イベント開催当時の 2009 年時点の情報のため、掲載しているウェブサイト URL がリンク切れしていたり、無効な連絡先を掲載している場合があります。

なお、「総長あいさつ」文中で触れている『札幌サステイナビリティ宣言』の詳細については、本学ウェブサイト上で公開しております。「札幌サステイナビリティ宣言」もしくは「G8 大学サミット」をキーワードに、本学ウェブサイト内の検索エンジンをご利用ください。

また、本書はサステナビリティ・ウィーク 2009 年開催に関する日本語の報告書ですが、同内容を英語でも公開しています。また、他年度の報告書も両言語で公開していますので、是非ご覧ください。

最後に、当時の開催イベントに関するお問い合わせについては、詳細をお答えするのが難しいこと、予めご了承ください。持続可能な社会の実現に向けて、本書をお役立て頂ければ幸いです。

平成 29 年 3 月

北海道大学サステナビリティ・ウィーク事務局

# 目　次

1. サステナビリティ・ウィーク 2009 の概要

1.1　本年の特徴 ..... 2

1.2　総長あいさつ ..... 3

1.3　プログラム・パンフレット ..... 4

1.4　実行委員長 総括 ..... 12

2. 開催行事のウェブサイト（開催日順）

2.1　2009 年アジア太平洋信号情報処理連合学会アニュアルサミット・国際会議 ... 15
2.2　第 9 回物理探査学会国際シンポジウム ..... 17
2.3　学生提言『グリーン・ニューディール』
第 6 回ディベート大会及び最終発表 ..... 19
2.4　CLARK THEATER 2009 ..... 22
2.5　北大映画館×北大低炭素ＰＴ×環境省 地球温暖化政策セミナー ..... 24
2.6　サステナビリティ・ウィーク 2009 オープニングシンポジウム
北海道大学「持続可能な開発」国際シンポジウム
～持続可能なグローバル社会に向けた 5 課題解決への提言～ ..... 26
2.7　北大から世界へ！～国際キャリアパスの入り口へ～“SD on campus” ..... 33
2.8　第４回　結～yui～プレゼンツ　フェアトレードフェア ..... 35
2.9　ジョイントシンポジウム
「都市化と健康～2010 年の世界保健デーに向けて～」 ..... 37
2.10　国連大学グローバル・セミナー北海道最終記念セッション
持続可能な社会の担い手となるために―2015 年までに国際社会が達成
すべきミレニアム開発目標の現状を知る― ..... 39
2.11　第 2 回センチネル・アース国際シンポジウム －市民向け講座－ ..... 42
2.12　実験展示：統合科学が解明する「洞爺湖・有珠火山地域の過去と未来」 ..... 44
2.13　国際シンポジウム「持続可能な低炭素社会を目指して
～グリーン・ニューディールとグローバルチェンジ～」 ..... 46
2.14　第 2 回センチネル・アース国際シンポジウム
－衛星データ・衛星画像データの高度利用研究－ ..... 52
2.15　国際シンポジウム「気候変動による地域固有システムへの影響」 ..... 54
2.16　第 2 回 セラミド研究会 学術集会 ..... 56

2.17　国際シンポジウム「明日の海と食を守る水産海洋サステナビリティ学」 .....58
2.18　地球交響曲-ガイアシンフォニー第五番上映会 ＆ 龍村仁監督特別講演会.....60
2.19　国際シンポジウム
「オホーツク海の環境保全に向けた日中露の取り組みにむけて」 .....62
2.20　実験展示：Let’s サイエンス!! .....64
2.21　国際シンポジウム「低温科学のフロンティア」 .....66
2.22　国際シンポジウム
「持続的アジア社会構築に向けた日中の総合的大学間協力」 .....68
2.23　産学官セミナー「地理空間情報が拓く未来」 .....70
2.24　シンポジウム「アジア・アフリカ開発援助と北海道大学」 .....72
2.25　シンポジウム「サステナビリティな産学連携を求めて
－イタリア City State トリノの取り組みからのメッセージー」 .....74
2.26　シンポジウム「石油ピーク後の日本と北海道のあり方を考える」 .....76
2.27　市民向け講座　「日韓における農業からみた低炭素社会の展望」 .....78
2.28　意見交換会「地球に優しい社会へ向けた大学→市民の協働」 .....80
2.29　CCC「世界の子どもをつなぐ教室」報告会
～カンボジア・インドと日本をつなぐ「青春の手紙」～.....82
2.30　国際シンポジウム「先住民族と自然資源－持続的資源利用の視点から－」.....84
2.31　国際シンポジウム「持続可能な社会の発展と専門職業人の使命」 .....86
2.32　北方圏の環境研究に関する日本-フィンランド共同研究セミナー.....88
2.33　北海道大学触媒化学研究センター20 周年記念国際シンポジウム.....90

## 3.　実施報告

3.1　実施報告パンフレット　.....93

# 1. サステナビリティ・ウィーク 2009 の概要

# 本年の特徴

・開催テーマ　：　持続可能な社会の実現に向けて、ここから広がる未来への一歩

・企画実施期間：　2009 年 10 月 4 日（日）～12 月 9 日（水）
　　- コア期間：11 月 1 日（日）～2009 年 11 月 18 日（水）

・企画数　　：　33 企画

・参加者数　　：　8,440 人

・特筆事項　　：

- 前年度に世界の主要 35 大学が採択した「札幌サステイナビリティ宣言」に則った責任ある行動の一つとして北海道大学は、サステナビリティ・ウィークを毎年開催していくことを決定した。
- 文部科学省が大学国際化の取り組みに対し資金支援を行う「大学国際戦略本部強化事業」は、最終年度を迎えた。そこで、2006 年以来 2 回目となる全学規模のシンポジウム「北海道大学『持続可能な発展』国際シンポジウム」を開催し、「持続可能な開発」国際戦略に基づく取り組みの成果として、持続可能なグローバル社会に向けた 5 つの課題について解決策を提言した。
- 大学間交流協定校との連携の強化を目指したところ、5 人の学長や副学長の参加が得られたとともに、7 つの大学とジョイント・シンポジウムを共催することができた。
    - 学長の参加：ポートランド州立大学、ナイジェリア大学
    - 副学長の参加：北京大学、パリ工業物理化学高等専門大学、トリノ工科大学
    - 共催大学：アジア公開大学、アラスカ大学、デラサル大学、ジュネーブ大学、オウル大学、パランカラヤ大学、トリノ工科大学
- 前年に引き続き「カーボンオフセット」を実施した。
- サステナビリティ・ウィークに参加する学生数を増加させる目的と、異分野の専門家が研究成果を共有する機会の増加を目的に、第 1 回北海道大学サステナビリティ学生研究ポスターコンテストを開催したところ、北海道大学の学生から成る 72 チームが参加した。

## 総長あいさつ

北海道大学 総長 佐伯 浩

北海道大学は、日本で最も美しいキャンパスを持つと言われています。北国に訪れる遅い夏には色とりどりの珍しい草花が咲き誇り、秋には黄金色の銀杏の葉が舞い、冬には純白の雪が歴史的建造物を包み込みます。この美しいキャンパスを拠点として、大勢の研究者が、地球温暖化や水資源の枯渇、食糧の安定的確保といった地球規模の課題の解決に向けて熱心に研究に取り組んでいます。また、これらの課題に果敢に取り組む人材を育成しています。

1876年に札幌農学校として創立以来130余年の間、北海道大学は自然と人間が調和的に共栄する社会づくりに貢献してまいりました。昨年はG8諸国等の主要大学長等が会する史上初の「G8大学サミット」をホストし、「札幌サステイナビリティ宣言」の採択に大きく貢献しました。この宣言は、海外の20大学、1国際機関、日本の14大学が、持続可能な社会を実現するための原動力となることを誓ったものです。

この「札幌サステイナビリティ宣言」を受け、北海道大学は科学知識に基づく解決策の提示をこれまで以上に加速させたいと考えています。その具体的な行動の一つとして、今年もサステナビリティ・ウィーク2009を開催します。これは、持続可能な社会づくりに寄与する研究と教育の推進週間です。期間中、国際シンポジウムや市民向けの講演会、展示を集中的に開催し、これまでの研究や教育の成果を積極的に公開します。また、第一線の研究者を世界中から招き、積極的な議論によって解決策を探ります。

北海道大学は2005年に「持続可能な開発」国際戦略本部を設置し、2006年に「持続可能な発展」国際シンポジウムを開催しました。以降、2007年からは毎年新しい目標を設定しサステナビリティ・ウィークを開催しています。3回目となる今年は、特に海外の協定校とのネットワーク強化と学生の参加拡大に力を入れています。海外の協定校からより多くの研究発表者を迎え、本学の若手研究者やベテラン研究者、そして札幌市民が一堂に会し、最新の研究成果を踏まえて議論する機会を設けたいと考えています。世界の研究拠点大学の使命として、北海道大学はサステナビリティ・ウィーク2009を通じ、未来を担う人材をグローバル規模で育成していく所存です。

2009年1月
北海道大学
総長 佐伯 浩

# 北海道大学 サステナビリティ・ウィーク 2009

11月1日(日)スタート

## 持続可能な社会の実現に向けて、ここから広がる未来への一歩

気候変動や食料不足といった、一国一地域では解決が難しい人類共通の課題に対し、
世界中から最新の研究成果を持ち寄り、解決策を集中的に議論する機会です。

北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

# サステナビリティ・ウィーク2009の行事

「持続可能な社会づくり」に関心のある皆様の参加をお待ちしております。 http://www.sustain.hokudai.ac.jp/sw2009/jp/

## 凡例

- サステナビリティ・ウィーク企画
- プレ企画
- ポスト企画

12 開催日

行事名

- ⓐ 概要
- ⓑ 会場・時間
- ⓒ 講演言語
- ⓓ 申し込み
- ⓔ 主催
- ⓕ 共催
- ⓖ 問い合わせ先

バックの色は各行事の行事形式を表しています。
また、これらの行事はどなたでもご参加いただけます。

- シンポジウム・学術集会
- 市民向け講座
- その他の企画

## カテゴリー表 〈これらのマークは、各行事のカテゴリーを表しています。〉

### 気候・環境変動

4 10/30[金]-11/3[火・祝]
5 11/1[日]
6 11/2[月]
9 11/3[火・祝]
10 11/3[火・祝]
11 11/3[火・祝]
12 11/4[水]-13[金]
13 11/4[水]-5[木]
14 11/4[水]-5[木]
15 11/6[金]
17 11/7[土]
18 11/7[土]
19 11/7[土]-8[日]
20 11/8[日]
21 11/9[月]-10[火]
25 11/13[金]
26 11/14[土]
28 11/14[土]
32 11/16[月]-18[水]

### 自然史・生物多様性・自然保護

2 10/11[日]-14[水]
4 10/30[金]-11/3[火・祝]
6 11/2[月]
10 11/3[火・祝]
12 11/4[水]-13[金]
15 11/6[金]
18 11/7[土]
19 11/7[土]-8[日]
20 11/8[日]
21 11/9[月]-10[火]
28 11/14[土]
30 11/15[日]
32 11/16[月]-18[水]

### 教育・人材育成・啓発

3 10/24[土],11/2[月]
4 10/30[金]-11/3[火・祝]
6 11/2[月]
7 11/2[月]
9 11/3[火・祝]
10 11/3[火・祝]
14 11/4[水]-5[木]
17 11/7[土]
18 11/7[土]
20 11/8[日]
22 11/12[木]
23 11/12[木]
24 11/13[金]
26 11/14[土]
28 11/14[土]
29 11/14[土]-15[日]
30 11/15[日]
31 11/15[日]
32 11/16[月]-18[水]

### 知的革命・技術革新・社会変革

1 10/4[日]-7[水]
2 10/11[日]-14[水]
3 10/24[土],11/2[月]
4 10/30[金]-11/3[火・祝]
6 11/2[月]
8 11/2[月]-14[土]
10 11/3[火・祝]
12 11/4[水]-13[金]
13 11/4[水]-5[木]
22 11/12[木]
23 11/12[木]
25 11/13[金]
26 11/14[土]
27 11/14[土]
31 11/15[日]
33 12/7[月]-9[水]

### 食料・水・衛生・健康

2 10/11[日]-14[水]
4 10/30[金]-11/3[火・祝]
6 11/2[月]
9 11/3[火・祝]
10 11/3[火・祝]
16 11/6[金]
17 11/7[土]
19 11/7[土]-8[日]
22 11/12[木]
23 11/12[木]
26 11/14[土]
27 11/14[土]

### 人権・文化・平和

3 10/24[土],11/2[月]
4 10/30[金]-11/3[火・祝]
10 11/3[火・祝]
18 11/7[土]
24 11/13[金]
29 11/14[土]-15[日]
30 11/15[日]
31 11/15[日]

---

## 1 10月4日(日)～7日(水) 【プレ企画】

### 2009年アジア太平洋信号情報処理連合学会アニュアルサミット・国際会議

ⓐ 2009年アジア太平洋信号情報処理連合学会アニュアルサミット・国際会議(APSIPA ASC 2009)開催は、環境を配慮した信号・情報処理の技術開発や標準化を先導的に行う機会が増えることが期待でき、我が国の信号・情報処理分野に係わる産業の発展に寄与できるものと考えております。また本会議は、アジア太平洋地域の研究者、技術開発者ならび学生の国際学会発表や論文発表活動促進を図ることを目的とし、ポスターセッション、レクチャーセッション、フォーラム、パネルディスカッション、チュートリアルなど多岐に渡る企画を実施します。
信号・情報処理分野に関心がある人のご参加を心よりお待ちしております。

ⓑ 10月4日　北海道大学　学術交流会館　9:30-17:30
10月5日-7日　札幌コンベンションセンター　9:00-18:00

ⓒ 英語(通訳無し)

ⓓ 不要(有料・事前申込みの場合はディスカウント有り。詳しくはウェブサイトをご覧ください)
http://www.knt.co.jp/ec/2009/apsipa

ⓔ 北海道大学大学院情報科学研究科グローバルCOEプログラム、APSIPA ASC 2009 組織委員会

ⓕ 北海道大学大学院情報科学研究科、日本情報処理学会、電子情報通信学会、Microsoft Research Asia、The Institute of Engineering, Singapore

ⓖ 北海道大学情報科学研究科 担当：伊藤
TEL : 011-706-6489　E-mail : ito@icn.ist.hokudai.ac.jp

## 2 10月11日(日)～14日(水)

### 第9回物理探査学会国際シンポジウム

ⓐ 物理探査は、これまで地下資源の開発に欠くことのできない技術として用いられてきました。近年、それらは大小の空間的スケールをもついろいろな分野における環境や社会、人間システムの持続性に関する課題に貢献することが期待されています。第9回物理探査学会国際シンポジウムのテーマは、"地下のイメージングと解釈-持続可能な開発への科学技術"であり、未来の世代に対する人間活動と環境とのバランスを維持する課題に焦点を合わせたものです。会期中、国内外の著名な研究者による学術講演会を行いますが、11日には青少年向け巡検、12日10:00～15:00には学術交流会館ホールにて一般市民向け講演会、展示も行います。

ⓑ 北海道大学 学術交流会館　講堂、小講堂、第1会議室、ホール
市民向け講演会・交流会　10月12日 10:00-15:00 ⓒ 英語(一部通訳有り)

ⓓ 市民参加行事は不要(無料)・
学術講演会は必要(有料・詳しくはウェブサイトhttp://www.segj.org/is/9thをご覧ください)

ⓔ 物理探査学会

ⓕ アメリカ物理探査学会、ヨーロッパ物理探査学会、オーストラリア物理探査学会、韓国物理探査学会、ベトナム物理探査学会、アメリカ環境工学物理探査学会、北海道大学理学研究院地震火山研究観測センター

ⓖ 物理探査学会・国際シンポジウム実行委員会
TEL : 011-706-4679　FAX: 011-738-5725　E-mail : segj9th@segj.org

## 3 10月24日(土)、11月2日(月)

### 学生提言『グリーン・ニューディール』第6回ディベート大会及び最終発表

ⓐ 経済学部では学生提言によるディベート大会を毎年開催しています。今年は六回目をむかえ、「グリーン・ニューディール」をテーマに学生独自のアイディアを発表し、論戦の中でその長短所を検証していきます。
7/2(木)にはテーマへのレクチャーとして経済学部教授・准教授による講演会＋討論会を(終了)、10/24(土)にはディベート大会を予定しています。
また、11/2(月)のサステナビリティ・ウィーク学生研究ポスターコンテストでは、大会で研かれた提言をポスターにまとめ、来訪者のみなさんに口頭説明を行います。北大生による「グリーン・ニューディール」への提言を是非両会場でご覧ください。

ⓑ 10月24日　北海道大学 人文・社会科学総合教育研究棟
W409、W406、W407教室 10:00-17:00
11月2日　北海道大学 学術交流会館 ホール 12:15-14:00 ⓒ 日本語 / 英語

ⓓ 不要(無料)各行事とも、ご自由にご参加(聴講・観覧)いただけます。

ⓔ 北海道大学経済学部

ⓖ 北海道大学経済学部主催「第6回ディベート大会」運営事務局　担当：塚田
TEL : 011-706-4066　FAX : 011-706-4947

## 4 10月30日(金)～11月3日(火・祝)

### CLARK THEATER 2009

ⓐ 北大映画館による"映像・映画教育やコミュニケーションの場の創造"を目指した期間限定映画館を今年も北海道大学内に設置します。
今年は、11月1日午後12:45より環境省、北大低炭素社会PTとの共催で、特別企画「～不都合な真実の先へ～」(無料)を開催します。
当企画は、『不都合な真実』の上映から始まり、豪華ゲスト陣と学生とのトーク・セッションの場を設け、分かりやすい視点からのアプローチで、環境問題について考えていただくきっかけになればと考えています。
この企画と連動して同日15:30より、環境省主催「地球温暖化政策セミナー」も開催されますのでこちらも是非ご参加ください。
この他にも、環境問題に関連するプログラムがございますので、詳細は当団体ホームページ(http://www.clarktheater.jp/)よりご覧ください。

ⓑ 北海道大学　クラーク会館 ⓒ 日本語 / 英語/その他

ⓓ 不要・有料(前売券400円、当日券500円。一部無料プログラム有り)

ⓔ 北大映画館プロジェクト実行委員会2009

ⓕ 環境省北海道地方環境事務所
北海道大学「持続可能な低炭素社会づくり」プロジェクトチーム
(公共政策大学院、地球環境科学研究院)

ⓖ 北大映画館プロジェクト実行委員会2009　E-mail : info@clarktheater.jp

北大学生企画

## 5 11月1日(日) 【サステナビリティ・ウィークスタート】

### 北大映画館×北大低炭素PT×環境省 地球温暖化政策セミナー

ⓐ 北大映画館プロジェクト主催による「不都合な真実」の上映とトーク・セッション(12:45からクラーク会館講堂にて)に引き続き、環境省、北大映画館プロジェクト、北大低炭素社会プロジェクトの共催で、地球温暖化政策セミナーを開催します。地球温暖化の科学や政策について、環境省塚本直也氏(元IPCC日本政府代表)と北大教員がお話しするとともに、参加者との意見交換を行います。地球温暖化問題について「環境省に聞いてみたい!」「北大の先生に質問!」など、双方向のセミナーを目指します。皆様のご参加をお待ちしています。

ⓑ 北海道大学 学術交流会館 小講堂 15:30-17:00
ⓒ 日本語
ⓓ 必要(無料) メールにてお名前、電話番号をご記入の上、下記問い合せ先までお申し込みください。
ⓔ 環境省北海道地方環境事務所
ⓕ 北大映画館プロジェクト実行委員会2009、北海道大学「持続可能な低炭素社会づくり」プロジェクトチーム(公共政策大学院、地球環境科学研究院)
ⓖ 環境省北海道地方環境事務所 担当:安田
TEL : 011-299-1952 E-mail : REO-HOKKAIDO@env.go.jp

## 6 11月2日(月)

サステナビリティ・ウィーク2009オープニングシンポジウム

### 北海道大学「持続可能な開発」国際シンポジウム ～持続可能なグローバル社会に向けた5課題解決への提言～

ⓐ 北海道大学は2005年に「持続可能な開発」国際戦略本部を設置し、社会と環境の持続可能性に係る5領域の研究を強力にサポートしてきました。これら ①地球温暖化 ②感染症対策 ③水の統合的管理 ④循環型社会の構築 ⑤食糧・森林の安定的確保の領域では、すでに多くの研究成果が産まれています。そこで、これまでに培った科学的知見を活かし、**科学者が地球規模の課題解決に向けた新たな社会の枠組みについて提言します。**
また、「第1回学生研究ポスターコンテスト」を開催し、学生が今取り組んでいる持続可能な未来をつくる研究について発表します。この中から第1回北海道大学サステナビリティ研究ポスター賞が選抜されます。
最新の研究成果が、どのように社会の変革に貢献し得るのかについて関心のある学生・市民・行政関係者・研究者の来場をお待ちしています。

**北海道大学の6つの提言**

- 人獣共通感染症克服の鍵はグローバルサーベイランス:インフルエンザを例に
- 水の国際開発援助に対する日本のイニシアチブ
- 世界の工場である日中韓の協働こそが低炭素社会と循環型社会を実現
- 食料とエネルギーの自給による北海道の自立
- オホーツク海の未来可能性に向けた国際コンソーシアム構築
- 持続可能な社会づくりを担う高等教育機関のイニシアチブ

ⓑ 北海道大学 学術交流会館 講堂 9:00-18:00
ⓒ 日本語 / 英語(通訳有り)
ⓓ 必要(無料) 申し込みはメール、電話またはウェブサイトにて受け付けています。
http://www.sustain.hokudai.ac.jp/sw2009/jp/event/opening
ⓔ 北海道大学
ⓖ 北海道大学「持続可能な開発」国際戦略本部
TEL: 011-706-2093 E-mail : office1@sustain.hokudai.ac.jp

**北大生へ** 参加したい行事が授業と重なってしまった場合、担当教員に相談しましょう。
詳しくは:http://www.sustain.hokudai.ac.jp/sw2009/jp/students

## 7 11月2日(月)

### 北大から世界へ! ～国際キャリアパスの入口へ～

ⓐ 北海道大学は、世界24カ国70校以上の大学と協定を結び、学生の留学や教員の国際交流のサポートをしています。今回、サステナビリティ・ウィーク2009を機に、北海道大学の学生を受け入れたいと熱心に考えている協定校の代表者が来学し、それぞれの魅力を紹介する特別な機会を用意することになりました。将来留学を考えている人、海外になんとなく興味がある人、卒業したら海外で仕事をしたいと考えている人、そんな皆さんにとって貴重な情報収集の機会です。ぜひご来場ください!
参加大学(予定):ポートランド州立大学(アメリカ)、パリ工業物理化学高等専門大学(フランス)、トリノ工科大学(イタリア)、浙江大学(中国)、釜慶大学校(韓国)、エボニ州立大学(ナイジェリア)、ナイジェリア大学(ナイジェリア)等

ⓑ 北海道大学 学術交流会館 第一会議室 14:30-16:30
ⓒ 日本語 / 英語
ⓓ 不要(無料)
ⓔ 北海道大学国際交流室
ⓖ 北海道大学学術国際部留学交流課 担当:河野
TEL : 011-706-2182 E-mail : ryugaku@academic.hokudai.ac.jp

## 8 11月2日(月)～14日(土)

### 第4回 結～yui～プレゼンツ フェアトレードフェア

ⓐ 現在私たちの身の回りに溢れている安価な商品の中には、開発途上国における生産者の犠牲の上に成り立っているものも少なくありません。私たちは、フェアトレードフェアを開催することで「買い物」という日常の行動が世界と身近につながっているということを一人でも多くの方に実感していただければと考えています。
期間中は特設ブースにおいて世界各国で生産されたおしゃれなフェアトレード雑貨やクッキー、紅茶などの販売とパネルによるフェアトレードの紹介、11月10日には結主催の勉強会を行います。普段なかなか目にすることのないフェアトレードに触れる絶好の機会、是非一度足をお運びください。
※フェアトレードとは、開発途上国の生産者と先進国との持続可能で公平な貿易のことを指します。

ⓑ フェア:北大生協会館店 平日 9:00-19:00、土曜日 10:00-16:00、日曜は休日
勉強会:11月10日 会場未定
ⓒ フェアは日・英併記、勉強会の使用言語については未定 ⓓ 不要(無料)
ⓔ 国際協力学生団体「結～yui」 ⓕ 北海道大学生活協同組合
ⓖ 国際協力学生団体「結～yui」
E-mail : yui.international.cooperation@gmail.com

北大学生企画

## 9 11月3日(火・祝)

### ジョイントシンポジウム「都市化と健康 ～2010年の世界保健デーに向けて～」

ⓐ 世界の人口の三分の一以上は都市に住んでおり、今でも、世界的に都市化は急速に進行しています。しかしながら、都市化は健康に必ずしもよい方向で進んでいるわけではありません。
本シンポジウムでは、2010年4月7日の世界保健デーのプレ会議と位置づけ、世界の都市化の現状とそれに伴う健康問題、健康格差などについて、総合的に検討いたします。WHOを初め世界の専門化および都市計画担当者が札幌に集います。この機会に、世界の「都市化と健康」について関心のある人はぜひご参加ください。お待ちしております。

ⓑ 北海道大学 学術交流会館 講堂 13:00-17:00
ⓒ 日本語 / 英語(一部通訳有り)
ⓓ 必要 (無料) ※開催1ヶ月前からウェブサイトにて受付予定。
ⓔ 北海道大学大学院医学研究科国際保健医学分野
ⓕ 世界保健機関神戸センター、ジュネーブ大学
ⓖ 北海道大学医学研究科 TEL : 011-706-5051 FAX : 011-706-7374
E-mail : tamashiro@med.hokudai.ac.jp

## 10 11月3日(火・祝)

### 国連大学グローバル・セミナー 北海道最終記念セッション 持続可能な社会の担い手となるために
#### —2015年までに国際社会が達成すべきミレニアム開発目標の現状を知る—

ⓐ 国連大学グローバルセミナーは、国連の役割や人類が直面している地球規模の問題について、学生や社会人に関心と問題意識を持ってもらうことを目的としています。今回の北海道セッションは、21世紀の国際社会が喫緊に取り組むべき人類の課題である「ミレニアム開発目標(MDGs)」の達成状況を知る機会、さらにMDGsと自分の将来のキャリア・プランとの関わりを考える機会を提供します。MDGsは2000年に目標が掲げられ、2015年の達成に向けて取り組み期間の半分を過ぎました。MDGsの達成は、持続可能な社会の実現に向けた試金石であるとの認識の下、あらためてこの目標に注目します。

ⓑ 北海道大学 学術交流会館 第一会議室 10:00-17:00
ⓒ 日本語 (一部英語の可能性あり)
ⓓ 必要(無料) 申込み用紙をウェブサイトからダウンロードし、指定先へお送りください。
http://www.sustain.hokudai.ac.jp/sw2009/jp
ⓔ 国際連合大学
ⓕ 北海道大学
協力大学:北海道教育大学、小樽商科大学、北海学園大学、北星学園大学
ⓖ 北海道大学「持続可能な開発」国際戦略本部
TEL : 011-706-2334 E-mail : g-seminar@sustain.hokudai.ac.jp

## 11 11月3日(火・祝)

### 第2回センチネル・アース国際シンポジウム
#### — 市民向け講座 —

ⓐ 地球温暖化に伴う気候・環境異変が近年重要な研究テーマとなっています。特にその具体的な現象は、様々な環境・気候要因が絶妙なバランスで成り立っている、地球の極限的な地域、すなわち極地で現れやすくなっています。極地の一つである北極圏に関する環境・気候変動を、長期間にわたり衛星観測研究してきた成果について、市民向けの講演を行います。

ⓑ 北海道大学 学術交流会館 小講堂 13:00-16:00
ⓒ 日本語
ⓓ 不要(無料)
ⓔ 北海道大学、アジア工科大学、アラスカ大学、パランカラヤ大学、宇宙航空研究開発機構
ⓕ 北海道大学情報科学研究科、工学研究科、農学研究院、理学研究院、地球環境科学研究院、水産科学研究院、低温科学研究所、宇宙理工学推進室 リモートセンシング・GIS分科会、(財)リモート・センシング技術センター、(財)札幌国際プラザ
ⓖ 北海道大学情報科学研究科
FAX : 011-706-6295 E-mail : ishige@scc.ist.hokudai.ac.jp

## 12 11月4日(水)～13日(金) ※11月9日(月)は休館日となります。

### 実験展示:統合科学が解明する「洞爺湖・有珠火山地域の過去と未来」

ⓐ 人類社会の持続可能性が問われている今日、北海道大学が長く持続するためには何が必要か？その答えの一つは統合科学である。個別の研究をある方向で統合すると、新しい研究の切り口、埋もれていた成果、思いがけない応用、将来の方向等々が見えてくる。北大が「研究者の寄せ集め場」であることを脱し、そのような「統合の場」として機能すれば、社会の持続を支える者としての北大の持続性が保証される。本企画は、「北大統合科学」をパッケージとして展開するための最初の試みとして、「有珠洞爺湖地域の過去と未来」をテーマに、様々な分野の研究を展示すると共に、研究者、学生、市民がコーヒーカップ片手にフリートークを行い、学問統合から何が見えてくるかを議論します。

ⓑ 北海道大学 総合博物館 10:00-16:00
ⓒ 日本語
ⓓ 不要(無料)
ⓔ 北海道大学総合博物館
ⓕ 北海道大学統合科学コンソーシアム
ⓖ 北海道大学理学研究院自然史科学部門
FAX : 011-746-0862 E-mail : shunfm@sci.hokudai.ac.jp

## 13 11月4日(水)～5日(木)

### 国際シンポジウム「持続可能な低炭素社会を目指して ～グリーン・ニューディールとグローバルチェンジ～」

ⓐ 持続可能な社会に向け、社会科学的知見と自然科学的知見から議論を行います。

**第1部:グリーン・ニューディール 11月4日(水) 9:30～18:00**
環境危機と金融経済危機を統合的に解決しようとする取り組みが、米国のオバマ大統領のグリーン・ニューディールをはじめ世界中で始まっています。中国、EU、日本、韓国、米国といった国レベルの施策を中心に、グローバルレベルさらには地域レベルの取り組みについても、科学的に比較検討して評価を行います。

**第2部:グローバルチェンジ 11月5日(木) 9:30～19:00**
地球温暖化と生態系が正のフィードバックを生み出すと、生物資源に大きな打撃があることを提示します。さらに、極域海氷の減少といった環境変化の情報ならびに、これら環境変化が人間社会に与えるインパクトの情報を、どのように開示すれば市民が有効に役立てることができるのかについて示唆します。

ⓑ 北海道大学 学術交流会館 講堂
ⓒ 日本語 / 英語 (通訳有り)
ⓓ 不要(無料)
ⓔ 北海道大学「持続可能な低炭素社会づくり」プロジェクトチーム
ⓕ 北海道大学公共政策学連携研究部、地球環境科学研究院
ⓖ 北海道大学「持続可能な低炭素社会づくり」プロジェクトチーム
TEL : 011-706-4717 E-mail : low-carbon@hops.hokudai.ac.jp

## 14 11月4日(水)～5日(木)

### 第2回センチネル・アース国際シンポジウム
#### —衛星データ・衛星画像データの高度利用研究—

ⓐ 近年、気候異変が地球環境へ及ぼす影響に関する研究が重要となってきています。様々な研究分野を統合するための学際的な解決策に、衛星データ・衛星画像データを利用することが挙げられます。本シンポジウムでは、次の3つのセッションにおいて、最新の利用成果について報告します。

1. **大気・海洋観測への利用**
【内容】宇宙からの大気・海洋観測の最前線の研究・利用を紹介。
2. **災害観測・農(林)業・(地図)への利用**
【内容】人工衛星データを用いた災害状況把握や農業利用の実例を紹介。
3. **陸域・雪氷環境観測への利用**
【内容】主に陸域・雪氷研究への衛星データ利用例を紹介。

ⓑ 北海道大学 学術交流会館 小講堂 9:30-17:00
ⓒ 英語
ⓓ 不要(無料)
ⓔ 北海道大学、アジア工科大学、アラスカ大学、パランカラヤ大学、宇宙航空研究開発機構
ⓕ 北海道大学情報科学研究科、工学研究科、農学研究院、理学研究院、地球環境科学研究院、水産科学研究院、低温科学研究所、宇宙理工学推進室 リモートセンシング・GIS分科会、(財)リモート・センシング技術センター、(財)札幌国際プラザ
ⓖ 北海道大学情報科学研究科 FAX : 011-706-6295 E-mail : ishige@scc.ist.hokudai.ac.jp

## 15 11月6日(金)

### 国際シンポジウム「気候変動による地域固有システムへの影響」

ⓐ IPCC第4次報告書に見られるように、地球温暖化による気候変化・生態系へのグローバルな影響などの将来像が明らかになってきました。一方、それぞれの地域には、固有の水循環・生態系などの地域固有システムが存在し、それらに対する、グローバルな気候変化がローカルな人間活動とともにどのように影響するかは必ずしも明らかではありません。本シンポジウムは、国内外のグローバルな気候変動・生態系変動の専門家とともに、ローカルな視点で地域固有システムのサステイナビリティを議論し、研究・実践などの提言をまとめていくことを目的とします。

ⓑ 北海道大学 学術交流会館 講堂 10:00 -17:00
ⓒ 英語(通訳無し)
ⓓ 不要(無料)
ⓔ 北海道大学グローバルCOE "統合フィールド環境科学の教育研究拠点形成"
ⓖ 北海道大学環境科学事務部グローバルCOEユニット
TEL : 011-706-4861 E-mail : gcoe@ees.hokudai.ac.jp

## 16 11月6日(金)

### 第2回 セラミド研究会 学術集会

ⓐ 私達の体の健康維持に細胞の脂質成分であるセラミドのかかわりが、癌、神経、皮膚などの組織で重要な働きをしていることがわかってきました。本研究会では、国内外の研究者(アカデミックと企業)による講演、ポスター発表を中心にして、セラミド研究の進展の交流をはかり、又、北海道バイオクラスター(さっぽろBio-S)の事業展開の一助となることを期待しています。

ⓑ 北海道大学　学術交流会館　小講堂、ホール
9:30-18:00 ※時間は変更になる可能性があります。

ⓒ 日本語 / 英語(通訳無し)

ⓓ 必要(有料)※詳細はウェブサイトをご覧ください。
http://www.ceramide.gr.jp/meeting/

ⓔ セラミド研究会事務局

ⓕ 文部科学省　知的クラスター創成事業
北海道大学大学院先端生命科学研究院次世代ポストゲノム研究センター

ⓖ セラミド研究会事務局
FAX : 011-706-9024　E-mail : info@ceramide.gr.jp

## 17 11月7日(土)

### 国際シンポジウム「明日の海と食を守る水産海洋サステナビリティ学」

ⓐ 水産資源は、人類にとって再生可能なサステナブルな資源のはずですが、前世紀末から乱獲による漁業資源の減少や養殖による沿岸生態系の攪乱と食品安全性への不安という種々の課題を呈するようになってきました。本シンポジウムでは、海洋生態系と水産食料に関する世代間を越えてニーズを満足させる「世代間衡平性」を確実なものとする「明日の海と食を守る」ため、国際的な協調に向けた環太平洋の研究教育ネットワークの構築を模索することを目的としています。
カナダのブリテッシュ・コロンビア大学Fisheries Center所長のU.R.Sumaila教授、韓国の釜慶大学Chang Ik Zhang教授をはじめ、インドネシアおよび中国等の環太平洋国の研究者が参加します。

ⓑ 北海道大学 函館キャンパス マリンサイエンス創成研究棟1F 10:00 -17:00

ⓒ 英語 ⓓ 不要(無料)

ⓔ 北海道大学水産科学研究院

ⓕ 日本学術会議

ⓖ 北海道大学水産科学研究院　担当：帰山　TEL : 0138-40-5605

## 18 11月7日(土)

### 地球交響曲―ガイアシンフォニー―第五番 上映会 & 龍村仁監督特別講演会

ⓐ 映画「地球交響曲―ガイアシンフォニー―」は科学・スポーツ・音楽など様々な分野で活躍する人々に注目し、地球や自然、環境をテーマに彼らの生き方、考え方を捉えたドキュメンタリー映画シリーズです。「地球交響曲　第五番」にはアーヴィン・ラズロ(哲学者、物理学者、音楽家)、石垣昭子(草木染織家)らが出演します。特別講演会には「地球交響曲」監督の龍村仁氏をお迎えし、作品にこめられた人や自然の叡智について語っていただきます。生き方を創造するための"ヒント"を賢人達から感じてください。

ⓑ クラーク会館 講堂 [映画上映]午前の部 10:00-12:15、午後の部 13:00-15:15、夕方の部 17:15-19:30 [監督特別講演会]15:30-17:00 [懇親会]20:30～

ⓒ 日本語

ⓓ 必要(無料) 電話またはメールで、代表(新井)または副代表(伊藤)までご連絡ください。
申込期間：9月15日から11月7日まで。

ⓔ 北大ガイアプロジェクト

ⓖ 北大ガイアプロジェクト
TEL : 080-5592-9735(代表 新井)、090-1532-3279(副代表 伊藤)
E-mail : hokudaigaia@gmail.com

北大学生企画

## 19 11月7日(土)～8日(日)

### 国際シンポジウム「オホーツク海の環境保全に向けた日中露の取り組みにむけて」

ⓐ オホーツク海および隣接する親潮域は、世界でもまれにみる豊かな海域です。近年、これらの海域に与えるアムール川(中国名：黒龍江)の二つの影響が明らかとなりました。一つは、アムール川を起源とする溶存鉄がオホーツク海や隣接する親潮域の基礎生産に果たす役割であり、もう一つはアムール川流域で排出される種々の汚染物質がオホーツク海に及ぼす可能性です。オホーツク海や親潮域の自然環境を保全するためには、隣接するアムール川流域を同時に保全する必要があります。本シンポジウムでは、日中露の三カ国の研究者による討論を通じ、この陸域・海域の環境保全に向けた国際協力のあり方を議論します(同時通訳付)。

ⓑ 北海道大学 学術交流会館 第一会議室 11月7日 9:15-18:00、11月8日 8:30-19:00

ⓒ 日本語 / 中国語 / ロシア語(通訳有り)

ⓓ 不要(無料)

ⓔ 北海道大学低温科学研究所　環オホーツク観測研究センター、北海道大学スラブ研究センター、総合地球環境学研究所、北見工業大学未利用エネルギー研究センター、国土交通省北海道開発局、国際科学技術センター、北海道大学「持続可能な開発」国際戦略本部

ⓕ 文部科学省

ⓖ 北海道大学低温科学研究所 環オホーツク観測研究センター シンポジウム事務局
FAX : 011-706-7142　E-mail : ao-symposium@lowtem.hokudai.ac.jp

## 20 11月8日(日)

### 実験展示：Let's サイエンス!!

ⓐ 北水サイエンスアシストは、水産科学院の大学院生による組織であり、中高生や一般市民に理科の面白さを伝え広めるため、函館近郊の中学校や高校に実験器具を持ち込み、様々な科学イベントを行っています。今回は、海洋観測の手段や生物多様性に関する研究を分かりやすくまとめたパネルを展示し、併せてこれまでの活動の紹介や、一緒に手を動かして実験出来る特設ブースを設ける予定です。

ⓑ 北海道大学水産科学研究院構内　10:00-15:00

ⓒ 日本語

ⓓ 不要(無料)

ⓔ 北水サイエンスアシスト

ⓖ 北水サイエンスアシスト　担当：小倉
TEL : 090-6664-2629　E-mail : jitennsya-kogu@fish.hokudai.ac.jp

北大学生企画

## 21 11月9日(月)～10日(火)

### 国際シンポジウム「低温科学のフロンティア」

ⓐ 北海道大学低温科学研究所のテーマである「寒冷圏及び低温条件下における科学現象の基礎と応用」に関して、国内外の研究者を招待し、所内研究者とともに、研究の現状と今後の展望について話し合うことを目的として開催します。本シンポジウムでは「水・物質循環」、「雪氷新領域」、「生物環境」、「環オホーツク圏」の4つのセッションを企画しています。

ⓑ 北海道大学 低温科学研究所 講堂
11月9日 10:00-17:30、11月10日 9:30-18:30

ⓒ 英語(通訳無し)

ⓓ 不要(無料)

ⓔ 北海道大学低温科学研究所

ⓖ 北海道大学低温科学研究所
FAX : 011-706-7142
E-mail : symposium@lowtem.hokudai.ac.jp

## 22 11月12日(木)

### 産学官セミナー「地理空間情報が拓く未来」

ⓐ 新しいデジタル地図として『地理空間情報』が日本全国で整えられつつあり、『地理情報システム(GIS)』や『衛星測位』の技術とともに活用することで、新しい社会を築こうとする動きが活発になっています。
そこで、企業、大学、官庁における地理空間情報の活用を、わかりやすく解説します。特に、北海道の代表的産業である農業と水産業や、自然環境の維持管理に関する地理空間情報の活用に関して、最新の動向をお話しします。
「最新の地図の科学を勉強してみたい」という皆様のご参加をお待ちしています。

ⓑ 北海道大学 学術交流会館 講堂 13:00-17:00
ⓒ 日本語 ⓓ 不要(無料)
ⓔ 特定非営利活動法人Digital北海道研究会、国土地理院北海道地方測量部、北海道大学大学院水産科学研究院、北海道大学大学院文学研究科
ⓕ GIS学会北海道地方事務局、北海道GIS・GPS研究会
ⓖ 文学研究科地域システム科学講座 担当：橋本
TEL : 011-706-5555 E-mail : you@chiri.let.hokudai.ac.jp

## 23 11月12日(木)

### 国際シンポジウム「持続的アジア社会構築に向けた日中の総合的大学間協力」

ⓐ 北海道大学と立命館大学はサステイナビリティ学の創成と、その研究・教育を行うために、それぞれ独自にサステイナビリティ学の研究・教育を行うセンターを大学内に立ち上げてきました。 昨今の世界状況から、世界の持続的な発展にはアジア地域、特に中国と日本の連携が多くの分野で欠かせません。
本シンポジウムでは、持続的アジア構築に向けて、日本の大学が今後どの様に中国と連携をしていくべきかを探ります。

ⓑ 北海道大学 学術交流会館 第一会議室 13:00-17:30
ⓒ 日本語 / 中国語(通訳有り)
ⓓ 不要(無料)
ⓔ 北海道大学サステイナビリティ学教育研究センター
ⓕ 立命館大学サステイナビリティ学研究センター、北海道大学SGP
ⓖ 北海道大学サステイナビリティ学教育研究センター
TEL : 011-706-4530 E-mail : jimu@census.hokudai.ac.jp

## 24 11月13日(金)

### シンポジウム「アジア・アフリカ開発援助と北海道大学」

ⓐ 昨年は新JICA(旧JICAとJBICが統合)が発足し、JICA研究所を新たに立ち上げて、多くの国際協力の分野での研究と人材育成を進めていくことにしています。 本シンポジウムでは持続性の研究・教育を行っている北海道大学サステイナビリティ学教育研究センターと新JICA(JICA研究所)の連携による新たな国際協力の方向性や人材育成への役割等を議論します。

ⓑ 北海道大学 学術交流会館 第一会議室 13:00-17:30
ⓒ 日本語 / 英語(通訳無し)
ⓓ 不要(無料)
ⓔ 北海道大学サステイナビリティ学教育研究センター
ⓕ 北海道大学SGP
ⓖ 北海道大学サステイナビリティ学教育研究センター
TEL : 011-706-4530 E-mail : jimu@census.hokudai.ac.jp

## 25 11月13日(金)

### シンポジウム「サステナビリティな産学連携を求めて —イタリアCity State トリノの取り組みからのメッセージ—」

ⓐ イタリア共和国ピエモンテ州の州都トリノ市における産学間の協力な連携は、大学と産業界が一体となった中世都市国家からの伝統があってなせるものです。
連携を強固にしている鍵は、①地域経済との密接な関係、②しっかりとした金融資本がバックにいること、③地域繁栄のための迅速な意思決定システムと人脈の3つといえます。これらはとりも直さず、効果的な産学連携のスキームであり、我々がサステナブルな社会、これを支える産学連携のあり方を考えるうえで示唆に富む事例であると考えます。
本シンポジウムでは、トリノ市における、情報分野を中心とした現在及び将来に向けた取り組みについて、その中心的な役割を果たすトリノ工科大学から講師を招いて紹介していただきます。また、本学や北海道における産学連携の視点からのサステナブルな社会に向けての取り組みについて紹介します。

ⓑ 北海道大学 学術交流会館 小講堂 13:00-17:30
ⓒ 日本語 / 英語(通訳有り) ⓓ 不要(無料)
ⓔ 北海道大学(産学連携本部、情報科学研究科、「持続可能な開発」国際戦略部)
トリノ工科大学
ⓖ 北海道大学 産学連携本部 担当：山口
TEL : 011-706-9556 E-mail : yamaguchi@mcip.hokudai.ac.jp

## 26 11月14日(土)

### シンポジウム「石油ピーク後の日本と北海道のあり方を考える」

ⓐ エネルギー資源については、量ではなく、質の問題として捉えて議論することが必要です。本シンポジウムは、そのための指標としてエネルギー利得率の利用の普及を図っている「もったいない学会」と共同で、エネルギー制約の観点から世界、日本、北海道のあるべき将来像へのビジョンを明らかにすることを目的としています。多くの一般市民の参加を得て、正しい将来設計のあり方を議論します。

ⓑ 北海道大学 クラーク会館 講堂 13:00-17:30
ⓒ 日本語
ⓓ 不要(無料)
ⓔ 北海道大学サステイナビリティ学教育研究センター
ⓕ もったいない学会、北海道大学SGP
ⓖ 北海道大学サステイナビリティ学教育研究センター
TEL : 011-706-4530
E-mail : jimu@census.hokudai.ac.jp

## 27 11月14日(土)

### 市民向け講座「日韓における農業からみた低炭素社会の展望」

ⓐ 持続可能な低炭素社会を実現するために、農林バイオマスの循環利用と持続的農業技術について、日本と韓国の現状と将来の展望について、市民と学生を対象としたフォーラムを開催します。
バイオエネルギーや持続的農業に関心をお持ちの方の参加をお待ちしております。

ⓑ 北海道大学 学術交流会館 第一会議室 13:00-16:00
ⓒ 日本語 / 英語(通訳有り)
ⓓ 不要(無料)
ⓔ 北海道大学農学研究院
ⓖ 北海道大学農学研究院事務部 研究協力担当：奴賀(ぬか)
E-mail : shomu@agr.hokudai.ac.jp

※掲載されている情報は変更になる場合がございます。最新の情報はウェブサイトにて公開しています。 http://www.sustain.hokudai.ac.jp/sw2009/jp/

## 28 11月14日(土)

### 意見交換会
### 「地球に優しい社会へ向けた大学→市民の協働」

ⓐ 地球温暖化を防ぐための低炭素社会づくりといったグローバルな取り組み、身近な自然環境やゴミ問題といったローカルな取り組み、など多様な環境問題が存在しています。大学と市民は、調和的な解決に向けて協働して取り組む必要がありますが、これまで大学から一方向的な情報発信が多かったと思います。本イベントは、環境団体の皆さんとの討論形式(サイエンスカフェ形式)によって、「大学が"地球に優しい社会づくり"にどういう役割を果たせるか？」を問う予定です。環境に関する市民と大学の新たな連携を考えることやそれを実行に移すことに興味のある方の参加をお待ちしております。

ⓑ 北海道環境サポートセンター(札幌市中央区北4条西4丁目1 伊藤・加藤ビル4階) 18:00-19:30
ⓒ 日本語
ⓓ 必要(無料)※申し込みは下記ウェブサイトをご覧ください。
http://gcoe.ees.hokudai.ac.jp/reo
ⓔ 北海道大学グローバルCOE "統合フィールド環境科学の教育研究拠点形成"
ⓕ 財団法人 北海道環境財団
ⓖ 北海道大学グローバルCOE 環境教育研究交流推進室 担当：吉村
TEL : 011-706-3355 E-mail : ynobu14001@ees.hokudai.ac.jp

## 29 11月14日(土)～15日(日)

### CCC「世界の子どもをつなぐ教室」報告会
### ～カンボジア・インドと日本をつなぐ「青春の手紙」～

ⓐ 紛争から立ち直ろうとするカンボジアの若者、児童労働から回復しようとするインドの若者、そして青春まっただなかの札幌の高校生が、この夏、手紙を通じて交流をしました。カンボジア・インドからの手紙に記された「夢」そして「大切なもの」とは･･･？学生団体CCCが主催する「世界の子どもをつなぐ教室」プログラムの様子を、ゴミ山の子どもたち(カンボジア)、児童労働の現場(インド)での貴重なインタビュー映像と共にお伝えします。

☆11月14日(土)：カンボジア報告会、特別WS①「ゴミ山の子ども達に返事を書こう」
☆11月15日(日)：インド報告会、特別WS②「児童労働に関するワークショップ(予定)」
※特別ワークショップ、児童労働リハビリ施設の商品販売も致します。

ⓑ 北海道大学 学術交流会館 第2会議室
展示・販売 10:00～18:00、報告会 13:00～14:50、特別ワークショップ 15:00～16:30
ⓒ 日本語
ⓓ 特別ワークショップに参加希望の方は「氏名・電話番号・希望ワークショップ」を前日までにexchange.ccc@gmail.comまでお申し込みください(飛び入り可)。
ⓔ 世界の子どもをつなぐ教室(CCC)
ⓖ 担当：大竹 TEL : 090-4178-2402 E-mail : exchange.ccc@gmail.com

北大学生企画

## 30 11月15日(日)

### 国際シンポジウム「先住民族と自然資源
### ―持続的資源利用の視点から―」

ⓐ 自然環境保全のためには資源の持続的利用が重要ですが、先住民族の知識の中には、環境との長い対話によって培われてきた資源管理に関する多くのヒントが凝縮されています。本シンポジウムでは、本学と学術協定を締結しているオークランド大学の研究者等を迎え、ニュージーランドの先住民族マオリによる資源管理、およびエコツーリズムなどの自然資源の新たな活用法についてお話しいただき、日本の先住民族アイヌの人々の知識を活かす資源管理の在り方について議論する予定です。環境保全と先住民族について関心のある方々の参加をお待ちしております。

ⓑ 北海道大学 学術交流会館 小講堂 10:00-17:00
ⓒ 日本語 / 英語 (通訳有り)
ⓓ 不要(無料)
ⓔ 北海道大学文学研究科
ⓕ 北海道大学アイヌ・先住民研究センター
ⓖ 北海道大学文学研究科・地域システム科学講座 担当：池田
TEL : 011-706-4163 E-mail : tikeda@let.hokudai.ac.jp

## 31 11月15日(日)

### 国際シンポジウム「持続可能な社会の
### 発展と専門職業人の使命」

ⓐ 専門職業人は、高度な知識と技能をもって社会に貢献し、それゆえまた権威と自律を認められてきました。しかし、社会構造や市民意識の変化につれて、専門職のイメージも大きく変わりつつあります。本シンポジウムでは、現代のグローバル化した社会における専門職業人の社会的責任、持続可能な社会の発展のために専門職業人の果たすべき役割などについて幅広く検討します。学内外、研究者・学生・一般を問わず、専門職業人の倫理について関心のある方々の参加をお待ちしております。

ⓑ 北海道大学 学術交流会館 第一会議室 13:00 -17:00
ⓒ 英語(通訳無し)
ⓓ 不要(無料)
ⓔ 北海道大学文学研究科・応用倫理研究教育センター
ⓖ 北海道大学文学研究科・応用倫理研究教育センター
TEL : 011-706-4088 E-mail : caep@let.hokudai.ac.jp

## 32 11月16日(月)～18日(水)

### 北方圏の環境研究に関する
### 日本-フィンランド共同研究セミナー

ⓐ 温暖化により急激に変化する北方圏の環境！
北海道とフィンランドが連携して取り組む雪氷寒冷環境の最新の研究プロジェクト、若手研究者育成国際プログラムを紹介します。雪氷寒冷圏の環境に興味がある学生、若手研究者の参加大歓迎！！

ⓑ 北海道大学 学術交流会館 第一会議室他
11月16日-17日 9:00-17:30
11月18日 9:00-12:00
ⓒ 英語(通訳無し)
ⓓ 不要(無料)
ⓔ 北海道大学低温科学研究所
ⓕ 北海道大学農学研究院、環境科学院、北方生物圏フィールド科学センター、ヘルシンキ大学、オウル大学、ラップランド大学北極センター、フィンランドセンター
ⓖ 北海道大学低温科学研究所 担当：白澤
TEL : 011-706-5425 E-mail : kunio@lowtem.hokudai.ac.jp

## 33 12月7日(月)～9日(水) 【ポスト企画】

### 北海道大学触媒化学研究センター
### 20周年記念国際シンポジウム

ⓐ 北海道大学触媒化学研究センターの発足20周年を記念して、記念講演会及び国際シンポジウムを3日間にわたり開催します。これまで資源・エネルギー・環境・物質の科学技術に対して触媒が貢献してきた歴史を振り返るとともに、科学技術の最先端とその次代を展望し、サステナブル触媒の重要な役割について議論します。

12月7日：記念講演会および記念式典 12:00-18:00
12月8日：国際シンポジウム 9:00-17:00
Catalysts and functional materials for energy conversion
12月9日：国際シンポジウム 9:00-13:00
Well defined surface structure for precise reaction control

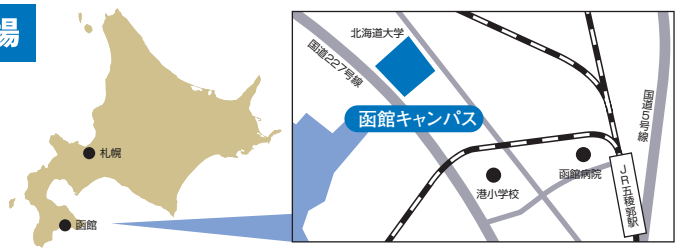
ⓑ 北海道大学 学術交流会館 講堂
ⓒ 日本語 / 英語(通訳無し) ⓓ 不要(無料)
ⓔ 北海道大学触媒化学研究センター
ⓕ 北海道大学GCOE、触媒学会、日本化学会北海道支部、JPIJS北海道東北地区、電気化学会北海道支部
ⓖ 北海道大学触媒化学研究センター 上田研究室
TEL : 011-706-9162 FAX : 011-706-9163 E-mail : sakura@cat.hokudai.ac.jp

※掲載されている情報は変更になる場合がございます。最新の情報はウェブサイトにて公開しています。 http://www.sustain.hokudai.ac.jp/sw2009/jp/

# 会　場　案　内　図

## 札幌会場

## 函館会場




## イベントカレンダー

| | |
|---|---|
| 11/1[日] | 5 北大映画館×北大低炭素PT×環境省　地球温暖化政策セミナー |
| 11/2[月] | 6 サステナビリティ・ウィーク2009オープニングシンポジウム<br>3 学生提言『グリーン・ニューディール』最終発表<br>7 北大から世界へ!～国際キャリアパスの入口へ～ |
| 11/3[火・祝] | 9 ジョイントシンポジウム<br>「都市化と健康～2010年の世界保健デーに向けて～」<br>10 国連大学グローバル・セミナー 北海道最終記念セッション<br>11 第2回センチネル・アース国際シンポジウム―市民向け講座― |
| 11/4[水] | 13 国際シンポジウム「持続可能な低炭素社会を目指して<br>～グリーン・ニューディールとグローバルチェンジ～」<br>14 第2回センチネル・アース国際シンポジウム<br>―衛星データ・衛星画像データの高度利用研究― |
| 11/5[木] | 13 国際シンポジウム「持続可能な低炭素社会を目指して<br>～グリーン・ニューディールとグローバルチェンジ～」<br>14 第2回センチネル・アース国際シンポジウム<br>―衛星データ・衛星画像データの高度利用研究― |
| 11/6[金] | 15 国際シンポジウム「気候変動による地域固有システムへの影響」<br>16 第2回 セラミド研究会 学術集会 |
| 11/7[土] | 17 国際シンポジウム<br>「明日の海と食を守る水産海洋サステナビリティ学」<br>18 地球交響曲 ―ガイアシンフォニー ― 第五番<br>上映会 & 龍村仁監督特別講演会<br>19 国際シンポジウム<br>「オホーツク海の環境保全に向けた日中露の取り組みにむけて」 |
| 11/8[日] | 19 国際シンポジウム<br>「オホーツク海の環境保全に向けた日中露の取り組みにむけて」<br>20 実験展示:Let's サイエンス!! |
| 11/9[月] | 21 国際シンポジウム「低温科学のフロンティア」 |
| 11/10[火] | 21 国際シンポジウム「低温科学のフロンティア」 |
| 11/12[木] | 22 産学官セミナー「地理空間情報が拓く未来」<br>23 国際シンポジウム<br>「持続的アジア社会構築に向けた日中の総合的大学間協力」 |
| 11/13[金] | 24 シンポジウム「アジア・アフリカ開発援助と北海道大学」<br>25 シンポジウム「サステナビリティな産学連携を求めて<br>―イタリアCity State トリノの取り組みからのメッセージ―」 |
| 11/14[土] | 26 シンポジウム「石油ピーク後の日本と北海道のあり方を考える」<br>27 市民向け講座「日韓における農業からみた低炭素社会の展望」<br>28 意見交換会「地球に優しい社会へ向けた大学→市民の協働」<br>29 CCC「世界の子どもをつなぐ教室」報告会<br>～カンボジア・インドと日本をつなぐ「青春の手紙」～ |
| 11/15[日] | 29 CCC「世界の子どもをつなぐ教室」報告会<br>～カンボジア・インドと日本をつなぐ「青春の手紙」～<br>30 国際シンポジウム<br>「先住民族と自然資源―持続的資源利用の視点から―」<br>31 国際シンポジウム「持続可能な社会の発展と専門職業人の使命」 |
| 11/16[月] | 32 北方圏の環境研究に関する日本-フィンランド共同研究セミナー |
| 11/17[火] | 32 北方圏の環境研究に関する日本-フィンランド共同研究セミナー |
| 11/18[水] | 32 北方圏の環境研究に関する日本-フィンランド共同研究セミナー |

### ロング開催企画

| | |
|---|---|
| 11/2[月]-14[土] | 8 第4回 結～yui～プレゼンツ　フェアトレードフェア |
| 11/4[水]-13[金] | 12 実験展示:統合科学が解明する<br>「洞爺湖・有珠火山地域の過去と未来」 |

### プレ企画 & ポスト企画

| | |
|---|---|
| 10/4[日]-7[水] | 1 2009年アジア太平洋信号情報処理連合学会<br>アニュアルサミット・国際会議 |
| 10/11[日]-14[水] | 2 第9回物理探査学会国際シンポジウム |
| 10/24[土] | 3 学生提言『グリーン・ニューディール』<br>第6回ディベート大会 |
| 10/30[金]-11/3[火・祝] | 4 CLARK THEATER 2009 |
| 12/7[月]-9[水] | 33 北海道大学触媒化学研究センター<br>20周年記念国際シンポジウム |


## サステナビリティ・ウィーク2009 事務局

北海道大学「持続可能な開発」国際戦略本部

〒060-0808 北海道札幌市北区北８条西５丁目
電話:011-706-2093　FAX:011-706-2095　E-mail : office1@sustain.hokudai.ac.jp


■ 詳しい情報はウェブサイトで公開しています。

**http://www.sustain.hokudai.ac.jp/sw2009/jp/**

古紙配合率100%再生紙を使用しています。

2009年9月25日発行　第3版

## 総括

### サステナビリティ・ウィーク2009を振り返って

実行委員長 本堂武夫

ウィークは11月1日（日）に始まり，18日（水）までの約2週の間に28の企画が集中的に開催されました。当ウィーク前後に開催したプレ企画とポスト企画を合わせると，企画総数は33に及びます。今年の特徴は「多面的なアプローチ」と「具体的な課題の解決策の提示」そして「連携の深化」の3つでした。
ウィーク中に扱った課題は，気候・環境変動を筆頭に，技術革新，自然保護，健康，教育，人権と幅広く，それらの形態は国際シンポジウム，研究ポスターコンテスト，ディベート大会，市民向けの公開講座，展示，映画，カフェ，フェアトレードなど，テーマならびに手法両方で，多面的なアプローチが試みられました。

これらの手法を通じて，各企画では，持続可能な社会づくりに係わる具体的な課題が取り上げられて，最新の研究成果や活動成果にもとづく，解決への道筋が提示されました。その筆頭が，11月2日に開催されたオープニングシンポジウムでした。感染症拡大の阻止，水源の枯渇の回避，食料とエネルギーの確保，地球温暖化対策としての低炭素・循環型社会の構築，東アジアの生命線とでも言うべきオホーツク海とその流域の持続可能な開発，の5課題について，次世代のために今我々は何を為すべきかという視点で，先見性をもった次の一歩を提言しました。

それぞれの企画を支えたパートナーは，海外の協定大学をはじめ持続可能な社会づくりに熱心な国内外の大学，さらにはWHO，国連大学といった国際機関，学術会議や各種学会といった学術コミュニティー，NPO，そして文部科学省や環境省，国土交通省といった政府関係機関など，国内外のあらゆるセクターに広がりました。総勢6,500人もの参加者と協力者に支えられて，今年のウィークを終了することができました。

今回は特に，協定校との連携を深めるため，2009年4月にすべての協定校の学長へ招待状を出したところ，結果的に16ヶ国28大学から参加があり，各校のサステナビリティというテーマへの関心の高さが伺われました。中でも，アジア工科大学（タイ），オウル大学（フィンランド），パランカラヤ大学（インドネシア），トリノ工科大学（イタリア），デラサル大学（フィリピン），ジュネーブ大学（スイス），アラスカ大学（アメリカ）とは，ジョイント・シンポジウムの開催に至りました。これに加え，ポートランド州立大学の学長には，オープニングシンポジウムにて「サステナビリティ実現に向けた取り組みにおける都市大学の役割」と題して基調講演をいただきました。他にも，ナイジェリア大学から学長が，パリ工業物理化学高等専門大学，北京大学，トリノ工科大学から副学長が当ウィーク期間中の行事に参加するために来訪しました。これを期に，将来に向けて「サステナビリティ」に係る連携のさらなる深化を図るべく意見を交わしました。

また昨年の反省から，学生の参加促進に力を入れ，オープニングシンポジウム開催日（11月2日）に，「第1回北海道大学サステナビリティ学生研究ポスターコンテスト」を開催しました。このコンテストには，初めての試みにもかかわらず72件の参加があり，持続可能な社会づくりに関連する課題に取り組む学生が多数いることを改めて実感しました。これら力作は学内外の審査員によって審査され，「第1回北海道大学サステナビリティ研究ポスター賞」を選出し，その夜に授賞式を執り行いました。また，「北大元気プロジェクト」に採択された学生企画の中から5団体が，サステナビリティ・ウィークに参加するなど，昨年と比較して学生の参加は確実に増える結果となりました。

期間中に実施した参加者アンケートを拝見しますと，当ウィークが北海道大学の特徴的な行事として認められつつあること，そしてさらなる発展が期待されていることを読み取ることができます。来年のサステナビリティ・ウィーク2010は，10月25日（月）にオープニングを開催し，約2週間の日程で開催する予定です。今年の開催を通じて明らかになった運営上の問題点を解決しつつ，より多くの協力者と参加者を得て，具体的な課題解決に向けた議論と行動を醸成する場を提供したいと考えております。

# ２. 開催行事のウェブサイト

## 2009年アジア太平洋信号情報処理連合学会アニュアルサミット・国際会議

### 行事予定

| | |
|---|---|
| 講演資料のダウンロード | http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/39595<br>（北海道大学学術成果コレクションHUCAPへのリンク） |
| 開催期間 | 2009年10月4日（日）～7日（水）（終了しました） |
| 主催者 | 北海道大学大学院情報科学研究科グローバルCOEプログラム,<br>APSIPA ASC 2009 組織委員会 |
| 共催 | 北海道大学大学院情報科学研究科, 電子情報通信学会, 日本情報処理学会, Microsoft Research Asia, The Institute of Engineering, Singapore |
| 会場及び時間 | 10月4日 北海道大学 学術交流会館　9:30-17:30<br>10月5日～7日　札幌コンベンションセンター　9:30-18:00（最終日は午前のみ） |
| 言語：英語(通訳無し)　　対象：専門家・一般市民・学生 | |
| 行事概要 | 2009年アジア太平洋信号情報処理連合学会アニュアルサミット・国際会議（APSIPA ASC 2009）開催は、環境を配慮した信号・情報処理の技術開発や標準化を先導的に行う機会が増えることが期待でき、我が国の信号・情報処理分野に係わる産業の発展に寄与できるものと考えておりますまた本会議は、アジア太平洋地域の研究者、技術開発者ならび学生の国際学会発表や論文発表活動促進を図ることを目的とし、ポスターセッション、レクチャーセッション、フォーラム、パネルディスカッション、チュートリアルなど多岐に渡る企画を実施します。信号・情報処理分野に関心がある人のご参加を心よりお待ちしております。 |
| プログラム | プログラムの詳細は、APSIPA ASC 2009 ウェブサイトにてご確認いただけます。<br>http://www.gcoe.ist.hokudai.ac.jp/apsipa2009/ |
| 事前申し込み | APSIPA ASC 2009 ウェブサイトにて8月末まで受付予定<br>（http://www.knt.co.jp/ec/2009/apsipa/） |
| 参加費 | 有料：一般 50,000円、学生 20,000円<br>※7月末・8月末までに申込みの場合、それぞれ早期ディスカウント有り |
| 問い合わせ先 | 北海道大学情報科学研究科　担当：伊藤<br>TEL：011-706-6489<br>E-mail ito[at]icn.ist.hokudai.ac.jp |
| URL | APSIPA ASC 2009 ウェブサイト<br>http://www.gcoe.ist.hokudai.ac.jp/apsipa2009/ |

## 実施報告

アジア太平洋信号処理連合学会（APSIPA）は，信号処理論及び情報処理・通信に関する学問，技術の調査，研究及び知識の交換を行い，これにより学問，技術及び関連事業の振興に寄与することを目的として2009年4月に設立された学会です。事業として信号処理論及び情報処理・通信に関する講演会，討論会及び見学会等の開催，学術の調査研究，学問，技術の奨励及び普及事業，専門図書及び雑誌の刊行等を行う予定です。10月4日（日）から開催したAPSIPA ASC 2009は，APSIPA学会が主催する最初の国際会議であり，信号処理，情報処理技術，情報通信の最先端技術の報告とそれらに関する研究討論を行いました。これらのテーマは，今日の電気通信における技術開発，製品開発，社会・産業基盤の構築において必要不可欠なものであり，特に我が国の電気通信に係わる研究・技術者に対する研究発表の機会を提供し，技術調査や研究交流の場としてもその役割を果たしました。17カ国から約260名の参加者登録のあった会議であり，「信号処理・情報処理・情報通信」の分野における，多くの著名な研究者が集まり，研究成果を発表しました。2つのプレナリー・キーノート・スピーチ，6つのチュートリアルセッション，3つのパネルセッション，20の一般オーラルセッション，10のポスターセッションを，4日間で実施しており，最先端研究開発に関する有益な討論が実施されました。

パネルセッションの様子

ポスターセッションの様子

◆講演資料のダウンロード：http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/39595
（北海道大学学術成果コレクションHUCAPへのリンク）

# 第9回物理探査学会国際シンポジウム

## 行事予定

| | |
|---|---|
| 開催期間 | 2009年10月11日（日）～14日（水）（終了しました） |
| 主催者 | 物理探査学会 |
| 共催 | アメリカ物理探査学会 /ヨーロッパ物理探査学会/ オーストラリア物理探査学会/ 韓国物理探査学会/ ベトナム物理探査学会/ アメリカ環境工学物理探査学会/ 北海道大学理学研究院地震火山研究観測センター |
| 会場 | 北海道大学 学術交流会館（講堂、小講堂、第1会議室、ホール） |
| 言語：英語(一部通訳有り) | 対象：専門家・一般市民・大学生・高校生・小中学生 |
| 行事概要 | 物理探査は、これまで地下資源の開発に欠くことのできない技術として用いられてきました。近年、それらは大小の空間的スケールをもついろいろな分野における環境や社会、人間システムの持続性に関する課題に貢献することが期待されています。<br>第9回物理探査学会国際シンポジウムのテーマは、“地下のイメージングと解釈−持続可能な開発への科学技術”であり、未来の世代に対する人間活動と環境とのバランスを維持する課題に焦点を合わせたものです。<br>会期中、国内外の著名な研究者による学術講演会を行いますが、11日には青少年向け巡検、12日10:00～15:00には学術交流会館ホールにて一般市民向け講演会、展示も行います。 |
| 事前申し込み | ・市民参加行事は不要 ・学術講演会は必要。シンジウムウェブサイトにて8月15日まで受付ます。<br>http://www.segj.org/is/9th/<br>※当日受付も行います。 |
| 参加費 | ・市民参加行事は無料<br>・学術講演会は有料 一般 35,000円、学生 10,000円<br>※8月11日までに申込みの場合、早期ディスカウント有り |
| 問い合わせ先 | 物理探査学会・国際シンポジウム実行委員会<br>E-mail segj9th@segj.org<br>TEL： 011-706-4679 FAX: 011-738-5725 |
| URL | 第9回物理探査学会国際シンポジウム ウェブサイト<br>http://www.segj.org/is/9th/ |

## 実施報告

各種計測手法を利用して地下のイメージングを行う物理探査技術は，天然資源開発，社会基盤整備，環境，自然災害などの分野で重要な役割を果たしており，持続可能な社会構築のための基幹技術としての重要性が増しています。

本シンポジウムでは，探査技術によって得られた結果をどのように解釈するか，また，持続可能な開発という社会的課題にどのように貢献するかというテーマに重点を置き，我が国の研究開発成果の海外への情報発信，海外学会関係者，技術者との情報交換の場を提供する目的で開催されました。

シンポジウムでは，外国人69名を含む193名の参加者があり，海外からの招待者1名を含む3名の著名な研究者による基調講演及び国内外からの134件の一般講演が行われました。さらに，地球を探る先端技術を知ろうー持続可能な開発のためにーというテーマで，海外参加者による各国の取り組みについて17件のポスター展示や海外学会や企業による10件の技術展示が行われました。これらの学術的活動を通して，我が国の研究開発成果の海外への発信，海外専門家との知識，技術の情報交換が行われ，物理探査技術の将来へ発展や持続可能な開発への貢献について，飛躍的な進歩が図られることが期待されます。

今回は，特に国際シンポジウムでは青少年の育成と社会の啓蒙への取り組みとして「見て，ふれて，考えるー美しい私たちの住みか地球」と題してフィールド巡検や市民向け展示を行いました。国際シンポジウム開始前日の10月11日（日）に，札幌近郊の小学校高学年・中学生23名及びその親18名が参加して現地見学会を有珠火山及び昭和新山で開催しました。さらに，シンポジウム初日も祝日であったので，社会における物理探査関連技術に対する理解を深めるため基調講演や諸展示を市民にも公開し研究者との交流を図りました。これらにより，持続可能な社会実現のための基幹技術としての物理探査技術が市民にも広く理解され，次世代にも継承されることが期待されます。

現地見学会の様子

賑わうポスター発表会場

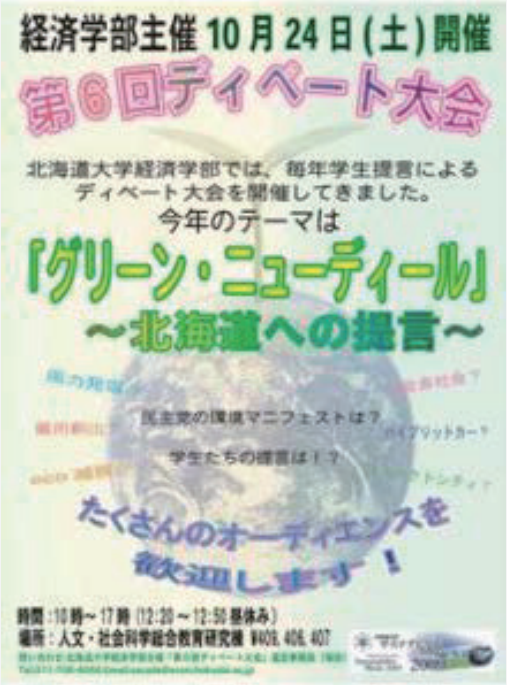
# 学生提言『グリーン・ニューディール』第6回ディベート大会及び最終発表

## 行事予定

| | |
|---|---|
| ディベート資料 | http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/39966<br>（北海道大学学術成果コレクションHUCAPへのリンク） |
| 開催期間 | 2009年10月24日（土） 10:00-12:20, 12:50-17:00（終了しました）<br>2009年11月2日（月） 12:15-14:00 |
| 主催者 | 北海道大学経済学部 |
| 会場 | 10月24日：北海道大学 人文・社会科学総合教育研究棟 W409, W406, W407教室<br>11月2日：北海道大学 学術交流会館 ホール |
| 言語：日本語/英語 | 対象：専門家、一般市民、大学生、高校生、小中校生 |
| 行事概要 | 経済学部では学生提言によるディベート大会を毎年開催しています。<br><br>今年は六回目をむかえ、「グリーン・ニューディール」をテーマに学生独自のアイディアを発表し、論戦の中でその長短所を検証していきます。<br><br>7/2(木)にはテーマへのレクチャーとして経済学部教授・准教授による講演会＋討論会（講演会の様子はOCWのウェブサイトにてご覧いただけます）を、10/24(土)にはディベート大会を予定しています。<br>11/2（月）のサステナビリティ・ウィークでは大会で研かれた提言をポスターにまとめ、来訪者のみなさんに口頭説明を行います。<br><br>北大生による「グリーン・ニューディール」への提言を是非両会場でご覧下さい。 |
| 事前申し込み | 不要（無料） 各行事とも、ご自由にご参加（聴講・観覧）いただけます。<br>※ディベート大会への出場チームの募集は終了いたしました。 |
| 問い合わせ先 | 北海道大学経済学部主催「第6回ディベート大会」運営事務局（担当：塚田）<br>TEL：011-706-4066 FAX：011-706-4947 |
| ウェブサイト | http://www.econ.hokudai.ac.jp/jp08/(北大経済学部へのリンク) |

ポスター

ディベート大会ポスター(PDF575KB)




ディベート大会ポスター

## 実施報告

今年で第6回目を迎えた経済学部主催ディベート大会は，テーマを新たに「グリーン・ニューディール～北海道への提言～」とし，初めてサステナビリティ・ウィークに参加しました。出場チームも毎年増え続け，今年は13チームがエントリーしました。残念ながら新型インフルエンザの影響で，出場を断念するチーム，メンバーに欠員が生じるチームなどアクシデントもありましたが，それぞれのチームは自分たちが考えた提言を，知力をつくして繰り広げました。

試合は，最初に各チーム10分ずつのプレゼンテーションを行い，その後20分にわたって互いに質疑応答し，論戦を展開しました。いずれのチームも今年のテーマにそって，「北海道はいかにして環境政策を進めるべきか」について独自の提案を示しました。

当日は判定係や司会役を教員や院生，ディベート大会を経験した学部生等に務めてもらいました。接戦も多く，判定協議が長引くこともたびたびでした。また，今年からこの協議の時間をオーディエンスからの質問の時間に充て，本番とはまた別の切り口で，多くの質問が出場チームに寄せられました。

優勝チームは経済学部宇田ゼミからのチームUNO。準優勝は法学部・歯学部・工学部の混成チームWOSでした。

本行事は学部生と院生が一緒に作り上げる行事であり，他学部からの出場も定着してきています。本行事を通じて，学部生・院生両者ともコミュニティー能力・プレゼンテーション能力を研く良い機会となり，また，今回のテーマは今最も思考し精査し提起すべきトピックと捉えています。来年もまたこれまで同様，学生たちに思考を喚起させる行事にしていきたいと考えています。

プレゼンテーションを行う出場チーム

出場チームとオーディエンスでの質疑応答の様子

◆講演資料のダウンロード：http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/39966
（北海道大学学術成果コレクションHUCAPへのリンク）

## CLARK THEATER 2009

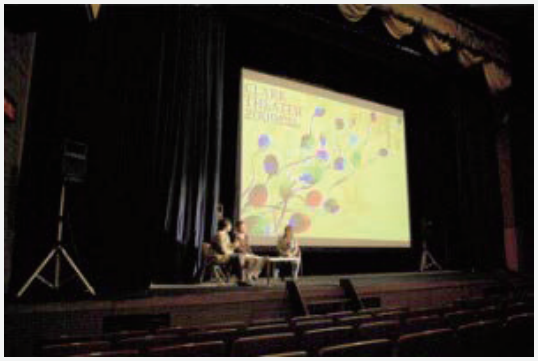
### 行事予定

| | |
|---|---|
| 開催期間 | 2009年10月30日（金）～11月3日（火・祝）（終了しました） |
| 主催者 | 北大映画館プロジェクト実行委員会2009 |
| 共催 | 環境省北海道地方環境事務所<br>北海道大学「持続可能な低炭素社会づくり」プロジェクトチーム<br>（公共政策大学院、地球環境科学研究院） |
| 会場 | 北海道大学 クラーク会館 |
| 言語：日本語・英語・その他 | 対象：一般市民・大学生・高校生・小中学生 |
| 行事概要 | 2006年よりスタートしたCLARK THEATERも今年で4年目、北大映画館プロジェクト実行委員会による“映像・映画教育やコミュニケーションの場の創造”などを目指し、一般にはあまり観る機会はないが文化的に優れた映画（短編・長編）を上映する映画館を今年も期間限定で北海道大学内に設置します。<br>また、11月1日午後12:45より環境省北海道地方環境事務所、北海道大学「持続可能な低炭素社会」プロジェクトチーム（公共政策大学院、地球環境科学研究院）との共催で、特別企画「～不都合な真実の先へ～」（無料）を開催します。<br>当企画では、アメリカの元副大統領、アル・ゴアの環境問題への取り組みを取り上げ、アカデミー賞を受賞した『不都合な真実』の上映から始まり、環境省の塚本直也氏（元IPCC日本政府代表）や地球環境科学研究院の藤井賢彦氏ら豪華ゲスト陣と学生とのトーク・セッションの場を設け、一般市民の目線からの、また映像という分かりやすい視点からのアプローチで、普段環境問題に関心が薄い方にもこの問題について考えていただくきっかけにしたいと考えています。<br>この企画で興味を持っていただいた方には同日午後15:30より学術交流会館で、ゲストの方からより詳しい話を聞ける環境省北海道地方環境事務所主催「地球温暖化政策セミナー」がありますので是非ご参加下さい。<br>この他にも今年のCLARK THEATERでは、同じく地球温暖化を題材にしてアカデミー賞を受賞した短編アニメーション『つみきのいえ』の上映や、世界最高のアウトドア映画祭であるバンフ・マウンテン・フィルムフェスティバルからの作品提供など環境問題に関するプログラムが充実しています。今年もスタッフ一同皆様のご来場を心よりお待ちしておりますので是非クラーク会館に足をお運び下さい。 |
| 事前申し込み | 不要・有料（前売券400円、当日券500円。一部無料プログラム有り） |
| 問い合わせ先 | 北大映画館プロジェクト実行委員会2009<br>E-mail : info[at]clarktheater.jp |
| URL | CLARK THEATER 2009 ウェブサイト<br>http://www.clarktheater.jp/ |

## 実施報告

皆様のご声援の下，今年も無事にCLARK THEATERのフィナーレを迎えることができました。この場をお借りして今一度ご来場いただいたお客様，ご支援いただいた関係者各位に感謝の意を表したいと思います。誠にありがとうございました。今年のCLARK THEATERはサステナビリティ・ウィーク2009への学生企画としての参加に始まり，オープニングでの『つみきのいえ』上映，世界有数のアウトドア映画祭であるバンフ・マウンテンフィルム・フェスティバルの特集プログラム上映や特別企画「不都合な真実の先へ」に表れているように，映画館としての「環境問題」というテーマへのアプローチを実現できたのではないかと考えています。

特に北海道大学「持続可能な低炭素社会」プロジェクトチームと環境省北海道地方環境事務所との共催で行った「不都合な真実の先へ」には多くのお客様にご来場いただき，映画『不都合な真実』の鑑賞と併せて興味深いゲストの方々のそれぞれのお話に耳を傾けていらっしゃいました。そして更に嬉しいことに，連動して環境省主催で行った「地球温暖化政策セミナー」にも大勢のお客様に参加していただき，このイベントを企画した当初の目標通り，地球温暖化という問題に対して，映像という比較的入りやすい入口からのアプローチで一般の方と一緒にまずは「考える」ことから始めるイベントを作り上げることができたと思います。
今後も北大映画館プロジェクト実行委員会は，様々な切り口で教育機関としての大学に常設映画館が存在することの可能性を私たちの活動を通して訴えていければと思います。



トークセッションの様子

多くの観客が詰めかけた会場

# 北大映画館×北大低炭素PT×環境省 地球温暖化政策セミナー

## 行事概要

| | |
|---|---|
| 開催期間 | 2009年11月1日（日） 15:30～17:00（終了しました） |
| 主催者 | 環境省北海道地方環境事務所 |
| 共催 | 北大映画館プロジェクト実行委員会2009<br>北海道大学「持続可能な低炭素社会づくり」プロジェクトチーム<br>（公共政策大学院、地球環境科学研究院） |
| 会場 | 北海道大学 学術交流会館 小講堂 |
| 言語：日本語 | 対象：全ての人々 |
| 学問分野 | 気候・環境変動 |
| 行事概要 | 北大映画館プロジェクト主催による「不都合な真実」の上映及びトーク・セッション（12:45からクラーク会館講堂にて）に引き続き、環境省北海道地方環境事務所、北大映画館プロジェクト実行委員会2009、北海道大学「持続可能な低炭素社会」プロジェクトチーム（公共政策大学院、地球環境科学研究院）の共催で、地球温暖化政策セミナーを開催します。<br><br>地球温暖化に関する科学的知見や低炭素社会づくりのための政策について環境省塚本直也氏（元IPCC日本政府代表）が講演するとともに、講演者、北大プロジェクトチーム陣、参加者の間で意見交換を行います。<br><br>地球温暖化問題について「環境省に聞いてみたい！」「北大の先生に質問！」など、双方向のセミナーを目指します。皆様のご参加をお待ちしています。 |
| 事前申し込み | 必要（無料） メールにてお名前、電話番号をご記入の上、下記問い合せ先までお申し込みください。 |
| 問い合わせ先 | 環境省北海道地方環境事務所 担当：安田<br>TEL：011-299-1952<br>E-mail: REO-HOKKAIDO[at]env.go.jp |

## 実施報告

環境省北海道地方環境事務所では，北海道大学低炭素プロジェクトチーム，北大映画館プロジェクト実行委員会2009の共催を得て，「地球温暖化政策セミナー」を開催しました。本セミナーの開催に先立ち，北大映画館プロジェクト実行委員会2009による映画「不都合な真実」の上映とトークセッションが行われ，セミナーの参加者の多くは映画を鑑賞し，地球温暖化問題についての問題意識を持った上での参加となりました。

セミナーではまず，環境省北海道地方環境事務所の竹安一統括環境保全企画官からの挨拶の後，環境省環境保健部環境リスク評価室長の塚本直也氏からIPCC（気候変動に関する政府間パネル）第4次報告の内容についての講演がありました。講演では，気候システムの温暖化には疑う余地がないこと，20世紀半ば以降の世界平均気温の上昇はその大部分が人間活動による温室効果ガスの増加によってもたらされた可能性が非常に高いこと，地球温暖化の影響は既に現れていることなどが紹介されました。

続いて北海道大学公共政策大学院特任教授の深見正仁氏から，国内外の地球温暖化対策に関する政策の動向について紹介がありました。その後は約80名の参加者との質疑応答を行い，活発な意見交換が行われました。質疑応答では塚本氏，深見氏に加えて北海道大学大学院地球環境科学研究院特任准教授の藤井賢彦氏も回答者として加わり，参加者からは「森林が豊かな北海道の強みを生かすために環境省と林野庁が協力して森林吸収源の認証やカーボン・オフセットの取組を進めるべき」，「来年度以降の自動車税制はどうなるのか」などの質問・意見が出されました。セミナーに先立って行われた「不都合な真実」の上映とも相俟って，地球温暖化問題について考える機会を参加者に提供することができました。環境省北海道地方環境事務所では，今後も地球温暖化問題を始めとした環境問題の市民の方々の理解を深めるために，様々な取組を進めていきます。

ポスター

# サステナビリティ・ウィーク2009 オープニングシンポジウム
# 北海道大学「持続可能な開発」国際シンポジウム～
# 持続可能なグローバル社会に向けた5課題解決への提言～

## 行事概要

| | |
|---|---|
| 講演資料のダウンロード | http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/40088<br>（北海道大学学術成果コレクションHUCAPへのリンク） |
| 開催期間 | 2009年11月2日（月）9:00 – 18:00（終了しました） |
| 主催者 | 北海道大学 |
| 後援 | 文部科学省 |
| 会場 | 北海道大学 学術交流会館 講堂 |
| 言語：日本語・英語（同時通訳あり） | 対象：専門家、一般市民、大学生 |
| 学問分野 | 知的革命・技術革新・社会変革 |
| 行事概要 | 北海道大学は2005年に「持続可能な開発」国際戦略本部を設置し、社会と環境の持続可能性に係る5領域の研究を強力にサポートしてきました。これら ①地球温暖化 ②感染症対策 ③水の統合的管理 ④循環型社会の構築 ⑤食糧・森林の安定的確保の領域では、すでに多くの研究成果が産まれています。そこで、これまでに培った科学的知見を活かし、科学者が地球規模の課題解決に向けた新たな社会の枠組みについて提言します。<br><br>また、「第1回北海道大学サステナビリティ学生研究ポスターコンテスト」を開催し、学生が今取り組んでいる持続可能な未来をつくる研究について発表します。この中から第1回北海道大学サステナビリティ研究ポスター賞が選抜されます。最新の研究成果を用い、どのように社会を変え得るのかに興味がある市民・行政・学生・研究者のご来場をお待ちしています。<br><br>〈北海道大学の6つの提言〉<br>・人獣共通感染症克服の鍵はグローバルサーベイランス：インフルエンザを例に<br>・水の国際開発援助に対する日本のイニシアチブ<br>・世界の工場である日中韓の協働こそが低炭素社会と循環型社会を実現<br>・食料とエネルギーの自給による北海道の自立<br>・オホーツク海の未来可能性に向けた国際コンソーシアム構築<br>・持続可能な社会づくりを担う高等教育機関のイニシアチブ |

提言パンフレットのダウンロード（1.2MB）

| | |
|---|---|
| 事前申し込み | 必要（無料）。参加をご希望の方は、下記をクリックしお申し込みください。<br>▶参加申し込み |
| 問い合わせ先 | 北海道大学「持続可能な開発」国際戦略本部<br>TEL： 011-706-2093 FAX：011-706-2095<br>E-mail：sw1[at]oia.hokudai.ac.jp |

## プログラム

※下記に掲載のプログラムは、10月21日現在のもので、詳細は変更になる可能性があります。

| 開始 | プログラム | 講演者 |
|---|---|---|
| オープニングセレモニー | | |
| 9:00-9:05 | 開会の言葉 | 佐伯 浩（北海道大学総長） |
| 9:05-9:10 | 来賓挨拶 | 交渉中 |
| 9:10-9:15 | 来賓挨拶 | 上田文雄（札幌市長） |
| 9:15-9:30 | サステナビリティ・ウィーク2009開催趣旨 | 本堂 武夫（北海道大学 理事・副学長，サステナビリティ・ウィーク2009実行委員長） |
| 9:30-10:00 | 基調講演<br>「サステナビリティ実現に向けた取り組みにおける都市大学の役割」 | ヴィム・ヴィヴェル（Wim Wiewel）（アメリカ ポートランド州立大学 学長） |
| 10:00-10:10 | 質疑応答 | |
| オープニングシンポジウム | | |
| セッション1: 感染症の先回り予防のために | | |
| 10:10-10:40 | 人獣共通感染症克服の鍵はグローバルサーベイランス：インフルエンザを例に | 喜田 宏（北海道大学大学院獣医学研究科教授，人獣共通感染症リサーチセンター長） |
| 10:40-10:50 | 感染症の克服は容易ではない！ | 倉田 毅（富山県衛生研究所所長 / 前国立感染症研究所 所長） |
| 10:50-11:00 | 質疑応答 | |
| 11:00-11:15 | 次セッション準備 | |
| セッション2: 水の統合的管理の拡大のために | | |
| 11:15-11:35 | 水の国際開発援助に対する日本の役割 | 船水 尚行（北海道大学工学研究科教授） |

| | | |
|---|---|---|
| 11:35–11:55 | 国際協力のカウンターパートの視点ーブルキナファソの事例からー(仮題) | アンジェルベール・ビアウ(Angelbert Biaou)(ブルキナファソ 水と環境工学国際研究所 (2iE) 主席研究員) |
| 11:55–12:05 | 質疑応答 | |
| 12:05–12:15 | 討論 | |
| セッション3: サステナビリティ・ウィーク第1回学生研究ポスターコンテスト | | |
| 12:15–14:00 | 第1回北海道大学サステナビリティ学生研究ポスターコンテスト | (昼食) |
| セッション4: 循環型社会の構築のために | | |
| 14:00–14:20 | 危機を転じて機会に、アジアの環境協力を | 吉田 文和(北海道大学公共政策大学院教授) |
| 14:20–14:40 | 中国の循環経済:現状と将来への提案 | 李 金惠 (中国 清華大学環境科学と工学部教授) |
| 14:40–14:50 | 質疑応答 | |
| 14:50–14:55 | 次セッション準備 | |
| セッション5: 食料・バイオマスの持続的確保のために | | |
| 14:55–15:15 | 食料とエネルギーの自給による北海道の自立計画 | 大崎 満 (北海道大学農学研究院教授) |
| 15:15–15:35 | 中国における持続可能な農業の現状と今後の展望 | 叶 旭君 (中国 浙江大学 生命科学院助教) |
| 15:35–15:45 | 質疑応答 | |
| 15:45–16:05 | 次セッション準備 | |
| セッション6: 地球温暖化時代の新たな枠組みのために | | |
| 16:05–16:25 | オホーツク海の未来可能性に向けた国際コンソーシアム構築 | 白岩 孝行 (総合地球環境学研究所/北海道大学低温科学研究所 准教授) |
| 16:25–16:35 | オホーツク海の水産資源と漁協の取り組み | 新谷 哲章 (網走漁業協同組合 理事/網走合同定置網漁業 副代表) |
| 16:35–16:45 | 健全なる陸ー海物質循環系に対する酪農業からの実践 | 山田 照夫 (津別町有機酪農研究会会長) |
| 16:45–16:55 | ボーダーの生態系をどう守るか | 本間 浩昭 (毎日新聞社北海道報道部・根室) |
| | | |

| | | |
|---|---|---|
| 16:55–17:05 | 質疑応答 | |
| 17:05–17:10 | 次セッション準備 | |
| セッション7: 5つの提案を貫く大学のあり方について | | |
| 17:10–17:30 | 持続可能な社会づくりを担う高等教育機関のイニシアチブ | 池田 元美（北海道大学地球環境科学研究院教授） |
| 総合討論 | | |
| 17:30–17:40 | | 小林正明（環境省大臣官房審議官） |
| 17:40–18:00 | 総合討論 | |
| 18:00 | 閉会の挨拶 | |

## 実施報告

サステナビリティ・ウィーク2009のスタートを飾る行事として，”北海道大学「持続可能な開発」国際シンポジウム～持続可能なグローバル社会に向けた5課題解決への提言～”を開催いたしました。

冒頭のオープニング・セレモニーでは，佐伯総長からサステナビリティ・ウィークのこれまでの経緯の紹介がありました。さらに，本学はサステナビリティ・ウィーク2009を通じて本学は，気候変動や感染症の拡大，水資源の枯渇といった地球規模の課題の解決に向けて，研究と教育，情報発信そして連携をこれまで以上に加速させるとの話がありました。その後の来賓挨拶では，はじめに文部科学省木曽功国際統括官から，今回の提言が持続可能な社会の構築に寄与することを文部科学省として大いに期待している旨が述べられました。次に札幌市の上田文雄市長から，札幌から持続可能な社会の実現に向けた取り組みを進めて行くことは大きな意義がある旨述べられました。

続いて行われた基調講演では，古くからの協定校であるポートランド州立大学からヴィム・ヴィヴェル学長をお招きして，「サステナビリティ実現に向けた取り組みにおける都市大学の役割」題したご講演をいただきました。講演では，サステナビリティの実現に向けたポートランド州立大学と地域社会，企業，公共団体との連携・協働事業について，「経済」「環境」「社会」という「3つのボトムライン」からのアプローチ法を紹介し，自らの経験を元に意見が述べられました。

今年は北海道大学「持続可能な開発」国際戦略本部設置5年目にあたる節目の年となることから，セレモニーに引き続き行われたオープニングシンポジウムでは，当国際戦略本部がこれまで集中的に取り組んできた5領域について，本学教員や国内外の研究者のみならず，漁業関係者，酪農家，新聞記者といった多様なステークホルダーが，以下の6つをテーマに，課題解決に向けた提言を行いました。また，これらの提言に対し，環境省の小林正明大臣官房審議官からは，環境政策の立案において，大学からの提言は重要であるとのコメントがありました。

〈北海道大学からの提言〉

- 人獣共通感染症対策の基盤はグローバルサーベイランスにある
  ー鳥，ブタ，そしてパンデミックインフルエンザを例にー
- 水の国際開発援助に対する日本の役割
- 東アジアの環境経済協力により世界のグリーンセンターを実現しよう
- 食料とエネルギーの自給による日本農業の自立～北海道モデルの提言～
- オホーツク海の未来可能性に向けた国際コンソーシアム構築
- 持続可能な社会づくりを担う高等教育機関のイニシアチブ

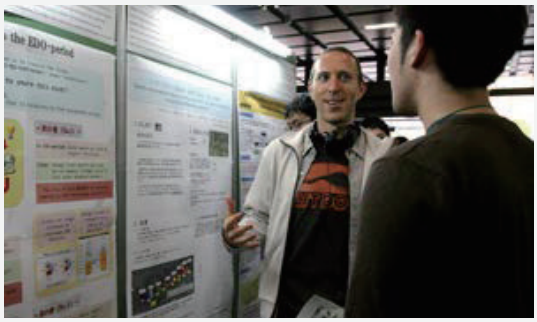
提言パンフレットのダウンロード（1.2MB）

◆講演資料のダウンロード：http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/40088
（北海道大学学術成果コレクションHUCAPへのリンク）

会場の様子

ポートランド州立大学ヴィム・ヴィウェル学長の基調講演

http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/39673
（北海道大学学術成果コレクションHUCAPへのリンク）


ポスターコンテストの様子

総長と記念撮影する受賞グループ

また，学生が今取り組んでいる研究を「持続可能な社会づくりへの貢献」という観点で見つめ直すよう推奨し，人類共通の課題解決に挑む逸材の輩出を目的として，本学としては初めて全学的なポスターコンテストを開催しました。全学から72枚のポスター参加があり，会場となった学術交流会館の1階ホールは参加者のプレゼンテーションで熱い熱気に包まれました。コンテストでは，審査員の投票よって「第1回北海道大学サステナビリティ研究ポスター賞」が選ばれました。

閉会の挨拶では，本堂武夫実行委員長が，今後も人類共通の課題に対し積極的に解決策を提示していく場を作っていくと述べて，シンポジウムは閉会いたしました。

次回のサステナビリティ・ウィークは，2010年年10月25日（月）から開催する予定です。

【第1回北海道大学サステナビリティ研究ポスター賞受賞者一覧】

1）実学探求分野

- 最優秀賞：今榮 博司（農学院 博士3年）
- 優秀賞：大竹 裕子（医学研究科 修士2年）
- 優秀賞：陰 泳畯（環境科学院 博士2年）

2）ブレイク・スルー研究 気候・環境変動分野

- 最優秀賞：クリエン プリシラ（環境科学院 博士3年）
- 優秀賞：小菅 千絵（環境科学院 修士2年）
- 優秀賞：柏原 夕希子（環境科学院 博士3年）

3）ブレイク・スルー研究 知的革命・技術革新・社会変革分野

- 最優秀賞：吉田 勝利（公共政策大学院2年），本山 千尋（公共政策大学院1年），重松 平八郎（公共政策大学院1年），大辻 智彦（公共政策大学院2年）（以上4名1チームで受賞）
- 優秀賞：オレンシオ ペドクリス ミラレス（環境科学院 修士1年）
- 優秀賞：内田 有哉（国際広報メディア・観光学院 博士2年），ダニー ヌー（情報科学研究科 博士2年）（以上2名1チームで受賞）

4）ブレイク・スルー研究 自然史・生物多様性・自然保護分野

- 最優秀賞：森 照貴（環境科学院 博士3年）
- 優秀賞：梶原 瑠美子（環境科学院 博士3年），関口 郁恵（環境科学院 修士1年），石丸 夏海（環境科学院 博士2年）（以上3名1チームで受賞）

5）ブレイク・スルー研究 食糧・水・衛生・健康分野

- 最優秀賞：梶原 瑠美子（環境科学院 博士3年），関口 郁恵（環境科学院 修士1年），石丸 夏海（環境科学院 博士2年）（以上3名1チームで受賞）
- 優秀賞：三原 義広（環境科学院 博士1年）

6) ブレイク・スルー研究 教育・人材育成・啓発分野

- 最優秀賞: 吉田 勝利(公共政策大学院2年),本山 千尋(公共政策大学院1年),重松 平八郎(公共政策大学院1年),大辻 智彦(公共政策大学院2年)(以上4名1チームで受賞)
- 優秀賞: オレンシオ ペドクリス ミラレス(環境科学院 修士1年)
- 優秀賞: 三原 義広(環境科学院 博士1年)

7) ブレイク・スルー研究 人権・文化・平和分野

- 最優秀賞: 吉田 勝利(公共政策大学院2年),本山 千尋(公共政策大学院1年),重松 平八郎(公共政策大学院1年),大辻 智彦(公共政策大学院2年)(以上4名1チームで受賞)
- 優秀賞: 小菅 千絵(環境科学院 修士2年)

8) グッド・コミュニケーション分野

- 最優秀賞: 朱 琳(国際広報メディア・観光学院 修士1年)
- 優秀賞: グン グン ヒダヤット(農学院 博士2年)

9) 魅力あるポスター分野

- 最優秀賞: 松村 洋子(農学院 博士1年)
- 優秀賞: 内田 有哉(国際広報メディア・観光学院 博士2年),ダニー ヌー(工学研究科 博士2年)(以上2名1チームで受賞)
- 優秀賞: 朱 琳(国際広報メディア・観光学院 修士1年)

◆コンテスト参加ポスターを見る(一部のみ掲載):

# 北大から世界へ！～国際キャリアパスの入り口へ～”SD on campus”

## 行事予定

| | |
|---|---|
| 実施報告 | 実施報告を読む |
| 開催期間 | 2009年11月2日（月） 14:30-16:30（終了しました） |
| 主催者 | 北海道大学国際交流室 |
| 会場 | 北海道大学 学術交流会館 第一会議室 |
| 言語：日本語/英語 | 対象：大学生 |
| 行事概要 | 北海道大学は，世界24カ国70校以上の大学と協定を結び，学生の留学や教員の国際交流のサポートをしています。今回、サステナビリティ・ウィーク2009を機に、北海道大学の学生を受け入れたいと熱心に考えている協定校の代表者が来学し、それぞれの魅力を紹介する特別な機会を用意することになりました。<br><br>将来留学を考えている人、海外になんとなく興味がある人、卒業したら海外で仕事をしたいと考えている人、そんな皆さんにとって貴重な情報収集の機会です。ぜひご来場ください！<br><br>参加大学（予定）：<br>ポートランド州立大学（アメリカ）、テキサス大学健康科学センター・ヒューストン校（アメリカ）、パリ工業物理化学高等専門大学（フランス）、トリノ工科大学（イタリア）、浙江大学（中国）、エボニ州立大学（ナイジェリア），ナイジェリア大学（ナイジェリア）等 |
| 事前申し込み | 不要(無料) |
| 問い合わせ先 | 北海道大学学術国際部留学交流課 担当：河野<br>TEL:011-706-8053<br>E-mail: ryugaku[at]oia.hokudai.ac.jp |

## 実施報告

本行事は，サステナビリティ・ウィークへの参加を機に来日した協定大学の学長・教員等に自身の大学を本学学生にアピールする機会を提供する目的で企画したものです。

参加大学は，アメリカ・ポートランド州立大学，同・テキサス大学健康科学センター，フランス・パリ工業物理化学高等専門大学，イタリア・トリノ工科大学，中国・浙江大学，ナイジェリア・エボニ州立大学，同・ナイジェリア大学の7大学でした。

当日は，各大学がサスティナブル・ディベロプメント（SD）についてどのような教育を行い，学生が授業や授業外でSDにどのように関わっているかをそれぞれの大学より発表していただきました。
協定大学の教員等を説明者に招いての留学説明会は過去に数回実施したことがありますが，今回のように7大学が一同に会する企画は初めてでした。会場には，留学生を含め80名程の学生が詰めかけ，熱心に説明に聞き入っていました。

イベント終了後に参加学生に実施したアンケートでは評価が高く，また参加大学教員達も自身の大学を直接学生達にアピールし，学生の反応を肌で感じられたことに非常に満足感を覚えたようです。

国際交流室及び留学交流課は，学生の皆さんに留学をより身近なものと感じてもらうため，今後も様々な形で情報提供に努める所存です。メール（ryugaku@oia.hokudai.ac.jp）での留学相談も受けつけていますので，留学希望の学生にご紹介いただければ幸いです。

ポートランド州立大学学長からの大学紹介

協定大学留学生からの説明

# 第4回 結～yui～プレゼンツ フェアトレードフェア

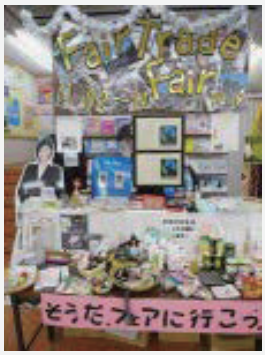
## 行事予定

| | |
|---|---|
| 開催期間 | フェア：2009年11月2日（月）～14日（土）<br>平日：9:00 – 19:00 土曜日：10:00 – 16:00 日曜休<br>講演会：2009年11月10日（火）18:30より（終了しました） |
| 主催者 | 国際協力学生団体「結～yui」 |
| 共催 | 北海道大学生活協同組合 |
| 会場 | フェア：北大生協会館店<br>講演会：北海道大学人文・社会科学総合研究棟W410 |
| 言語：フェアは日英表記 | 対象：一般市民、大学生 |
| 行事概要 | 現在私たちの身の回りに溢れている安価な商品の中には、開発途上国における生産者の犠牲の上に成り立っているものも少なくありません。私たちは、フェアトレードフェアを開催することで「買い物」という日常の行動が世界と身近につながっているということを一人でも多くの方に実感していただければと考えています。<br><br>期間中は特設ブースにおいて世界各国で生産されたおしゃれなフェアトレード雑貨やクッキー、紅茶などの販売とパネルによるフェアトレードの紹介、11月10日には、「ほっかいどうピーストレード」事務局長の越田 清和氏を講師に招き、講演会を行います。会場では、東ティモールのフェアトレードコーヒーの販売も行います。<br><br>普段なかなか目にすることのないフェアトレードに触れる絶好の機会、是非一度足をお運びください<br><br>※フェアトレードとは、開発途上国の生産者と先進国との持続可能で公平な貿易のことを指します。 |
| 事前申し込み | 不要（無料） |
| 問い合わせ先 | 国際協力学生団体「結～yui」<br>E-mail: yui.international.cooperation[at]gmail.com |
| URL | 国際協力学生団体「結～yui」のウェブサイト<br>http://yuiyui7.web.fc2.com/index.html |

## 実施報告

### フェアトレードフェア

今回で4回目の開催となった北海道大学生活協同組合と共催のフェアトレードフェア。商品については季節を意識した商品を多く仕入れ，冬季限定のチョコレートにも力を入れました。



北大生協会館店での
フェアトレードフェア

また，今年の夏にフィリピンスタディーツアーを開催し，その際自分たちで直接仕入れてきた商品も販売。これまで以上に「顔の見える」商品展開に努めました。商品販売を行った特設ブースでは，「フェアトレードの仕組み」や「結～yui」についてのパネルも設置。「最も身近な国際協力」とも言われるフェアトレードや，学生という立場で国際協力に関する活動を行う私たちの団体の活動をより多くの人に知ってもらおうと企画しました。4回目の開催であることや，売上，お客様との交流から，徐々に「フェアトレード」を理解してくれる人が増えていると感じられるようになってきました。これからも，１人でも多くの方に「買い物」という日常の行動が世界と身近につながっているということを実感していただけるようこの活動を継続していきたいと考えています。

### 講演会「東ティモールとフェアトレード：公正な社会への一歩」

商品販売やパネル展示だけではわからない部分，もう一歩踏み込んでフェアトレードや国際協力について知る機会を提供したい，という思いで昨年に引き続き2回目となった講演会。今回は，ほっかいどうピーストレードから越田清和氏をお招きして開催しました。実際に東ティモールコーヒーを用いたフェアトレードを立ち上げ，現在も運営している最前線のお話で，運営スタッフにとっても勉強になる会となりました。しかし，広報活動や開催日時の設定など諸々の事情によって満足のいく集客はできませんでした。今後は，今回の反省を生かしながらフェアトレードフェア同様講演会の開催も定着させていきたいと考えています。

講演会の様子

# ジョイントシンポジウム「都市化と健康～2010年の世界保健デーに向けて～」

## 行事予定

| | |
|---|---|
| 開催期間 | 2009年11月3日（火・祝）（終了しました） |
| 主催者 | 北海道大学大学院医学研究科国際保健医学分野 |
| 共催 | 世界保健機関神戸センター, ジュネーブ大学, デラサル大学 |
| 会場 | 北海道大学 学術交流会館 講堂 |
| 言語：日本語/英語（一部通訳有り） | 対象：一般市民、大学生 |
| 行事概要 | 世界の人口の三分の一以上は都市に住んでおり、今でも、世界的に都市化は急速に進行しています。しかしながら、都市化は健康に必ずしもよい方向で進んでいるわけではありません。<br><br>本シンポジウムでは、2010年4月7日の世界保健デーのプレ会議と位置づけ、世界の都市化の現状とそれに伴う健康問題、健康格差などについて、総合的に検討いたします。<br><br>WHOを初め世界の専門化および都市計画担当者が札幌に集います。この機会に、世界の「都市化と健康」について関心のある人はぜひご参加ください。お待ちしております。<br><br>会議やプログラムの詳細はこちらのウェブサイトからご覧いただけます。 |
| 事前申し込み | 必要（無料）こちらのウェブサイトにて受け付けております。<br><br>▶ お申し込み |
| ウェブサイト | http://ghe.med.hokudai.ac.jp/sw2009/modules/pico/ |
| 問い合わせ先 | 北海道大学医学研究科<br><br>TEL： 011-706-5051<br><br>FAX：011-706-7374<br><br>E-mail： tamashiro[at]med.hokudai.ac.jp |

## 実施報告

世界保健機関は2010年4月7日の世界保健デーのテーマを「都市化と健康」と定め，世界各地において関連活動を開始しています。世界の人口の半分は都市部に集中し，2050年にはこれが7割に増えると予想されています。このように，人々の健康に関わる課題において，都市化の視点は不可欠です。

今回の企画は，この「都市化と健康」に対する課題意識の啓発と来たる世界保健デーへの参画の推進を期して，医学研究科・国際保健医学分野が，世界保健機関神戸センター及び本学大学間協定校であるジュネーブ大学（スイス），デラサル大学（フィリピン）との連携により，国際シンポジウムを実施したものです。

シンポジウムは，前半の招待講演並びに，後半の会議参加者を交えたグループ討論及び，それに基づく全体討論の2パートにより構成されました。

前半では，WHO神戸センター，東京医科歯科大学，北海道大学からの講演により，都市化と健康の課題と2010年世界保健デーについての趣旨紹介や活動啓発が行われました。

後半のグループ討論では，1）都市に住む市民の健康問題，2）2010年世界保健デーに実施してほしいイベントの2点について議論し，全体討議において各グループリーダーからの発表が行われましたが，「都市化と健康」の具体的な課題として，「うつ」や自殺などの精神的な問題や，公害や交通事故などの環境問題，そして健康を維持するためのコストが主たる課題であることが，各グループからの意見として示されました。また，これに対する世界保健デーとしての活動提案についても，「都市環境」での市民の幸福の希求，運動不足の解消や，エコカーの普及など，多岐にわたる都市の健康問題に対する取り組みのありようが活発に提案されました。

このように本会議は，都市の健康を担う主役は市民という観点から，複雑多岐なこの課題に対する取り組み方を参加者もより積極的に考えられるよう企図して運営を行いました。この成果は来たる2010年世界保健デーへ向けた活動，更には持続可能な社会の実現の一助となるよう今後展開していきたいと考えています。

グループ討論の様子

参加者一同

# 国連大学グローバル・セミナー北海道最終記念セッション
# 能な社会の担い手となるために
# と　　状を知る―

## 行事予定

| | |
|---|---|
| 開催期間 | 2009年11月3日（火・祝） 10:00-17:00（終了しました） |
| 主催者 | 国連大学 |
| 共催 | 北海道大学 |
| 協力大学 | 北海道教育大学、小樽商科大学、北海学園大学、北星学園大学 |
| 会場 | 北海道大学 学術交流会館 第一会議室 |
| 言語：日本語（一部英語の可能性あり） | 参加資格：大学生 |
| 行事概要 | 国連大学グローバルセミナーは、国連の役割や人類が直面している地球規模の問題について、学生や社会人に関心と問題意識を持ってもらうことを目的としています。<br><br>今回の北海道セッションは、21世紀の国際社会が喫緊に取り組むべき人類の課題である「ミレニアム開発目標（MDGs）」の達成状況を知る機会、さらにMDGsと自分の将来のキャリア・プランとの関わりを考える機会を提供します。MDGsは2000年に目標が掲げられ、2015年の達成に向けて取り組み期間の半分を過ぎました。MDGsの達成は、持続可能な社会の実現に向けた試金石であるとの認識の下、あらためてこの目標に注目します。<br><br> <br><br>グローバルセミナー申込要項 |

は10月13日8:30より一斉に開始いたします。（定員48名・先着順）

※定員に達したため、募集を終了しました。たくさんのお申し込みありがとうございました。（10月28日）

問い合わせ先　北海道大学「持続可能な開発」国際戦略本部

TEL: 011-706-2334

E-mail : g-seminar[at]oia.hokudai.ac.jp

## 実施報告

このセミナーは，国連大学が主催するもので，国連の役割や人類が直面している地球規模の問題について，学生や社会人に関心と問題意識を持ってもらうため，全国各地で実施されていますが，北海道セッションは，第9回となる今年をもって終了します。その最終記念セッションを，本学との共催で札幌キャンパスにて開催しました。全国から定員を超える応募があり，本学学生21人を含む48人の学生が参加しました。

サステナビリティ・ウィーク2009期間中に開催することとなったため，セッションテーマは「持続可能な社会の担い手となるために～2015年までに国際社会が達成すべきミレニアム開発目標の現状を知る～」と設定されました。

ミレニアム開発目標（MDGs）とは，21世紀の国際社会が喫緊に取り組むべき人類の目標として，国際連合が2000年に掲げたもので，2015年までに達成すべき8つの目標と18のターゲットが定められています。このセミナーでは，MDGs 達成は持続可能な社会の実現に向けた試金石であるとの認識の下，この達成に向けて尽力している方々を講師にお迎えしました。

午前中は2つの基調講演を行いました。はじめに，「サステナビリティを目指す国連大学の取り組み」と題して国連大学副学長の武内和彦氏から，次に「ミレニアム開発目標：21世紀の人間開発の実現に向けて」と題して，国連開発計画東京事務所の西郡俊哉氏からお話いただきました。

午後には，以下のような6つの分科会に分かれ，それぞれの担当講師と活発な質疑応答を行いました。

1. 貧困と飢餓の削減…NGO「動く→動かす」事務局長 稲場雅紀氏

2. 初等・中等教育と男女平等…JICA企画役小泉高子氏

3. 保健・医療…（財）ジョイセフ アドボカシー・グループ チーフ矢口真琴氏

4. 水・衛生…NPO法人日本水フォーラム ディレクター 井上智夫氏

5. 環境…JICA調査役 波多野誠氏 6. グローバル・パートナーシップ…国連開発計画東京事務所 西郡俊哉氏

アンケートからは，多くの参加者がMDGsの最前線で活躍する人との質疑応答を通じて新しい発見をしたことや，今後の研究や生活に大きな刺激を受けたことが窺われました。また，MDGsについてもっとよく知りたい，分科会の時間をもっと長く取って欲しかった，このような現場の声を聴くセミナーを再び開催して欲しいなどの意見が多く寄せられました。

講師の方々からは，参加者の積極性に目を見張ったこと，1つの分科会を8人と少人数にしたことや，多様な学部・大学院の学生を一つの分科会に入れて多様な議論の場を創出したことを高く評価していただきました。さらに，自らの活動について学生とじっくりと話し合うことのできるこのような機会をまた開催して欲しいとの要望が寄せられました。

議論に盛り上がりを見せた分科会

グローバル・セミナー集合写真

# 第2回センチネル・アース国際シンポジウム – 市民向け講座–

## 行事概要

| | |
|---|---|
| 開催期間 | 2009年11月3日（火・祝） 13:00 – 16:00（終了しました） |
| 主催者 | 北海道大学、アジア工科大学、アラスカ大学、パランカラヤ大学、宇宙航空研究開発機構 |
| 共催 | 北海道大学情報科学研究科、工学研究科、農学研究院、理学研究院、地球環境科学院、水産科学研究院、低温科学研究所、宇宙理工学推進室リモートセンジング・GIS分科会<br>（財）リモート・センシング技術センター<br>（財）札幌国際プラザ |
| 会場 | 北海道大学 学術交流会館 小講堂 |
| 言語：日本語 | 対象：一般市民、大学生 |
| 学問分野 | 気候・環境変動 |
| 行事概要 | 地球温暖化に伴う気候・環境異変が近年重要な研究テーマとなっています。特にその具体的な現象は、様々な環境・気候要因が絶妙なバランスで成り立っている、地球の極限的な地域、すなわち極地で現れやすくなっています。<br><br>極地の一つである北極圏に関する環境・気候変動を、長期間にわたり衛星観測研究してきた成果について、市民向けの講演を行います。 |
| プログラム | 当日のプログラムはこちら |
| 事前申し込み | 不要（無料） |
| 問い合わせ先 | 北海道大学情報科学研究科<br>E-mail ishige[at]scc.ist.hokudai.ac.jp<br>FAX 011-706-6295 |

## 実施報告

11月3日（火）の市民向け講座では，「地球温暖化と北極異変」と「宇宙から見る地球－人工衛星の利用－」について，動画を交えた最新データを基に一般参加者に分かりやすい講演を行いました。アンケートの結果，参加者の80%以上が本企画に満足と回答していました。

11月4日（水）の全体セッションでは情報科学研究科のJAXA連携講座の教育研究活動の紹介がされた後，リモートセンシングの応用として熱帯サイクロトロンのダイナミックスに関する洞察と新発見についての講演が行われました。陸域観測技術衛星（ALOS）とその応用（災害，図化と農業）セッションでは，ALOSのミッション紹介，アジアにおける技術移転のためのALOS利用，地理学への応用，ALOSの農業観測と災害モニタリングへの応用，北海道における地理情報システム（GIS）による農業と環境情報の共有と開示に関する講演が行われました。地球環境変動観測ミッション（GCOM）とその応用（海洋と大気）のセッションでは，GCOMのミッション紹介，漁業・水産文化への社会的応用，海洋表面のベクトル風の観測，アジア地域の大気汚染の観測に関する講演が行われました。

11月5日（木）のGCOMとその応用（陸域と極圏）では，北極分水嶺の水資源の貯蔵変化，地球規模の土壌水分のモニタリング，陸域植生変化，海氷変化の早期発見に関する講演が行われました。最後のセンチネルアジア（アジアの原野火災）セッションでは，セッションの目的とセンチネルアジアの概要紹介，火災危険度指数，火災検知アルゴリズムの開発，火災延焼予測とリスク解析，火災ホットスポット情報伝達，先進的な火災の制御と消火に関する講演が行われました。

地球環境の変化の観測において，人工衛星によるリモートセンシング技術の重要性が認識されたと同時にと今後の新しい利用拡大と一般市民への普及の重要性の共通認識が深まりました。そのため，第3回センチネル・アース国際シンポジウムを開催し，リモートセンシングとGISの統合を目指したより緊密な国際連携のネットワーク形成の実現をはかることとしました。

シンポジウム参加者数は，国内121名，海外28名（10ヶ国）の総計149名でした。

シンポジウム会場

講演会の様子

# 実験展示：統合科学が解明する「洞爺湖・有珠火山地域の過去と未来」

## 行事予定

| | |
|---|---|
| 実施報告 | 実施報告を読む |
| 開催期間 | 2009年11月4日（水）～13日（金） 10:00-16:00（終了しました） |
| 主催者 | 北海道大学総合博物館 |
| 共催 | 北海道大学統合科学コンソーシアム |
| 会場 | 北海道大学 総合博物館 |
| 言語：日本語 | 対象：一般市民、大学関係者、大学生 |
| 行事概要 | 人類社会の持続可能性が問われている今日、北海道大学が長く持続するためには何が必要か？<br><br>その答えの1つは統合科学である。個別の研究をある方向で統合すると、新しい研究の切り口、埋もれていた成果、思いがけない応用、将来の方向等々が見えてきます。<br><br>北大が「研究者の寄せ集め場」であることを脱し、そのような「統合の場」として機能すれば、社会の持続を支える者としての北大の持続性が保証されます。<br><br>本企画は、「北大統合科学」をパッケージとして展開するための最初の試みとして、「有珠洞爺湖地域の過去と未来」をテーマに、様々な分野の研究を展示すると共に、研究者、学生、市民がコーヒーカップ片手にフリートークを行い、学問統合から何が見えてくるかを議論します。 |
| 動画 | 下記より、統合科学が解明する「洞爺湖・有珠火山地域の過去と未来」のビデオがご覧いただけます。<br><br>＊縮小版はこちら（320 x 240, 25MB）<br>＊高画質版はこちら（640 x 480, 70MB）<br><br>※この動画を見るには、Windows MediaPlayerが必要です。 |
| 事前申し込み | 不要(無料) |
| 問い合わせ先 | 北海道大学理学研究院自然史科学部門<br>E-mail shunfm@sci.hokudai.ac.jp<br>FAX 011-746-0862 |

## 実施報告

「サステナビリティ・ウィーク2009」は，人類社会の持続可能性を北海道大学が研究・教育で支えようとの意図が元になっています。

しかし，人類社会の持続を考える前に北海道大学の持続可能性を考える必要があります。星の数ほどある日本の大学が研究・教育の質でしのぎを削っている中，ノーベル賞を狙える東京大学，京都大学に対抗し，「お取りつぶし大学リスト」に載らないために本学が取り得る策は「統合科学」である，と考えた北海道大学内外の有志は「北海道大学統合科学コンソーシアム」を作りました。研究者の個人プレイでノーベル賞を狙う戦略ではなく，研究者をたくさん集め，異分野の研究を統合することで他大学と差別化を図れます。様々な研究をある方向で統合すると，新しい研究の切り口，埋もれていた成果，思いがけない応用，将来の方向等々が見えてきます。本学が「研究者の寄せ集め場」であることを脱し，そのような「統合の場」として機能すれば，社会の持続を支える者としての北海道大学の持続性が保証されます。

11月4日（水）から開催した本企画は，「北大統合科学」をパッケージとして展開するための最初の試みとして，「洞爺湖・有珠火山地域の過去と未来」をテーマに，様々な分野の研究を展示し，その統合を考えるものです。11月8日（日）と13日（金）にポスター展示会と講演会を開催しました。参加者はそれほど多くはありませんでしたが，これまで顔を合わせたことのない異分野の研究者，学生，一般人がコーヒーカップ片手にフリートークを行い，学問統合から何が見えてくるかを議論しました。講演会は2回とも時間オーバーするほど議論が盛り上がる興味深いものでした。手前味噌ながら「統合科学」としての各学問の接点が何となく見えてきたような気がしました。

今後は別のテーマで「北大統合科学」を盛り上げて行くつもりです。

講演会の様子

学生・大学院生のポスター発表の様子

国際シンポジウム

a と ローバルチェンジ～」

## 行事概要

| | |
|---|---|
| 講演資料のダウンロード | http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/39928<br>（北海道大学学術成果コレクションHUCAPへのリンク） |
| 開催期間 | 2009年11月4日（水） 9:30 － 17:30 ※<br>2009年11月5日（木） 9:30 － 19:00 （終了しました）<br>※4日の開始時間が変更となりましたのでご注意ください（10月6日更新） |
| 主催者 | 北海道大学「持続可能な低炭素社会」づくりプロジェクトチーム |
| 共催者 | 北海道大学公共政策学連携研究部、地球環境科学研究院 |
| 会場 | 北海道大学 学術交流会館 講堂 |
| 言語：日本語・英語（通訳あり） | 対象：専門家、一般市民、大学生 |
| 行事概要 | 持続可能な社会に向け、社会科学的知見と自然科学的知見から議論を行います。<br><br>第1部：グリーン・ニューディール 11月4日（水）9:30 － 17:30<br>環境危機と金融経済危機を統合的に解決しようとする取り組みが、アメリカのオバマ大統領のグリーン・ニューディール政策をはじめ各国そして各地で始まっています。これらの取り組みを国連レベル、国レベルさらには地域レベルで捉え、学問的に比較検討して評価を行います。<br><br>第2部：グローバルチェンジ 11月5日（木） 9:30 － 19:00<br>地球温暖化と生態系が正のフィードバックを生み出すと、生物資源に大きな打撃があることを提示します。さらに、極域海氷の減少といった環境変化の情報ならびに、これら環境変化が人間社会に与えるインパクトの情報を、どのように開示すれば市民が有効に役立てることができるのかについて示唆します。 |

| | |
|---|---|
| ポスター | <br>ポスターダウンロード(272KB) |
| 事前申し込み | 不要(無料) |
| 問い合わせ先 | 北海道大学「持続可能な低炭素社会づくり」プロジェクトチーム<br>TEL: 011-706-4717 011-706-4717 011-706-4717 011-706-4717 E-mail : low-carbon[at]hops.hokudai.ac.jp |

## プログラム

※下記に掲載のプログラムは、10月15日現在のもので、詳細は変更になる可能性があります。

11月4日(水) 第1部 グリーン・ニューディール

| 開始 | プログラム | 講演者 |
|---|---|---|
| 9:00～9:30 | 受付開始 | |
| 9:30～9:35 | 開会挨拶 | 中村研一(北海道大学公共政策大学院長) |
| 9:35～10:05 | 基調講演「グリーン・ニューディールの世界的展望と課題」 | 吉田文和(北海道大学公共政策学研究センター長) |
| 10:05～10:35 | 基調講演「国連主導のグリーン経済とグローバルグリーンニューディール構想」 | 盛馥来 (シニアエコノミスト、国連環境計画(UNEP) 経済・貿易担当) |
| 10:35～11:05 | 基調講演「グリーン開発・環境と経済の関係を再考する」 | ジェームズ ハインツ(マサチューセッツ大学アマースト校・政治経済研究所副所長) |
| 11:05～11:20 | 休憩(15分) | |
| 11:20～11:50 | 基調講演 | ミランダ シュロアズ(ベルリン自由大学・環境政策研究所長) |
| 11:50～12:20 | 基調講演「中国の環境税とエネルギー税—低炭素経済を目指して」 | 馬 中 (中国人民大学環境学院・院長) |
| 12:20～12:50 | 基調講演「韓国におけるグリーンニューディールプログラムの評価」 | 權五祥 (ソウル国立大学農業経済農村開発部・教授) |

| | | |
|---|---|---|
| 12:50～14:10 | 昼食 | |
| 14:10～15:30 | パネルディスカッション・質疑応答 | |
| 15:30～15:45 | 休憩（15分） | |
| 15:45～16:00 | 「中国における排出量取引－問題点と戦略」 | 鞠美庭（南開大学環境科学工学部） |
| 16:00～16:15 | 「タイの気候変動長期管理における発電政策―利害関係者の姿勢とTOWSマトリクス分析」 | ナツーダ プミジュムノン（マヒドン大学環境資源学） |
| 16:15～16:30 | 「韓国のグリーン成長と持続可能な都市づくりを目指した工業都市への転換－昌原のケース」 | 姜正雲（昌原大学校社会学部行政学科） |
| 16:30～16:45 | 「中国の江蘇、浙江、上海地区の温室ガス排出」 | 徐新华（浙江大学環境資源学部） |
| 16:45～17:00 | 「モンゴルにおける持続可能な低炭素社会構築の可能性」 | バヤルマ ボールド（モンゴル国立農業大学国際関係） |
| 17:00～17:15 | 「ナイジェリアにおける持続可能なバイオエネルギー」 | J.C. Ogbonna and B.N. Okolob（ナイジェリア大学微生物学部） |
| 17:15 | 閉会の挨拶 | 吉田文和（北海道大学公共政策学研究センター長） |

## 11月5日（木）第2部 グローバルチェンジ

| 開始 | プログラム | 講演者 |
|---|---|---|
| 9:00～9:30 | 受付開始 | |
| 9:30～ | 開会挨拶 | 池田元美（北海道大学地球環境科学研究院） |
| セッション1　9:30～11:00<br>生態系に対する気候変動の影響とフィードバック<br>フォーカス 1-1: 北極地域に現れる顕著な指標と気候変動との相互作用 | | |
| 9:30～10:00 | 基調講演「シベリアにおける積雪と水文学」 | ディクィンヤング（アラスカ大学水文環境研究所教授・ノルウェー北極研究所長） |
| 10:00～10:20 | 「高解像AGCMによる時列実験に基づく東アジアにおける気候変動予測」 | Jai-Ho Oh（釜慶大学校） |
| 10:20～10:40 | 「グローバルチェンジにおける北極海海氷の減少」 | 池田元美（北海道大学地球環境科学研究院） |

| | | |
|---|---|---|
| 10:40～10:55 | 休憩（15分） | |
| 10:55～12:45 フォーカス1-2: 陸海における生物地球化学システム | | |
| 10:55～11:20 | 基調講演「モンゴル遊牧民の放牧、牧畜、生活様式と気候変動」 | Shirev-adiya Samdan（モンゴル科学アカデミー地理学研究所教授） |
| 11:20～11:40 | 「北海道北部における森林生態系の生物地球化学過程：気候変動と人為攪乱影響」 | 柴田英昭（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター） |
| 11:40～12:05 | 基調講演「オホーツク海における海水の現状と将来予測」 | アンドレイ G. アンドリーブ（ロシアウラジオストック国立海洋研究所主任研究員） |
| 12:05～12:25 | 「北極に関する論評」渡辺豊（北海道大学地球環境科学研究院） | |
| 12:45～14:00 | 昼食 | |
| 13:30～14:00 ポスターセッション1 | | |
| セッション 2<br><br>14:00～16:15 適応と緩和、気候へのフィードバック<br><br>フォーカス2-1: グローバルチェンジにおける食糧資源 | | |
| 14:00～14:25 | 基調講演「生態系に基づく水産資源管理と気候変動」 | 張昌翼（釜慶大学校水産科学大学水産資源学教授） |
| 14:25～14:45 | 「気候変動と持続可能な水産業」 | 帰山雅秀（北海道大学大学院水産科学研究院） |
| 14:45～15:05 | 「ナイジェリア東南部の土地管理技術と低炭素社会の推進－エボニ州立大学のケース」 | ハピネスオグバオサルベ（エボニ州立大学穀物生産造園管理） |
| 15:05～15:25 | 「河川の展望—持続可能性の探求」 | ゲイリー ブリーリ（オークランド大学自然地理学・環境科学） |
| 115:25～15:45 | 「流動層燃焼廃棄物技術の研究開発」 | Yong Chi（浙江大学エネルギー工学科） |

| | | |
|---|---|---|
| 15:45～16:05 | 「北海道大学バイオマスプロジェクトの関する論評」 | 荒木 肇(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター) |
| 16:05～16:15 | ディスカッション | |
| 16:15～17:00 ポスターセッション 2 | | |
| 17:00～18:30 フォーカス 2-2 グローバルチェンジにおける水資源 | | |
| 17:00～17:10 | | 松下 拓(北海道大学大学院工学研究科) |
| 17:10～17:30 | 「気候変動と飲料水」 | 山田俊郎(国立保健医療科学院主任研究官) |
| 17:30～17:50 | 「施設園芸ハウスにおける湛水が硝酸性窒素による地下水汚染および亜酸化窒素の放出に及ぼす影響」 | 藤原拓 (高知大学教育研究部自然科学系農学部門) |
| 17:50～18:10 | 「余剰汚泥の再資源化による地球温暖化の抑制―高速回転ディスクを用いた余剰汚泥からのメタンの高効率回収プロセスの開発」 | 今井剛(山口大学大学院理工学研究科) |
| 18:10～18:30 | 「下水処理システムからの新規リン資源回収技術の評価および最適操作因子の検討」 | 高岡昌輝(京都大学大学院工学研究科) |
| 18:30～19:00 | ディスカッション<br>―グローバルチェンジとグリーン・ニューディール | |
| 19:00～19:05 | 閉会の挨拶 | 池田元美 (北海道大学地球環境科学研究院) |

## 実施報告

11月4日（水）は，世界のグリーン・ニューディール政策について日中韓欧米と国連環境計画の経済学者を招いて講演及びパネル・ディスカッションを行うとともに，6名の本学協定校の大学教授等を招いて各国の低炭素社会に向けた環境・経済政策についてご講演をいただきました。世界各国における低炭素社会に向けた取組が具体的事例を挙げながら明らかにされ，大変意義深いシンポジウムとなりました。

公共政策大学院においては，今後とも，参加各国の研究者と連携を取りながら，グリーン・ニューディール政策を中心として低炭素社会づくり政策に関する調査研究を継続することとしています。

5日（木）は，地球環境変動（グローバルチェンジ）について，1）気候変動が生態系に及ぼす影響とフィードバック，2）陸海における生物・化学システム，3）グローバルチェンジにおける食料資源，及び4）水資源の4つのセッションを順次開いて，8名の海外研究者，10名の日本研究者による講演，討論を行いました。その他，学生等のポスターセッションを実施し，自然科学から社会系への問いかけも含んだ学際的なシンポジウムとなりました。地球環境科学研究院を中心とする本シンポジウム実施グループは，緊急課題を解明するためのキーメカニズムを公表し，国内外の参加研究者と連携を取りながら，地球環境変動の科学的究明と対策技術の確立を図っていくこととしています。

ミランダ・シュロアズ ベルリン自由大学・環境政策研究所長による基調講演

馬中 中国人民大学環境学院院長による基調講演

◆講演資料のダウンロード：http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/39928

（北海道大学学術成果コレクションHUCAPへのリンク）

# 第2回センチネル・アース国際シンポジウム

研究ー

## 行事予定

| | |
|---|---|
| 開催期間 | 2009年11月4日（水）～5日（木） 9:30 – 17:00（終了しました） |
| 主催者 | 北海道大学、アジア工科大学、アラスカ大学、パランカラヤ大学、宇宙航空研究開発機構 |
| 共催 | 北海道大学工学研究科、農学研究院、地球環境科学研究院、低温科学研究所、宇宙理工学推進室 リモートセンシング・北海道大学情報科学研究科、工学研究科、農学研究院、理学研究院、地球環境科学院、水産科学研究院、低温科学研究所、 宇宙理工学推進室リモートセンジング・GIS分科会<br>（財）リモート・センシング技術センター<br>（財）札幌国際プラザ |
| 会場 | 北海道大学 学術交流会館 小講堂 |
| 言語：英語 | 対象：専門家、一般市民、大学生 |
| 行事概要 | 近年、気候異変が地球環境へ及ぼす影響に関する研究が重要となってきています。様々な研究分野を統合するための学際的な解決策に、衛星データ・衛星画像データを利用することが挙げられます。<br><br>本シンポジウムでは、次の3つのセッションにおいて、最新の利用成果について報告します。<br>1. 大気・海洋観測への利用<br>【内容】宇宙からの大気・海洋観測の最前線の研究・利用を紹介<br><br>2. 災害観測・農(林)業・(地図)への利用<br>【内容】人工衛星データを用いた災害状況把握や農業利用の実例を紹介<br><br>3. 陸域・雪氷環境観測への利用<br>【内容】主に陸域・雪氷研究への衛星データ利用例を紹介 |
| プログラム | 詳細プログラムはこちら |
| 事前申し込み | 不要(無料) |
| 問い合わせ先 | 北海道大学情報科学研究科<br><br>E-mail ishige[at]scc.ist.hokudai.ac.jp<br><br>FAX : 011-706-6295 |

## 実施報告

11月3日（火）の市民向け講座では，「地球温暖化と北極異変」と「宇宙から見る地球－人工衛星の利用－」について，動画を交えた最新データを基に一般参加者に分かりやすい講演を行いました。アンケートの結果，参加者の80%以上が本企画に満足と回答していました。

11月4日（水）の全体セッションでは情報科学研究科のJAXA連携講座の教育研究活動の紹介がされた後，リモートセンシングの応用として熱帯サイクロトロンのダイナミックスに関する洞察と新発見についての講演が行われました。陸域観測技術衛星（ALOS）とその応用（災害，図化と農業）セッションでは，ALOSのミッション紹介，アジアにおける技術移転のためのALOS利用，地理学への応用，ALOSの農業観測と災害モニタリングへの応用，北海道における地理情報システム（GIS）による農業と環境情報の共有と開示に関する講演が行われました。地球環境変動観測ミッション（GCOM）とその応用（海洋と大気）のセッションでは，GCOMのミッション紹介，漁業・水産文化への社会的応用，海洋表面のベクトル風の観測，アジア地域の大気汚染の観測に関する講演が行われました。

11月5日（木）のGCOMとその応用（陸域と極圏）では，北極分水嶺の水資源の貯蔵変化，地球規模の土壌水分のモニタリング，陸域植生変化，海氷変化の早期発見に関する講演が行われました。最後のセンチネルアジア（アジアの原野火災）セッションでは，セッションの目的とセンチネルアジアの概要紹介，火災危険度指数，火災検知アルゴリズムの開発，火災延焼予測とリスク解析，火災ホットスポット情報伝達，先進的な火災の制御と消火に関する講演が行われました。

地球環境の変化の観測において，人工衛星によるリモートセンシング技術の重要性が認識されたと同時にと今後の新しい利用拡大と一般市民への普及の重要性の共通認識が深まりました。そのため，第3回センチネル・アース国際シンポジウムを開催し，リモートセンシングとGISの統合を目指したより緊密な国際連携のネットワーク形成の実現をはかることとしました。

シンポジウム参加者数は，国内121名，海外28名（10ヶ国）の総計149名でした。

シンポジウム会場

講演会の様子

# 国際シンポジウム「気候変動による地域固有システムへの影響」

## 行事予定

| | |
|---|---|
| 講演資料のダウンロード | http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/39876<br>（北海道大学学術成果コレクションHUCAPへのリンク） |
| 開催期間 | 2009年11月6日（金）10:00～17:00（終了しました） |
| 主催者 | 北海道大学グローバルCOE“統合フィールド環境科学の教育研究拠点形成” |
| 会場 | 北海道大学 学術交流会館 講堂 |
| 言語：英語(通訳無し)　対象：専門家、大学生 | |
| 行事概要 | IPCC第4次報告書に見られるように、地球温暖化による気候変化・生態系へのグローバルな影響などの将来像が明らかになってきました。一方、それぞれの地域には、固有の水循環・生態系などの地域固有システムが存在し、それらに対する、グローバルな気候変化がローカルな人間活動とともにどのように影響するかは必ずしも明らかではありません。<br><br>本シンポジウムは、国内外のグローバルな気候変動・生態系変動の専門家とともに、ローカルな視点で地域固有システムのサステイナビリティーを議論し、研究・実践などの提言をまとめていくことを目的とします。 |
| 事前申し込み | 不要（無料） |
| URL | シンポジウムの最新詳細は、下記のウェブサイトからご覧いただけます。<br>http://gcoe.ees.hokudai.ac.jp/imtf/sw2009_climate-sympo/ |
| 問い合わせ先 | 北海道大学環境科学事務部グローバルCOEユニット<br><br>TEL: 011-706-4861<br><br>E-mai: gcoe[at]ees.hokudai.ac.jp |

## 実施報告

本シンポジウムでは，地球温暖化に代表される地球規模の気候変動によって世界各地で生じる様々な環境の変化について議論することを目的とし，特にIPCC第4次報告書以降に得られた最新の知見を発表しました。

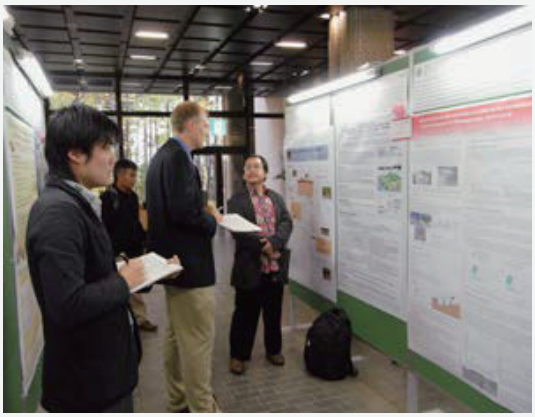
ここで扱う「地域固有の環境システム」は，地球温暖化の影響，生態系変化の程度，雪氷圏の変化，地球化学循環の変化，現地の人間活動の介入度などそれぞれの地域によって大きく異なっているため，地域スケールの影響評価が必要です。このような理由から，環境改善のための対策や適応策は，各地域に特化した提案が必要となります。

発表は，グローバルCOEプログラムで対象とする海外3地域（ロシア，モンゴル，インドネシア）からの招聘研究者と，学内の研究者，及び国内外からの招待講演による構成としました。ロシアからは永久凍土と密接に関係する北方林の重要性が指摘され，モンゴルからは草原劣化の定量化や周氷河地形の変化についての報告がありました。インドネシアからは人間による開発後の深刻な泥炭地火災とそれによるメタン放出について報告がありました。

また，地球規模の気候と，各地域の関係を明確にするため，全球気候モデルの研究者による報告があり，地域気候を調べる上での問題点や課題が示されました。

総合討論では，上記のような広い専門分野間の連携，モデリングや観測など異なる研究手法，異なる研究対象領域を総合的に捉えるための議論が行われました。IPCC第4次報告時点では気候予測のモデルで表現されていない現象（永久凍土の変化や泥炭地からのメタン放出）についてのコメントがあり，気候モデルでの表現方法についてのアイディアが示されました。さらに，「各地域での政策決定に有用な気候予測とはどうあるべきか」という，気候変動への適応と持続可能な社会実現へ向けた議論が行われました。

会場での議論



学生によるポスター発表の様子

◆講演資料のダウンロード：http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/39876
（北海道大学学術成果コレクションHUCAPへのリンク）

# 第2回 セラミド研究会 学術集会

## 行事予定

| | |
|---|---|
| 開催期間 | 2009年11月6日（金） 9:30 ～18:00（終了しました） |
| 主催者 | セラミド研究会事務局 |
| 共催 | 文部科学省 知的クラスター創成事業<br>北海道大学大学院先端生命科学研究院次世代ポストゲノム研究センター |
| 会場 | 北海道大学 学術交流会館 小講堂、ホール |
| 言語：日本語・英語（通訳無し） | 対象：専門家 |
| 行事概要 | 私達の体の健康維持に細胞の脂質成分であるセラミドのかかわりが、癌、神経、皮膚などの組織で重要な働きをしていることがわかってきました。<br><br>本研究会では、国内外の研究者（アカデミックと企業）による講演、ポスター発表を中心にして、セラミド研究の進展の交流をはかり、又、北海道バイオクラスター（さっぽろBio-S）の事業展開の一助となることを期待しています。 |
| 事前申し込み | 必要（有料） 詳細はウェブサイトをご覧ください。<br>http://www.ceramide.gr.jp/meeting/index.html |
| 問い合わせ先 | セラミド研究会事務局<br><br>E-mail: info[at]ceramide.gr.jp<br><br>FAX: 011-706-9024 |
| URL | 第2回セラミド研究会 学術集会<br>http://www.ceramide.gr.jp/meeting/index.html |

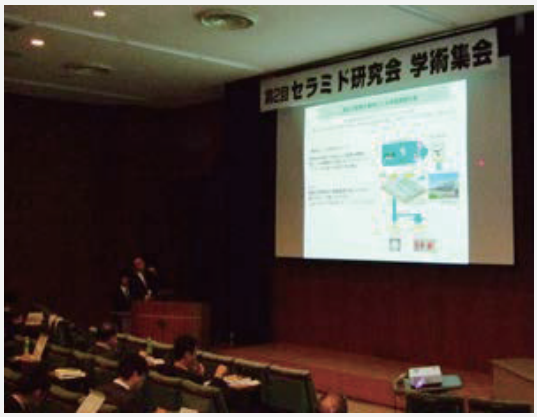
## 実施報告

海外から2名の学者を含む6名の招待講演者，19名の一般講演者による口頭発表を中心として開催され全国から100余名が参加しました。

海外からの招待講演はシンガポールデュークNUS医学大学院のScott Summers先生による「糖尿病と心疾患におけるセラミドの役割」，米国カルフォニア大学のYoshikazu Uchida先生による「皮膚に特徴的なセラミド分子種」で，それぞれ世界の最先端の研究が紹介され参加者に感銘を与えました。

また，帯広畜産大学の木下幹朗先生による「植物・酵母由来のスフィンゴ脂質の食品機能性」，本学医学研究科の秋山真志先生の「セラミドは皮膚バリアの要」，大阪大学の石井優先生の「S1Pによる骨形成制御」，高砂香料工業（株）の石田賢哉先生による「光学活性セラミドの開発と機能特性」などの招待講演，更には産業技術総合研究所の田坂恭嗣先生によるランチョンセミナー「遺伝子組換え植物による動物型スフィンゴ糖脂質の生産」など，スフィンゴ脂質，セラミドを巡って注目を集めている新しい研究が次々に紹介されました。一般講演にも多数の優れた発表があり，9時半から18時までぎっしり詰まった学術会議となり，懇親会にも多数参加があり，懇親を深めました。

近年，機能性食品による健康増進，セラミドの皮膚機能亢進やがん予防などの生理機能に関心が高まってきていますが，今回の学術集会はそうした関心に対してサイエンスベースのエビデンスに基づく発展を目指すもので，参加した多くの企業研究者にもその方向を示す会となりました。今後もその更なる発展を目指して，学術集会，国際食品素材／添加物展・会議（ifia）での取り組み，ホームページを通じた広報活動等を継続して展開していくことが決められました。



熱気に包まれた会場の様子

Summers先生（シンガポール デュークNUS医学大学院）による講演

# 国際シンポジウム「明日の海と食を守る水産海洋サステナビリティ学」

## 行事予定

| | |
|---|---|
| 講演資料のダウンロード | http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/39907<br>（北海道大学学術成果コレクションHUCAPへのリンク） |
| 開催期間 | 2009年11月7日（土）10:00～17:00 （終了しました） |
| 主催者 | 北海道大学大学院水産科学研究院 |
| 共催 | 日本学術会議 |
| 会場 | 北海道大学函館キャンパス マリンサイエンス創成研究棟1F |
| 言語：英語(必要に応じて日本語でも対応)　対象：専門家・一般市民・高校生・大学生・大学教員等 | |
| 行事概要 | 水産資源は、人類にとって再生可能なサステナブルな資源のはずですが、前世紀末から乱獲による漁業資源の減少や養殖による沿岸生態系の攪乱と食品安全性への不安という種々の課題を呈するようになってきました。<br><br>本シンポジウムでは、海洋生態系と水産食料に関する世代間を越えてニーズを満足させる「世代間衡平性」を確実なものとする「明日の海と食を守る」ため、国際的な協調に向けた環太平洋の研究教育ネットワークの構築を模索することを目的としています。<br><br>カナダのブリテッシュ・コロンビア大学Fisheries Center所長のU.R. Sumaila教授、韓国の釜慶大学Chang Ik Zhang教授をはじめ、インドネシアおよび中国等の環太平洋国の研究者が参加します。 |
| 事前申し込み | 不要（無料） |
| 要旨集 | 会議のポスター、要旨集はこちらからダウンロードいただけます。（PDF） |
| 問い合わせ先 | 北海道大学水産科学研究院 担当：帰山<br><br>TEL: 0138-40-5605 |

## 実施報告

本国際シンポジウムは，地球上約29億人の人類が食料として利用している水産資源とその生産母体である海洋生態系を将来ともに世代間衡平性に基づき確実なものとする「明日の海と食を守る」ために，また国際的な協調性に向けた環太平洋の研究教育ネットワークを構築する目的のために開催されました。参加者は我が国を含め7カ国（カナダ，アメリカ合衆国，中国，韓国，インドネシア，フィリピン及び日本）の研究者，行政担当者，市民及び学生の延べ123名に及びました。主な内容と成果は次のとおりです。

1. 招待講演:

ウッシ・サミラ(UBC)「水産食料と海洋生態系の保全のための空間生物経済学」

張昌翼(釜慶大学)「生態系ベースの漁業評価と予測」

ウィリアム・スモーカー(UAF)「アラスカさけ漁業における持続可能性」

譚洪新(上海海洋大学)「中国における水産養殖の現状と最近の進歩」

2. 北海道大学水産科学研究院の教員による講演:

桜井泰憲「次世代への海洋生態系保全と水産食料安全保障ー知床世界自然遺産地域の水産生態系アプローチと順応的管理に関する事例研究」

吉水 守「サケ孵化放流事業における稚魚の健康管理と安全なサケ生産」

帰山雅秀「海洋生態系保全と水産食料安全保障のための持続可能性」

3. パネルディスカッション コーディネイター:齊藤誠一(北海道大学水産科学研究院)

袁 春紅(北海道大学)「プランクトン食魚類ハクレンの養殖と生産ー中国における内水面漁業の持続可能な発展のために」

エドパリナ・リザリータ(UNU)「フィリピンにおける水産養殖インパクト軽減のための管理選択肢」

ラディアータ・I・ニョオーマン(北海道大学)「持続可能な養殖業のための空間情報システムアプローチ」

石村学志 (北海道大学)「気候変動に影響される多国間共有水産資源管理の直面する問題, そして, 持続的管理に向けた挑戦ー自暴自棄なPacific sardine資源管理ゲーム分析と政策提言」

今後の展開として, 次世代のために食と海を守るためには順応的管理と予防原則に基づく生態系アプローチ型リスク管理が最も重要であり, 海洋生態系の環境収容力をよく理解し, 食と海洋生態系を守るための新たな生態学的水産海洋学へのパラダイムシフト, 食育等の教育改善を提言しました。

パネルディスカッションの様子 講演者・主催者一同

講演者・主催者一同

◆講演資料のダウンロード:http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/39907
(北海道大学学術成果コレクションHUCAPへのリンク)

# 地球交響曲-ガイアシンフォニー第五番上映会 & 龍村仁監督特別講演会

## 行事予定

| | |
|---|---|
| 開催期間 | 2009年11月7日（土）<br>【映画上映】午前の部：10:00-12:15 午後の部：13:00-15:15 夕方の部：17:15-19:30<br>【監督特別講演会】15:30-17:00 【懇親会】20:30～ （終了しました） |
| 主催者 | 北大ガイアプロジェクト |
| 会場 | 北海道大学 クラーク会館 講堂 |
| 言語：日本語 | 対象：小学生以上 |
| 行事概要 | 映画「地球交響曲-ガイアシンフォニー-」は科学・スポーツ・音楽など様々な分野で活躍する人々に注目し，地球や自然，環境をテーマに彼らの生き方，考え方を捉えたドキュメンタリー映画シリーズです．<br><br>「地球交響曲 第五番」にはアーヴィン・ラズロ（哲学者、物理学者、音楽家）、石垣昭子（草木染織家）らが出演します．<br><br>特別講演会には「地球交響曲」監督の龍村仁氏をお迎えし，作品にこめられた人や自然の叡智について語っていただきます．生き方を創造するための“ヒント”を賢人達から感じてください． |
| 事前申し込み | 必要(無料)<br>電話，又はメールで，代表（新井）または副代表（伊藤）までご連絡ください。<br>申込期間：9月15日から11月7日まで |
| URL | 北大ガイアプロジェクト ウェブサイト<br>http://geos.ees.hokudai.ac.jp/globalwarming/GAIA/gaia.html |
| 問い合わせ先 | 北大ガイアプロジェクト<br>TEL: 080-5592-9735（代表 新井），090-1532-3279（副代表 伊藤）<br>E-mail: hokudaigaia[at]gmail.com |

## 実施報告

本企画では龍村仁監督作品「地球交響曲ーガイアシンフォニーー第五番」の上映会と，龍村監督による特別講演会を実施しました。「地球交響曲ーガイアシンフォニー」は科学・スポーツ・音楽など様々な分野で活躍している人々にスポットを当て，地球や自然，環境をテーマに彼らの生き方，考え方を捉えたドキュメンタリーシリーズです。その中でも今回上映した「第五番」は”全ての存在は繋がっている”ということをコンセプトに制作された作品です。本作品には織物作家の石垣昭子さん，哲学者であり，音楽家でもあるアーヴィン・ラズロー氏が出演され，自然に寄り添いながら生きること，混沌とした現代を前向きに生きることを見る者に投げかけています。他にも元宇宙飛行士のラッセル・シュワイカート，14世ダライ・ラマ法王らも出演しており，健やかな生命，豊かな世界の誕生に伴う痛み，苦しみの意味について説いています。

龍村仁監督による講演会では，地球交響曲を撮り始めてからの経緯や，現在編集中である「第七番」の制作エピソード，「第五番」の制作時の苦難などをお話しいただきました。

本企画は「北大元気プロジェクト」に採択されたため，無料で一般公開することができました。さらに，サステナビリティ・ウィーク2009のプログラムの1つとさせていただいたことによる大々的な告知により，当日は学内外問わず400名あまりの方々にご来場いただき，盛況の内に無事終えることができました。

地球環境やその持続性を考えたり，世界に散在する諸問題を解決するためには人の考え方や心の変革によって創造されるひとりひとりの”生き方”が大切だと私達は考えます。学術拠点である北海道大学において，サステナビリティ・ウィークの1企画として「人の心を育てる」企画が実現できたことはとても大きな意味を持っているはずです。これからも「頭と心のバランス」の取れた優れた人材育成を目指す北海道大学としてあって欲しい，サステナビリティ・ウィークもそうあって欲しいと願っています。私達はこれからも地球交響曲を通じてたくさんの方々が穏やかな気持ちを共有する時間・空間づくりを続けていきます。また来年もサステナビリティ・ウィークでご一緒できますことを楽しみにしています。

ポスター

# 国際シンポジウム
# 「オホーツク海の環境保全に向けた日中露の取り組みにむけて」

## 行事予定

| | |
|---|---|
| 開催期間 | 2009年11月7日（土） 9:15 – 18:00<br>2009年11月8日（日） 8:30 – 19:00（終了しました） |
| 主催者 | • 北海道大学低温科学研究所 環オホーツク観測研究センター<br>• 北海道大学 スラブ研究センター<br>• 総合地球環境学研究所<br>• 北見工業大学未利用エネルギー研究センター<br>• 国土交通省北海道開発局<br>• 国際科学技術センター<br>• 北海道大学「持続可能な開発」国際戦略本部 |
| 共催 | 文部科学省 |
| 会場 | 北海道大学 学術交流会館 第一会議室 |
| 言語：日本語/中国語/ロシア語（同時通訳有り） | 対象：専門家、一般市民、大学生、行政関係 |
| 行事概要 | オホーツク海および隣接する親潮域は、世界でもまれにみる豊かな海域です。近年、これらの海域に与えるアムール川（中国名：黒龍江）の二つの影響が明らかとなりました。ひとつは、アムール川を起源とする溶存鉄がオホーツク海や隣接する親潮域の基礎生産に果たす役割であり、もうひとつはアムール川流域で排出される種々の汚染物質がオホーツク海に及ぼす可能性です。オホーツク海や親潮域の自然環境を保全するためには、隣接するアムール川流域を同時に保全する必要があります。<br><br>本シンポジウムでは、日中露の三カ国の研究者による討論を通じ、この陸域・海域の環境保全に向けた国際協力のあり方を議論します（同時通訳付）。 |

プログラム・ポスターのダウンロード(PDF750MB)

| | |
|---|---|
| プログラム | プログラムの詳細ははこちらからもご覧いただけます。http://www.chikyu.ac.jp/AMORE/2009symposium.html#top |
| 事前申し込み | 不要（無料） |
| 問い合わせ先 | 北海道大学低温科学研究所 環オホーツク観測研究センターシンポジウム事務局<br>E-mail: ao-symposium[at]lowtem.hokudai.ac.jp<br>FAX: 011-706-7142 |
| URL | http://wwwoc.lowtem.hokudai.ac.jp/（※環オホーツク観測研究センターへのリンク）<br>http://www.chikyu.ac.jp/AMORE/（※アムール・オホーツクプロジェクトへのリンク） |

## 実施報告

本シンポジウムでは，アムール川流域とオホーツク海は物質循環と生態系連環によってひとつのつながりを持っているとの認識に基づいて，オホーツク海とアムール川流域の環境問題の現状を学問的に討議し，現在生じている種々の問題に対して日中露の研究者が国境を越えて情報共有や学問的基礎に則った討議を行うための恒常的な多国間ネットワークである「アムール・オホーツクコンソーシアム」の設立を試みました。

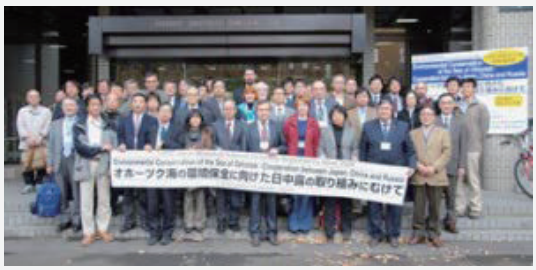
合計33件の研究成果が日本，中国，ロシア及びフィンランドの研究者から報告されました。その結果，オホーツク海においては，温暖化によると思われる海氷減少が海洋の鉛直循環を弱化させ，これが北太平洋中層水の昇温と溶存酸素濃度の減少を引き起こしていることが明らかとなりました。アムール川流域の湿地を起源とする溶存鉄は，この中層水循環によってオホーツク海のみならず，遠く親潮域まで輸送され，その海域の基礎生産を支えていることが明らかとなりましたが，中層水循環の弱化は，将来，鉄輸送量の減少を引き起こし，親潮域の基礎生産に影響を与える可能性があります。

一方，20世紀後半から21世紀にかけて進行するアムール川流域の湿原の干拓化は下流域へ輸送される鉄の減少を引き起こしている事実が示されました。

また，進展する工業化や油田の開発により，アムール川では深刻な汚染が進行しつつあることが示されました。オホーツク海では，油田事故による水質汚染に対し大きな危惧があるものの，現在の水質の汚染度は，環境基準値以下です。

アムール川流域で生じている急速な陸面被覆状態の変化は，グローバル経済の下で生じる複雑な駆動力によって引き起こされています。それゆえ，この問題を解決するには，一国のみならず，アムール川流域とオホーツク海を共有する多国間の不断の協力が必要となります。本シンポジウムの全参加者は，アムール川流域とオホーツク海地域の持続可能な発展とその環境保全を最重要課題であるとの認識を共有し，その保全に向けた学術研究者による情報交換を主たる目的とするネットワーク「アムール・オホーツクコンソーシアム」を設立するための共同声明に賛同し，全員の総意をもって採択しました。

白熱した議論


参加者一同

## 実験展示：Let’s サイエンス!!

### 行事予定

| | |
|---|---|
| 開催期間 | 2009年11月8日（日）10:00-15:00 （終了しました） |
| 主催者 | 北水サイエンスアシスト |
| 会場 | 北海道大学大学院水産科学研究院構内 |
| 言語：日本語 | 対象：小学生以上 |
| 行事概要 | 北水サイエンスアシストは，水産科学院の大学院生による組織であり，中高生や一般市民に理科の面白さを伝え広めるため，函館近郊の中学校や高校に実験器具を持ち込み，様々な科学イベントを行っています。<br><br>今回は，海洋観測の手段や生物多様性に関する研究を分かりやすくまとめたパネルを展示し，併せてこれまでの活動の紹介や，一緒に手を動かして実験出来る特設ブースを設ける予定です。 |
| 事前申し込み | 不要(無料) |
| 問い合わせ先 | 北水サイエンスアシスト 担当：小倉優一郎<br>TEL: 090-6664-2629 E-mail: jitennsya-kogu[at]fish.hokudai.ac.jp |

## 実施報告

今回の実験展示では，「人工イクラを作ろう！」と題した実験を行いました。海藻から抽出したアルギン酸ナトリウムが溶けた溶液に，カルシウムイオンが溶けた色水を滴下すると，アルギン酸ナトリウムとカルシウムイオンが化学反応を起こし，膜を形成します。この性質を利用し，水産学部の大学祭に来ていただいた方々と共に様々な色の人工イクラを作りました。

主な対象は小学生でしたが，保護者の方や，年配の方にも非常に好評で，訪問者が絶えることはありませんでした。単に実験だけを行うのではなく，かみ砕いた表現で子供達に実験の原理を丁寧に教えることができました。また相手に合わせて説明のレベルを柔軟に変化させることができたこと，発表者全員がそういった知識を共有できていたことなどは評価に値すると考えられます。できた人工イクラはファルコンチューブに入れて各自持って帰っていただきました。これも今回の実験が好評であった理由の一つであると考えられます。

今後は，引き続き「科学の面白さ」を多くの人々に伝えるための活動を行っていく予定であり，実験の種類も徐々に増やしていこうと考えています。将来的には函館の公共施設などで大々的に実験を行い，多くの人々に科学の面白さを伝えていきたいと考えています。

科学っておもしろい！

大人も子供も興味津々

# 国際シンポジウム「低温科学のフロンティア」

## 行事予定

| | |
|---|---|
| 開催期間 | 2009年11月9日（月） 10:00-17:00<br>2009年11月10日（火）9:30 - 18:30（終了しました） |
| 主催者 | 北海道大学低温科学研究所 |
| 会場 | 北海道大学 低温科学研究所 講堂 |
| 言語：英語（通訳無し） | 対象：専門家、大学生 |
| 行事概要 | 北海道大学低温科学研究所のテーマである「寒冷圏及び低温条件下における科学現象の基礎と応用」に関して、国内外の研究者を招待し、所内研究者ともに、研究の現状と今後の展望について話し合うことを目的として開催します。<br><br>本シンポジウムでは、「水・物質循環」、「雪氷新領域」、「生物環境」、「環オホーツク圏」の4つのセッションを企画しています。 |
| 事前申し込み | 不要(無料) |
| 問い合わせ先 | 北海道大学低温科学研究所<br><br>E-mail symposium[at]lowtem.hokudai.ac.jp<br><br>FAX 011-706-7142 |
| URL | シンポジウムの詳細<br>http://www.lowtem.hokudai.ac.jp/symposium/index.html#091109（※低温科学研究所へのリンク） |

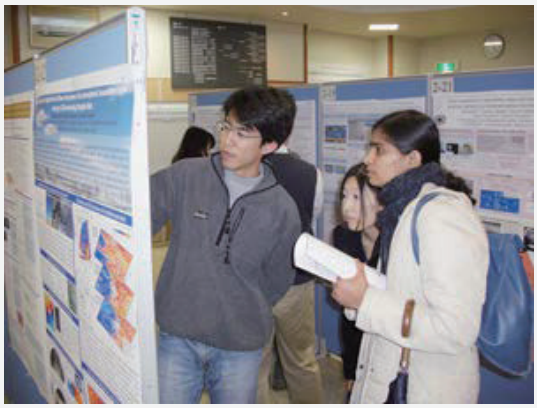
## 実施報告

低温科学研究所国際シンポジウム「低温科学のフロンティア」(ILTS International Symposium, “Frontier of Low Temperature Science”)は，低温科学研究所のテーマである「寒冷圏及び低温条件下における科学現象の基礎と応用」に関して，国内外の研究者を招待し，所内研究者ともに，研究の現状と今後の展望について話し合うことを目的として開催されました。

香内低温科学研究所所長が “Towards a new era in low temperature science”と題して，本年3月に部局間協力協定を締結したアルフレッド・ウェゲナー極域海洋研究所(ドイツ)を代表して Frank Wilhelms 教授が “How can ice science satisfy the public attention in a warmer world?” と題して，基調講演を行いました。

また，「水・物質循環」，「雪氷新領域」，「生物環境」，「環オホーツク圏」の4つの講演セッション及びポスターセッションを企画し，招待講演20件，ポスター発表30件が行われ，活発な議論が展開されました。2日間で延べ178名の参加者があり，その内訳は，学内151名(うち所内138名，所外13名)，学外27名(うち国内15名，海外12名)で，米国，ドイツ，中国，韓国からの参加がありました。

参加者一同


ポスター発表の様子

# 国際シンポジウム「持続的アジア社会構築に向けた日中の総合的大学間協力」

## 行事予定

| | |
|---|---|
| 開催期間 | 2009年11月12日（木） 13:00-17:30（終了しました） |
| 主催者 | 北海道大学サステイナビリティ学教育研究センター |
| 共催 | 立命館大学サステイナビリティ学研究センター、北海道大学SGP |
| 会場 | 北海道大学 学術交流会館 第一会議室 |
| 言語：日本語・中国語（通訳有り） | 対象：専門家 |
| 行事概要 | 北海道大学と立命館大学は、サステイナビリティ学の創成とその研究・教育を行うために、それぞれ独自にサステイナビリティ学の研究・教育を行うセンターを大学内に立ち上げてきました。<br><br>昨今の世界状況から、世界の持続的な発展にはアジア地域、特に中国と日本の連携が多くの分野で欠かせません。<br><br>本シンポジウムでは、持続的アジア構築に向けて、日本の大学が今後どの様に中国と連携をしていくべきかを探ります。 |
| プログラム | プログラムのダウンロード（PDF） |
| 事前申し込み | 不要（無料） |
| 問い合わせ先 | 北海道大学サステイナビリティ学教育研究センター<br><br>TEL:　011-706-4530<br>E-mail: jimu[at]census.hokudai.ac.jp |
| URL | http://www.census.hokudai.ac.jp |

## 実施報告

国際シンポジウム「持続的アジア社会構築に向けた日中の総合的大学間協力」と題し，日本と中国の大学間の協力関係のあり方に焦点を当てたシンポジウムを開催しました。本シンポジウムは日本語及び中国語による同時通訳によって提供され，当日は中国からの留学生などが参加者の3分の1ほどを占めました。

冒頭，招待講演者2名による基調講演が行われました。まず，招待講演者の北京大学副学長張国有教授による，中国における二酸化炭素排出と，自然再生エネルギーを中心とした二酸化炭素排出の効率的な削減を図る取り組みの現状が紹介されました。続いて，北海道大学の吉田文和教授より，中国では違法な廃棄物処理によって非常に安価に資源リサイクルが行われてきた状況が紹介され，日本がそれに依存してきたことを指摘し，両国の関係が資源リサイクルに関わる人々を脅威にさらしている現状が指摘されました。

続いて，一般講演として，中国が文化交流のために各国に設置している孔子学院の取り組みが紹介されました。日本で最初に孔子学院が開設された立命館大学から，孔子学院長の周生教授が参加され，孔子学院の概要と共に，文化交流や中国語教育などの文化的な取り組みが中心である現状が報告されました。

第3部のパネルディスカッションでは，北海道大学北京事務所野沢俊敬教授と札幌大学孔子学院院長張偉雄教授から，両国において若い学生による互いの国への関心低下が懸念される旨の警鐘が鳴らされました。この指摘を受け，単にメディアを介した情報だけでは相互理解を深めるには不十分であり，何より重要なのは現地に行って自分で直接情報を取得することであるといった意見が挙げられました。そして，現在は文化的な交流が中心となっている孔子学院の事業ですが，今後は持続可能な社会の構築に向けた取り組みなど，研究者による専門分野における交流の可能性についても相互に関係を深めていく必要があるという将来の交流の展望に関する示唆を得て，今回のシンポジウムを閉会しました。

パネルディスカッションの様子

会場の様子

# 産学官セミナー「地理空間情報が拓く未来」

## 行事予定

| | |
|---|---|
| 講演資料のダウンロード | http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/40207<br>（北海道大学学術成果コレクションHUCAPへのリンク） |
| 開催期間 | 2009年11月12日（木）13:00-17:00（終了しました） |
| 主催者 | 特定非営利活動法人Digital北海道研究会，国土地理院北海道地方測量部，北海道大学大学院水産科学研究院，北海道大学大学院文学研究科 |
| 共催 | GIS学会北海道地方事務局，北海道GIS・GPS研究会 |
| 会場 | 北海道大学 学術交流会館 講堂 |
| 言語：日本語 | 対象：専門家・一般市民・大学生 |
| 行事概要 | 新しいデジタル地図として『地理空間情報』が日本全国で整えられつつあり，『地理情報システム（GIS）』や『衛星測位』の技術とともに活用することで，新しい社会を築こうとする動きが活発になっています．<br>そこで，企業，大学，官庁における地理空間情報の活用を，わかりやすく解説します．特に，北海道の代表的産業である農業と水産業や，自然環境の維持管理に関する地理空間情報の活用に関して，最新の動向をお話しします．<br><br>「最新の地図の科学を勉強してみたい」という皆様のご参加をお待ちしています． |
| 事前申し込み | 不要(無料) |
| 問い合わせ先 | 北海道大学文学研究科地域システム科学講座 橋本雄一<br>TEL：011-706-5555<br>E-mail: you[at]chiri.let.hokudai.ac.jp |

## 実施報告

新しいデジタル地図として『地理空間情報』が日本全国で整えられつつあり，『地理情報システム（GIS）』や『衛星測位』の技術とともに活用することで，新しい社会を築こうとする動きが活発になっています。そこで本セミナーでは，企業，大学，官庁における地理空間情報の活用について解説しました。また，この他に空間情報の一例として，1階ホールの床に1976年と2006年における札幌市の空中写真（5m×3m，縮尺1/3,000程度）を配置し，来場者には，その上を自由に歩いて見てもらう企画を実施しました。

2階大講堂で行った講演では，まず基調講演として小白井亮一氏（国土地理院北海道地方測量部長）から「最新の測量技術と防災」という演題で，国土地理院の最近の取り組みについて紹介いただきました。

次に，6人の演者がそれぞれの専門分野から地理空間情報の活用について説明を行いました。まず橋本雄一氏（北海道大学大学院文学研究科准教授）が「積雪寒冷地における生活環境整備のための地理空間情報活用」について，次に金子正美氏（酪農学園大学環境システム学部教授）が「農業におけるGISの活用事例」について，3番目に高田雅之氏（北海道環境科学研究センター）が「地理空間情報が拓く環境問題への新たなアプローチ」について解説を行いました。続いて赤渕明寛氏（㈱ヒューネス 代表取締役）が「自治体における統合型GISと地域情報の発信」について，本宮康年氏（北海道地図㈱技術部開発担当部長）が「空間ソリューション事業と景相地図」について企業の立場から地理空間情報の利用を説明しました。最後に，齊藤誠一氏（北海道大学大学院水産科学研究院教授）が「持続可能な漁業及び増養殖業活動支援のためのユビキタスな情報サービスに関する研究開発」について発表しました。これらの発表は，いずれも各分野における活用の最先端を，わかりやすく解説したものであり，地理空間情報の高度活用社会構築に向けての啓蒙活動になったのではないかと思われます。

札幌市の空中写真の上を歩く来場者

水産科学研究院 齊藤教授による講演

◆講演資料のダウンロード：http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/40207
（北海道大学学術成果コレクションHUCAPへのリンク）

# シンポジウム「アジア・アフリカ開発援助と北海道大学」

## 行事予定

| | |
|---|---|
| 開催期間 | 2009年11月13日（金） 13:00-17:30（終了しました） |
| 主催者 | 北海道大学サステイナビリティ学教育研究センター |
| 共催 | 北海道大学SGP |
| 会場 | 北海道大学 学術交流会館 第一会議室 |
| 言語：日本語 ／英語（通訳無し） | 対象：専門家 |
| 行事概要 | 昨年は新JICA（旧JICAとJBICが統合）が発足し、JICA研究所を新たに立ち上げて、多くの国際協力の分野での研究と人材育成を進めていくことにしています。<br><br>本シンポジウムでは 本シンポジウムでは持続性の研究・教育を行っている北海道大学サステイナビリティ学教育研究センターと新JICA（JICA研究所）の連携による新たな国際協力の方向性や人材育成への役割等を議論します。 |
| プログラム | プログラムのダウンロード（PDF） |
| 事前申し込み | 不要（無料） |
| 問い合わせ先 | 北海道大学サステイナビリティ学教育研究センター<br><br>TEL: 011-706-4530<br><br>E-mail: jimu[at]census.hokudai.ac.jp |
| URL | http://www.census.hokudai.ac.jp |

## 実施報告

シンポジウム「アジア・アフリカ開発援助と北海道大学」と題し，国際協力機構（JICA）を介したアジア及びアフリカ諸国との協力関係のあり方に焦点を当てたシンポジウムを開催しました。本シンポジウムは，JICAによる全面的な協力を得て行われました。英語によって提供されたにも関わらず，参加者の半数以上が学外からの参加であり，アジア・アフリカ諸国に対するJICAの取り組みへの関心の高さが窺われました。

はじめに，招待講演者4名による基調講演が行われました。まず，ウガンダ共和国大使Wasswa Biriggwa氏による，ウガンダにおけるエコビレッジの取り組みが紹介されました。続いて，JICAより2名の講演者による基調講演が提供されました。アフリカ部からは押山和範部長がアフリカで通用する人材について情報を提供し，続いて地球環境部の森尚樹次長が，中国の環境教育を対象として人材育成についての講演を行いました。また，インドネシア パランカラヤ大学のAdi Jaya教授には，インドネシアの環境教育の現状と今後の課題について話題を提供していただきました。

第2部では，会場とモンゴル及びインドネシアのJICA現地事務所をテレビ会議システムPolycomを使って接続し，それぞれの国の駐在員にシンポジウムに参加してもらうという，非常に意欲的な試みを行いました。はじめにモンゴルのJICA事務所小貫氏に，モンゴルにおける廃棄物処理の現状についてプレゼンしていただくと共に，現場で必要としている人材について，現地におけるコミュニケーションの重要性を指摘するコメントをいただきました。続いてインドネシア事務所からは，中小企業のアドバイザーである船橋氏によって，確固たる理論と共に独自の視点を持つことの重要性が指摘され，さらに現状を把握した柔軟な対応を可能とするために，様々な国の事例を把握する必要性が提唱されました。

第3部のパネルディスカッションでは，JICAでアジア・アフリカのプロジェクト運営に関わってきた松永氏や，現在JICA/JSTプロジェクトを実施している農学研究院大崎教授や工学研究科船水教授が加わり，北海道大学はアジア・アフリカにおけるJICAプロジェクトへの貢献度が最も大きい大学の一つであることが指摘され，今後もこれらの地域と密接な関係を構築していくことを確認し，今回のシンポジウムを閉幕しました。

Biriggwaウガンダ大使による講演

インドネシア現地駐在所とのテレビ会議の様子

# シンポジウム「サステナビリティな産学連携を求めて
# ー イタリアCity State トリノの取り組みからのメッセージー」

## 行事予定

| | |
|---|---|
| 開催期間 | 2009年11月13日（金） 13:00-18:00（終了しました） |
| 主催者 | 北海道大学（産学連携本部、大学院情報科学研究科、「持続可能な開発」国際戦略部）<br>トリノ工科大学 |
| 会場 | 北海道大学 学術交流会館 小講堂 |
| 言語：日本語/英語（通訳有り） | 対象：専門家・一般市民 |
| 行事概要 | イタリア共和国ピエモンテ州の州都トリノ市における産学間の協力な連携は、大学と産業界が一体となった中世都市国家からの伝統があってなせるものです。<br><br>連携を強固にしている鍵は、①地域経済との密接な関係、②しっかりとした金融資本がバックにいること、③地域繁栄のための迅速な意思決定システムと人脈の3つといえます。これらはとりも直さず、効果的な産学連携のスキームであり、我々がサステナブルな社会、これを支える産学連携のあり方を考えるうえで示唆に富む事例であると考えます。<br><br>本シンポジウムでは、トリノ市における、情報分野を中心とした現在及び将来に向けた取り組みについて、その中心的な役割を果たすトリノ工科大学から講師を招いて紹介していただきます。また、本学や北海道における産学連携の視点からのサステナブルな社会に向けての取り組みについて紹介します。 |
| プログラム | プログラムのダウンロード(1.4MB) |
| 事前申し込み | 不要(無料) |
| 問い合わせ先 | 北海道大学 産学連携本部　担当：山口茂彦<br><br>TEL：　011-706-9556<br>E-mail：yamaguchi[at]mcip.hokudai.ac.jp |

## 実施報告

本シンポジウムは基調講演と事例プレゼンテーション，そしてパネルディスカッションの3部構成で実施されました。トリノ工科大学とイタリア大使館から総勢6名のゲストに来ていただき，日本とイタリアでほぼ同数で講演しましたので，内容は国際色豊かになりました。参加者からも多くの質問があり，盛会裏に開催することができました。

内容は，まず岡田産学連携本部長，マンゴーニ公使参事官の挨拶に続き，トリノ工科大学ナルディ副学長「トリノ工科大学における産学連携」の基調講演がありました。同工科大はキャンパス内にグローバル企業であるGM，モトローラ，マイクロソフトなどの誘致したビジネスリサーチセンターがあり，周辺のベンチャー企業にも良い影響を与えているとの説明が印象的でした。

事例プレゼンテーションでは，両大学の連携事例（IT分野）として，カリア教授，山本強教授から，トリノ工科大学のワイヤレス通信技術と北大の全方向デジタル画像収集技術とを融合させた先端ICT（情報通信）分野でプロジェクトが紹介され，札幌市，北海道とトリノ市との地域産業間の連携への期待が述べられました。また，持続可能な開発に向けた取り組みとして，ロンバルディ教授からは，持続可能な開発を評価するメトリクス（評価指数）について，本学の本堂副学長からは「オホーツク海の未来可能性に向けた国際コンソーシアムの構築」を代表例として，地球環境に配慮した持続可能な社会の討議なされました。

パネルディスカッションでは将来的な共通課題として，「高齢社会に向けた連携アプローチ」について，活発な議論がなされました。イタリアも日本と同様に高齢人口国としての時代が間近に迫っており，この問題解決への教育の役割，ICTの役割，研究成果の実用化について，多彩な意見が述べられ，日伊交流のハブとしての北海道への期待が示されました。

（成果）

1. 本学とトリノ工科大学の連携協定に基づく活動が積極的に行われており，技術分野（ICT分野）から，地球環境に配慮した持続可能社会，高齢社会などの社会科学分野を含んだ視点へと範囲を広げて議論できたこと。

2. 学外からも多くの参加者があり，両校の取り組みについて多くの市民に知っていただけたこと。

（今後の展開）

高齢社会に対応した医用工学分野での両校の共同研究，これを発展させた国境を越えた産学連携の可能性について，検討していきたい。

トリノ工科大学ナルディ副学長による基調講演

パネルディスカッションの様子

# シンポジウム「石油ピーク後の日本と北海道のあり方を考える」

## 行事予定

| | |
|---|---|
| 開催期間 | 2009年11月14日（土）13:00-17:30（終了しました） |
| 主催者 | 北海道大学サステイナビリティ学教育研究センター |
| 共催 | もったいない学会、北海道大学SGP |
| 会場 | 北海道大学 クラーク会館 講堂 |
| 言語：日本語 | 対象：一般市民、大学生 |
| 行事概要 | エネルギー資源については、量ではなく、質の問題として捉えて議論することが必要です。<br><br>本シンポジウムは、そのための指標としてエネルギー利得率の利用の普及を図っている「もったいない学会」と共同で、エネルギー制約の観点から世界、日本、北海道のあるべき将来像へのビジョンを明らかにすることを目的としています。<br><br>多くの一般市民の参加を得て、正しい将来設計のあり方を議論します。 |
| プログラム | プログラムのダウンロード |
| 事前申し込み | 不要（無料） |
| 問い合わせ先 | 北海道大学サステイナビリティ学教育研究センター<br><br>TEL: 011-706-4530<br><br>E-mail: jimu[at]census.hokudai.ac.jp |
| URL | http://www.census.hokudai.ac.jp |

## 実施報告

第1部で基調講演，第2部で専門からの研究成果報告，第3部で北海道内の公設試験機関や市町村の取り組みの紹介，最後に北海道民へのアピールを宣言し，終了しました。雨にもかかわらず問題意識の高い市民が多数参加し，シンポジウムは盛況でした。

基調講演は2名の学識者をお招きし，石井吉徳氏（もったいない学会会長）から「石油ピークは食糧ピーク，そして文明ピーク－日本のプランB－」，そして丹保憲仁氏（北海道開拓記念館館長，元北海道大学総長）からは「21世紀の日本と北海道－持続可能な社会を目指して－」を講演していただきました。石油ピーク後の日本や北海道では，人々はどのように生活様式を変えていかなければならないかなど現実問題としての石油ピーク後の社会作りについて提言がなされました。

続く第2部，第3部では基調講演の話題を受け，研究現場や地域での研究成果や取り組みを報告・紹介しました。研究成果報告は，電力中央研究所研究員とサステイナビリティ学教育研究センターとの合同の研究成果報告を行いました。地域の取り組みについては，道立工業試験場や伊達市，富良野市，足寄町から研究員や担当者が参加し，事例を交えながらの報告がなされました。

シンポジウムに参加した市民らからも活発な質問や意見が出され，バイオマスへの関心の高さが窺えました。

今後の展開として，サステイナビリティ学教育研究センターを核とした調査研究の拠点の強化と関係機関との連携が確認されました。

丹保憲仁氏による基調講演

地方自治体による事例報告

# 市民向け講座「日韓における農業からみた低炭素社会の展望」

## 行事予定

| | |
|---|---|
| 開催期間 | 2009年11月14日（土） 13:00-16:00（終了しました） |
| 主催者 | 北海道大学農学研究院 |
| 会場 | 北海道大学 学術交流会館 第1会議室 |
| 言語：日本語・英語(通訳有り) | 対象：専門家、一般市民、大学生 |
| 行事概要 | 持続可能な低炭素社会を実現するために、農林バイオマスの循環利用と持続的農業技術について、日本と韓国の現状と将来の展望について、市民と学生を対象としたフォーラムを開催します。<br><br>バイオエネルギーや持続的農業に関心をお持ちの方の参加をお待ちしております。<br><br> <br><br>ポスターのダウンロード(PDF525KB) |
| 事前申し込み | 不要（無料） |
| 問い合わせ先 | 北海道大学農学研究院事務部 研究協力担当 奴賀（ぬか）<br>E-mail： shomu[at]agr.hokudai.ac.jp |

## 実施報告

農業が低炭素社会の実現に貢献できることとして，バイオガス生産，バイオエタノール資源，水田の温暖化や物質循環に果たす役割について以下の演題が発表されました。1)バイオガスプラントの日本における現状と展望（北海道大学名誉教授松田從三），2)豚厩肥と食品残渣の嫌気分解によるバイオガス生産（韓京大学教授Chang－Hyun Kim），3)バイオエタノール研究の日本における現状と課題（北方生物圏フィールド科学センター教授山田敏彦），4)水田雑草の環境への多重機能（韓京大学教授Tae－Wan Kim）。

バイオガスについては，日本と韓国のバイオガスプラントによる生産が紹介され，ヨーロッパのそれと比較しながら，それぞれの現状と今後の課題が活発に論議されました。バイオエタノールについては，食糧となる作物ではなく，多年生草類によるセルローズ系バイオマスの重要性について発表がなされ，その中で，ススキやオギの取り組みが紹介されました。水田の多重機能については，温暖化の軽減や水資源の浄化及び蓄積機能等の多くの側面から，その機能を科学的に検証することが重要であると発表されました。最後に本学農学研究院の大崎教授の司会で総合討論を行い，その中で低炭素社会に向けて，日本と韓国が同じ現状認識と課題を抱えており，今後は相互に研究協力を推進する必要があることをあらためて認識しました。

座長の荒木先生（北方生物圏フィールド科学センター）による挨拶

総合討論中の松田先生，山田先生

## 意見交換会「地球に優しい社会へ向けた大学→市民の協働」

### 行事予定

| | |
|---|---|
| 開催期間 | 2009年11月14日（土） 18:00-19:30（終了しました） |
| 主催者 | 北海道大学グローバルCOE“統合フィールド環境科学の教育研究拠点形成” |
| 共催 | 財団法人 北海道環境財団 |
| 会場 | 北海道環境サポートセンター<br>（札幌市中央区北4条西4丁目1 伊藤・加藤ビル4階） |
| 言語：日本語 | 対象：一般市民、大学生 |
| 行事概要 | 地球温暖化を防ぐための低炭素社会づくりといったグローバルな取り組み、身近な自然環境やゴミ問題といったローカルな取り組み、など多様な環境問題が存在しています。大学と市民は、調和的な解決に向けて協働して取り組む必要がありますが、これまで大学から一方向的な情報発信が多かったと思います。<br><br>本イベントは、環境団体の皆さんとの討論形式(サイエンスカフェ形式)によって、「大学が“地球に優しい社会づくり”にどういう役割を果たせるか？」を問う予定です。環境に関する市民と大学の新たな連携を考えることやそれを実行に移すことに興味のある方の参加をお待ちしております。 |
| 事前申し込み | 要（無料） 申し込みは下記ウエブサイトをご覧ください。<br>http://gcoe.ees.hokudai.ac.jp/reo |
| 問い合わせ先 | 北海道大学グローバルCOE 環境教育研究交流推進室 担当：吉村<br><br>TEL: 011-706-3355 E-mail: ynobu14001[at]ees.hokudai.ac.jp |

## 実施報告

本プログラムのテーマは，学びの場作りをテーマに，北海道大学が市民と一緒にできることを考えるものです。土曜日の夜にもかかわらず会場はほぼ満席でした。

プログラムは，北海道大学農学研究院の中村太士教授の挨拶で幕を開けました。

まず最初に話題提供ということで，CoSTEP（北海道大学科学技術コミュニケーター養成ユニット）の渡辺保史特任准教授が「大学で『なにか』をするということ」という題で基調講演を行いました。「自分たちごと」として物事を捉え異質なメンバーとのコミュニケーションの重要性を語ってくれました。

次に，日本データーサービス株式会社の福間博史氏が「大学と企業による人材育成」という題で講演を行いました。建設コンサルタントとして，大学にぶら下がるのではなく積極的にアクションをして様々な人と触れ合うことを提案されました。

そして，GCOE環境教育研究交流室からは，中村一樹，吉村暢彦，根岸淳二郎の3氏が現在の取り組みに関してプレゼンテーションを行いました。大学の内にこもらず，アカデミックにとらわれない，研究を土台とした社会での実践についての重要性について語ってくれました。

第2部は，前半行われた講演を元にして，市民の方と大学側の活発な意見交換が行われました。多くの方々から，大学に対する幅広い意見が飛び出して，活発な議論が展開されました。学生と市民の関わりを重視する意見が多く，意見交流は大変白熱したものとなりました。市民の大学への期待度の高さが窺えます。

最後に，グローバルCOE「統合フィールド環境科学の教育研究拠点形成」の拠点リーダー山中康裕准教授が閉会の挨拶を行いました。

プログラム終了後も，参加者は挨拶を交わして名刺交換を行ったり，感想を述べ合うなど，皆大変熱心な様子でした。

参加してくださった皆様，どうもありがとうございました。

吉村 環境科学GCOEコーディネーターによるプレゼンテーション

山中 環境科学GCOE拠点リーダーによる 閉会の挨拶

# CCC「世界の子どもをつなぐ教室」報告会
# ～カンボジア・インドと日本をつなぐ「青春の手紙」～

## 行事予定

| | |
|---|---|
| 講演資料のダウンロード | http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/39988<br>（北海道大学学術成果コレクションHUCAPへのリンク） |
| 開催期間 | 2009年11月14日（土）、15日（日）<br>展示・販売 10:00～18:00<br>報告会13:00～14:50、特別ワークショップ15:00～16:30（終了しました） |
| 主催者 | CCC世界の子どもをつなぐ教室 |
| 会場 | 北海道大学 学術交流会館 第2会議室 |
| 言語：日本語 | 対象：一般市民・大学生・高校生 |
| 行事概要 | 紛争から立ち直ろうとする国カンボジアの若者、児童労働から回復しようとするインドの若者、そして青春まっただなかの札幌の高校生が、この夏、手紙を通じて交流をしました。手紙を配達したのは実行委員会の学生スタッフ。カンボジア・インドから届いた手紙に記された「夢」そして「大切なもの」とは・・・？<br><br>ゴミ山の子どもたち（カンボジア）、児童労働の現場（インド）での貴重なインタビュー映像と共に、手紙交換の様子をお伝えします。<br><br>当日の特別ワークショップでは、カンボジアのゴミ山に住む子ども達が書いてくれた手紙に返事を書くなど、体験型企画もご用意しています。<br><br>また、児童労働からのリハビリ施設「BornFreeArt School」が作成した商品販売も致します。<br><br>※11月14日（土）：カンボジア報告会、特別WS①「ゴミ山の子ども達に返事を書こう」<br><br>※11月15日（日）：インド報告会、特別WS②「児童労働に関するワークショップ（予定）」<br><br>詳細はHPで⇒http://exchange.kuronowish.com/<br><br>皆さまのお越しをスタッフ一同、心よりお待ちしております。 |
| 事前申し込み | 必要（無料）<br>特別ワークショップに参加希望の方は「氏名・電話番号・希望ワークショップ」を前日までにexchange.ccc[at]gmail.comまでお申し込み下さい（飛び入り可）。 |
| 問い合わせ先 | 世界の子どもをつなぐ教室（CCC）　担当：駒瀬<br>E-mail：　exchange.ccc[at]gmail.com |

## 実施報告

2009年夏季にCCC「世界の子どもをつなぐ教室」が行ったサマーセミナーの報告会を行いました。

展示：夏季のサマーセミナーの内容を記載したものを17枚，写真を約50枚会場に展示しました。

報告会：11月14日は「カンボジア編」15日は「インド編」であり，カンボジア編ではゴミ山で暮らす子どもの様子や，カンボジアの歴史，カンボジアの食べ物などを眼と口を使って体験してもらいました。インド編ではインドの児童労働をしている子供たちの様子を紹介し，実際にインドのマーケットで児童労働の現場を取材した映像などを流し，児童労働リハビリ施設「Bornfree Art school」に暮らす子どもたちを紹介しました。

ワークショップ：カンボジア編ではカンボジアのゴミ山に住む子ども達からの手紙を読み，その内容について話し合い，手紙に対する返事を色紙にまとめました（色紙は現地に届ける予定）。インド編では児童労働をしてきた子供の人生を振り返りながら，自らの人生を振り返り，再認識するというワークショップを行いました。

展示・販売：児童労働リハビリ施設「Bornfree Art school」の子どもたちが作成した作品の展示・販売を行いました。

評価：アンケートにおいてどちらの報告会及びワークショップにおいても，「違う世界があることを知った」「一方向で終わらない理解が出来てよかった」「もっと（そのような国に対し）支援したいと感じた」など国際交流に貢献した事を示す評価が多かったので活動目的はほぼ果たしたと考えますが，一方スタッフの配置・広報活動など改善の余地がある分野もありました。

今後も，今回の反省点を生かし，「世界の子どもをつなぐ教室」の実施を続け，より多くの子どもたちが，自分も，相手も大切な存在であるという気付きが得られる場を作っていければと考えています。また，国内外の子どもが抱える問題についての勉強会を通して，メンバー全体の意識の向上を図りたいと思います。

ポスターの紹介

思いを込めた返事を色紙に

◆講演資料のダウンロード：http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/39988
（北海道大学学術成果コレクションHUCAPへのリンク）

# 国際シンポジウム「先住民族と自然資源－持続的資源利用の視点から－」

## 行事概要

| | |
|---|---|
| 開催期間 | 2009年11月15日（日） 10:00-17:00（終了しました） |
| 主催者 | 北海道大学文学研究科 |
| 共催 | 北海道大学アイヌ・先住民研究センター |
| 会場 | 北海道大学 学術交流会館 小講堂 |
| 言語：日本語・英語（通訳あり） | 対象：専門家、一般市民、大学生、行政関係 |
| 行事概要 | 自然環境保全のためには資源の持続的利用が重要ですが、先住民族の知識の中には、環境との長い対話によって培われてきた資源管理に関する多くのヒントが凝縮されています。<br><br>本シンポジウムでは、本学と学術協定を締結しているオークランド大学の研究者等を迎え、ニュージーランドの先住民族マオリによる資源管理、およびエコツーリズムなどの自然資源の新たな活用法についお話しいただき、日本の先住民族アイヌの人々の知識を活かす資源管理の在り方について議論する予定です。<br><br>環境保全と先住民族について関心のある方々の参加をお待ちしております。 |
| 事前申し込み | 不要（無料） |
| プログラム | 以下のアイヌ・先住民研究センターウェブサイトよりダウンロード出来ます。<br>http://www.cais.hokudai.ac.jp/event/e_others.html |
| 問い合わせ先 | 北海道大学文学研究科・地域システム科学講座 担当：池田<br>電 話 011-706-4163<br>E-mail tikeda@let.hokudai.ac.jp |

## 実施報告

先住民族の知識の中には，環境との長い対話によって培われてきた資源管理に関する多くのヒントが凝縮されており，資源の持続的利用という面で多くの学ぶべき点があります。

本シンポジウムでは，ニュージーランドからDr. Brad Coombes，Mr. Marino Tahi，Mr. Alex Nathan の3氏を招聘し，先住民族マオリの人々による自然資源管理の試み，及びエコツーリズムという自然資源の新たな活用法について話題提供をいただき，また日本の先住民族であるアイヌの人々の知識を活かした資源管理についても実践報告をいただいて，今後の持続的資源利用の在り方を検討しました。

マオリの人々による自然資源管理では，保護地区を設定して自然資源の「保存」を図るという手法に対して，彼らが伝統的手法で自然資源を利用しながら管理を行うという「保全」を重視した手法が彼ら自身の保全活動への積極的参加を促すことにつながり，また政府との協働にも成功しているという実例が示されました。さらには，エコツーリズム及び伝統的文化の紹介も同時に取り入れたエコ・カルチュラルツーリズムの展開についてもその可能性と課題が提起されました。

日本側からは，小野有五氏による北海道のアイヌ・エコツーリズムの展開についての話題に引き続き，貝澤耕一氏による森林管理の試み，早坂雅賀氏による知床アイヌ・エコツーリズムの実践，川上哲氏によるエゾシカ猟に関する報告が行われ，アイヌ文化を基盤とした自然資源管理の可能性が紹介されました。それぞれに先住民族の権利回復に課題を残してはいる現状ではありますが，将来の自然資源の保全について先住民族による積極的な関与の成果と新たな可能性が示唆された有意義なシンポジウムとなったと考えております。多くの参加者の方々からも，先住民族の文化を学ぶことが将来の持続可能な社会の実現のヒントになるという意見をいただきました。

今回のシンポジウム開催によって，ニュージーランドのマオリ民族と日本のアイヌ民族との協働による今後の実践・研究の展開にも道が開けました。今後も情報交換を密に行ってさらに交流を深めるとともに，資源保全問題のみならず，先住民族文化に関する理解・実践・研究の発展を図りたいと考えています。

オークランド大学のDr. Coombesによる講演

講演者との記念写真

# 国際シンポジウム「持続可能な社会の発展と専門職業人の使命」

## 行事予定

| | |
|---|---|
| 開催期間 | 2009年11月15日（日） 13:00-17:00（終了しました） |
| 主催者 | 北海道大学文学研究科・応用倫理研究教育センター |
| 会場 | 北海道大学 学術交流会館 第一会議室 |
| 言語：英語（通訳無し） | 対象：専門家、大学生、一般市民 |
| 行事概要 | 専門職業人は、高度な知識と技能をもって社会に貢献し、それゆえまた権威と自律を認められてきました。しかし、社会構造や市民意識の変化につれて、専門職のイメージも大きく変わりつつあります。<br><br>本シンポジウムでは、現代のグローバル化した社会における専門職業人の社会的責任、持続可能な社会の発展のために専門職業人の果たすべき役割などについて幅広く検討します。<br><br>学内外、研究者・学生・一般を問わず、専門職業人の倫理について関心のある方々の参加をお待ちしております。 |
| ポスター | こちらよりダウンロードいただけます。 |
| 事前申し込み | 不要(無料) |
| 問い合わせ先 | 北海道大学文学研究科・応用倫理研究教育センター<br><br>TEL: 011-706-4088<br><br>E-mail: caep[at]let.hokudai.ac.jp |
| URL | http://ethics.let.hokudai.ac.jp |

## 実施報告

国際シンポジウム「持続可能な社会の発展と専門職業人の使命」は，文学研究科・応用倫理研究教育センター主催の第4回応用倫理国際会議（11月13～15日）の中核となる行事として開催されました。

シンポジウムでは，提題者としてMichael Davis（マイケル・デイヴィス）博士（イリノイ工科大学教授）とRandall Curren（ランドール・カレン）博士（ロチェスター大学教授）を迎えました。デイヴィス博士の講演は，題名：「Engineers and Sustainability: An Inquiry into the Elusive Distinction between Macroー Microー, and Mesoー Ethics（技術者とサステナビリティ：マクロ・ミクロ・メソ倫理の間にある掴みがたい区別についての探求）」です。この講演でデイヴィス博士は，専門職としての技術者の倫理を職能集団としてのメソレベルの倫理であることを定義づけた上で，サステナビリティの実現は技術専門職倫理の一部であり，また専門職倫理であるからこそ，その実現に向けての活動が技術者の責務であること，また製品や建造物など広く社会に影響を与えるモノを造り出す技術者こそが，持続可能な社会の実現に貢献出来る能力を持ち，その貢献が社会から期待されていることを論じられました。

カレン博士は題名：「Sustainability in the Education of Professionals（専門職教育におけるサステナビリティ）」で講演されました。この講演では，現在のサステナビリティにまつわる問題を提示した上で，専門職の存在理由は社会への貢献にあり，それが社会からの信託に基づいている以上，持続可能な社会を実現していくこともまた専門職倫理の一部であることが論じられました。さらにカレン博士は，サステナビリティ教育はすでに専門職倫理教育の一環として行われているが，これからはより専門職倫理教育と一体化した仕方でなされねばならないと論じておられました。

2人の講演に引き続く質疑応答ではフロアから多くの質問及びコメントを集め，有意義なディスカッションが行われました。すでに4度目の開催となる応用倫理国際会議ですが，今後も国内・海外の応用倫理に関する主要テーマを論じるフォーラムとして，サステナビリティと倫理を研究テーマの基軸に据えつつ継続的に開催していく予定です。次回の第5回国際会議は2010年11月を予定しています。

デイヴィス博士による発表の様子

質疑応答の様子

# 北方圏の環境研究に関する日本-フィンランド共同研究セミナー

## 行事予定

| | |
|---|---|
| 講演資料のダウンロード | http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/40043<br>（北海道大学学術成果コレクションHUCAPへのリンク） |
| 開催期間 | 2009年11月16日（月） 9:00-17:30<br>2009年11月17日（火） 9:00-17:30<br>2009年11月18日（水） 9:00-12:00（終了しました） |
| 主催者 | 北海道大学低温科学研究所 |
| 共催 | 北海道大学農学研究院、環境科学院、北方生物圏フィールド科学センター；<br>ヘルシンキ大学、オウル大学、ラップランド大学北極センター、<br>フィンランドセンター |
| 会場 | 北海道大学 学術交流会館 第1会議室・他 |
| 言語：日英語（通訳無） | 対象：専門家、大学生 |
| 行事概要 | 温暖化により急激に変化する北方圏の環境！<br><br>北海道とフィンランドが連携して取り組む雪氷寒冷環境の最新の研究プロジェクト、若手研究者育成国際プログラムを紹介します。<br><br>雪氷寒冷圏の環境に興味がある学生、若手研究者の参加大歓迎！！ |
| 事前申し込み | 不要（無料） |
| 問い合わせ先 | 北海道大学低温科学研究所 担当：白澤邦男<br>TEL: 011-706-5425<br>E-mail: kunio[at]lowtem.hokudai.ac.jp |
| ポスターダウンロード | |
| プログラム | プログラムを更新しました。（11月4日）<br>最新版プログラムのダウンロードはこちらから。 |

## 実施報告

温暖化により急激に変化する北方圏の環境に関して，北海道とフィンランドが連携して取組む最新の研究や若手研究者育成国際プログラムなどを紹介し，共同研究の継続や将来の研究計画の可能性について議論する「北方圏の環境研究に関する日本－フィンランド共同研究セミナー」が，ラップランド大学北極センターが中心になり，2008年9月3日～5日にロヴァニエミにて開催されました。

本年度はその継続ですが，特に，若手研究者や大学院レベルでの教育研究交流推進に重点を置きました。11月16日（月）から全体会議形式で3分科会と総合討論に2日半，支笏洞爺国立公園での現地研修と討論会に2日間の日程でした。分科会1: Cryosphere & Boreal Forestsで7題，2: Landscape, Land Use Changesで9題，3: Human－Environment Relationsで12題の発表がありました。分科会1と2は前回のフィンランドでのセミナーで議論された本学とフィンランドの大学（ヘルシンキ大学，オウル大学，ラップランド大学）で進められている共同研究の進捗状況や新たな研究テーマの提案などがあり，今後の継続性や若手研究者，学生の教育研究交流事業，単位互換の可能性などについて議論されました。若手研究者や学生を対象にしたSea－ice field courseのテキストが共同執筆され出版されました。オウル大学は本学と姉妹校，連携大学として締結しており，（学長が訪問予定でしたが急遽取止めになり）学術国際局長と国際交流担当研究所長とが本学本堂副学長を表敬訪問され，若手研究者や大学院学生の教育研究交流について意見交換されました。ラップランド大学の副学長と事務局長も同時に表敬訪問されました。

分科会3は，今までの自然科学系のテーマに「人間と自然環境との関係」を加えた新たな試みでした。本学アイヌ・先住民族研究センター，室蘭工大，ラップランド大学が中心となり，気候変動や人類の活動増加により劇的な影響を受ける北方圏の環境変動をラップランドのサーミや北海道のアイヌ民族の生活を通して，彼らがどのように影響を受け，また彼らが抱えている問題点などを浮き彫りにして熱い議論が交わされました。

総合討論会では，今後の継続性について，先住民族関係では本の共同執筆の計画，来年度のセミナーはオウル大学が企画を担うことなどが話されました。研修旅行では，白老のアイヌ民族博物館の見学，支笏洞爺国立公園で公園管理，維持，問題点などを学びました。フィンランドからの参加者は殆どフィールドサイエンスの研究者であり，特に分科会2の関係者には日本の国立公園の現状を学ぶ良い機会でした。

分科会での討論

白老アイヌ民族博物館での研修

◆講演資料のダウンロード：http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/40043
（北海道大学学術成果コレクションHUCAPへのリンク）

# 北海道大学触媒化学研究センター20周年記念国際シンポジウム

## 行事予定

| | |
|---|---|
| 開催期間 | 2009年12月7日（月）～9日（水）（終了しました） |
| 主催者 | 北海道大学触媒化学研究センター |
| 共催 | 北海道大学グローバルCOE, 触媒学会、日本化学会北海道支部、JPIJS北海道東北地区, 電気化学会北海道支部 |
| 会場 | 北海道大学 学術交流会館 講堂 |
| 言語：日本語/英語（通訳無し） | 対象：専門家 |
| 行事概要 | 北海道大学触媒化学研究センターの発足20周年を記念して、記念講演会及び国際シンポジウムを3日間にわたり開催します。<br><br>これまで資源・エネルギー・環境・物質の科学技術に対して触媒が貢献してきた歴史を振り返るとともに、科学技術の最先端とその次代を展望し、サステナブル触媒の重要な役割について議論します。<br><br>【日程】<br>12月7日：記念講演会および記念式典　12:00 – 18:00<br>12月8日：国際シンポジウムCatalysts and functional materials for energy conversion　9:00 – 17:00<br>12月9日：国際シンポジウム Well defined surface structure for precise reaction control 9:00 – 13:15 |
| プログラム | 当日のプログラムはこちらからダウンロードいただけます。 |
| ポスター | ポスターのダウンロードはこちら |
| 事前申し込み | 不要(無料) |
| 問い合わせ先 | 北海道大学触媒化学研究センター上田研究室<br>E-mail : sakura@cat.hokudai.ac.jp<br>TEL : 011-706-9162　FAX : 011-706-9163 |
| URL | http://www.cat.hokudai.ac.jp/event.html |

## 実施報告

北海道大学触媒化学研究センターの発足20周年を記念して，これまで資源・エネルギー・環境・物質の科学技術に対して触媒が貢献してきた歴史を振り返るとともに，科学技術の最先端とその次代を展望し，持続可能社会の実現に向けた触媒化学を議論することを目的とした記念講演会と国際シンポジウムを，3日間にわたり開催しました。3日間で外国人参加者25名を含む総勢220人が参加しました。

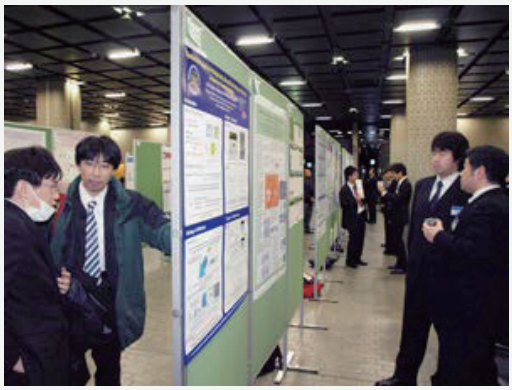
会は，12月7日午後からのポスター発表から始まりました。80件のポスターで埋め尽くされた会場には，触媒のみならず関連の材料や分析分野の研究が日本全国から集まり，活気あふれる発表がありました。引き続き記念講演会が5名（日本から4名，中国から1名）の講演者よりありました。これまで触媒は人類の生活基盤の格段の向上をもたらしてきたことをノーベル賞の歴史から振り返り，改めてその貢献を認識するとともに，今後，持続可能社会を構築する上で触媒はこれまで以上に幅広い貢献をしなくてはならない，まさにサステナブルのキーテクノロジィーであり，より高度な学術として触媒は進化しなくてはならないし，また応用を図らなければならない，との一致した認識が示されました。

12月8日は「エネルギー変換触媒物質」をテーマとして，光触媒で第一人者の堂免一成教授（東京大学）の記念講演のほか，海外からの4名の招待講演者（アメリカ，ノルウェー，ドイツ）を含む13名の講演者から燃料電池用の新しい物質や触媒物質の講演が行われました。より効率的な次代を担う新しい燃料電池の姿が展望でき，活発な質疑応答が行われました。講演後にも，前日に続いてポスターセッションが開催され，発表者に多くの質問が寄せられました。

12月9日は「構造の制御された精密表面反応場」をテーマとして，固体酸化物形燃料電池研究で著名な江口浩一教授（京都大学）の記念講演のほか，海外からの4名の招待講演者（アメリカ，ドイツ，中国，フランス）を含む9名の講演が行われました。このセッションは表面構造場の学術研究の最先端を集約したもので，触媒の真の姿を見せてくれる内容でした。

持続可能社会構築のためにはより高度な触媒技術が必要となり，より達成に時間を要します。多方面の連携をもとにした基礎学術研究のさらなる深化が必須であることを改めて認識させられました。

シンポジウムの参加者一同



ポスターセッション

# ３. 実施報告

# 北海道大学
# サステナビリティ・ウィーク
# 2009

持続可能な社会の実現に向けて、ここから広がる未来への一歩

## 実施報告

北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

# サステナビリティ・ウィーク2009行事一覧

シンポジウム・学術集会　市民向け講座　その他の企画

| 日程 | タイトル・分野 | 主催 |
|---|---|---|
| **プレ企画** | | |
| 10/4(日)～7(水) | 2009年アジア太平洋信号処理連合学会アニュアルサミット・国際会議 | 北海道大学大学院情報科学研究科グローバルCOEプログラム、APSIPA ASC 2009組織委員会 |
| 10/11(日)～14(水) | 第9回物理探査学会国際シンポジウム | 物理探査学会、アメリカ物理探査学会、ヨーロッパ物理探査学会、オーストラリア物理探査学会、韓国物理探査学会、ベトナム物理探査学会、アメリカ環境工学物理探査学会、北海道大学理学研究院地震火山研究観測センター |
| 10/24(土)、11/2(月) | 学生提言『グリーン・ニューディール』第6回ディベート大会及び最終発表 | 北海道大学経済学部 |
| 10/30(金)～11/3(火・祝) | CLARK THEATER 2009 | 北大映画館プロジェクト実行委員会2009 |
| **サステナビリティ・ウィーク** | | |
| 11/1(日) | 北大映画館×北大低炭素PT×環境省　地球温暖化政策セミナー | 環境省北海道地方環境事務所、北大映画館プロジェクト実行委員会2009、北海道大学「持続可能な低炭素社会づくり」プロジェクトチーム(公共政策大学院、地球環境科学研究院) |
| 11/2(月) | サステナビリティ・ウィーク2009オープニングシンポジウム<br>北海道大学「持続可能な開発」国際シンポジウム<br>～持続可能なグローバル社会に向けた5課題解決への提言～ | 北海道大学 |
| 11/2(月) | 北大から世界へ!～国際キャリアパスの入口へ～ "SD on Campus" | 北海道大学国際交流室 |
| 11/3(火・祝) | ジョイントシンポジウム「都市化と健康～2010年の世界保健デーに向けて～」 | 北海道大学大学院医学研究科国際保健医学分野、<br>世界保健機関神戸センター、ジュネーブ大学、デササル大学 |
| 11/3(火・祝) | 国連大学グローバル・セミナー北海道最終記念セッション<br>持続可能な社会の担い手となるために<br>―2015年までに国際社会が達成すべきミレニアム開発目標の現状を知る― | 国際連合大学、北海道大学 |
| 11/3(火・祝) | 第2回センチネル・アース国際シンポジウム - 市民向け講座- | 北海道大学、アジア工科大学、アラスカ大学、バランカラヤ大学、宇宙航空研究開発機構 |
| 11/4(水)～5(木) | 国際シンポジウム「持続可能な低炭素社会を目指して<br>～グリーン・ニューディールとグローバルチェンジ～」 | 北海道大学「持続可能な低炭素社会づくり」プロジェクトチーム |
| 11/4(水)～5(木) | 第2回センチネル・アース国際シンポジウム<br>―衛星データ・衛星画像データの高度利用研究― | 北海道大学、アジア工科大学、アラスカ大学、バランカラヤ大学、宇宙航空研究開発機構 |
| 11/6(金) | 国際シンポジウム「気候変動による地域固有システムへの影響」 | 北海道大学グローバルCOE"統合フィールド環境科学の教育研究拠点形成" |
| 11/6(金) | 第2回 セラミド研究会 学術集会 | セラミド研究会事務局、文部科学省 知的クラスター創成事業、北海道大学先端生命科学研究院次世代ポストゲノム研究センター |
| 11/7(土) | 国際シンポジウム「明日の海と食を守る水産海洋サステナビリティ学」 | 北海道大学水産科学研究院 |
| 11/7(土) | 地球交響曲―ガイアシンフォニー第五番上映会＆龍村仁監督特別講演会 | 北大ガイアプロジェクト |
| 11/7(土)～8(日) | 国際シンポジウム<br>「オホーツク海の環境保全に向けた日中露の取り組みにむけて」 | 北海道大学低温科学研究所　環オホーツク観測研究センター、北海道大学スラブ研究センター、総合地球環境学研究所、北見工業大学未利用エネルギー研究センター、国土交通省北海道開発局、国際科学技術センター、北海道大学「持続可能な開発」国際戦略本部" |
| 11/8(日) | 実験展示:Let's サイエンス!! | 北水サイエンスアシスト |
| 11/9(月)～10(火) | 国際シンポジウム「低温科学のフロンティア」 | 北海道大学低温科学研究所 |
| 11/12(木) | 産学官セミナー「地理空間情報が拓く未来」 | 特定非営利活動法人Digital北海道研究会, 国土地理院北海道地方測量部, 北海道大学大学院水産科学研究院, 北海道大学大学院文学研究科 |
| 11/12(木) | 国際シンポジウム「持続的アジア社会構築に向けた日中の総合的大学間協力」 | 北海道大学サステイナビリティ学教育研究センター |
| 11/13(金) | シンポジウム「アジア・アフリカ開発援助と北海道大学」 | 北海道大学サステイナビリティ学教育研究センター |
| 11/13(金) | シンポジウム「サステナビリティな産学連携を求めて<br>― イタリアCity Stateトリノの取り組みからのメッセージ―」 | 北海道大学(産学連携本部、情報科学研究科、「持続可能な開発」国際戦略部)、トリノ工科大学 |
| 11/14(土) | シンポジウム「石油ピーク後の日本と北海道のあり方を考える」 | 北海道大学サステイナビリティ学教育研究センター |
| 11/14(土) | 市民向け講座「日韓における農業からみた低炭素社会の展望」 | 北海道大学農学研究院 |
| 11/14(土) | 意見交換会「地球に優しい社会への大学→市民の協働」 | 北海道大学グローバルCOE "統合フィールド環境科学の教育研究拠点形成" |
| 11/14(土)～15(日) | CCC「世界の子どもをつなぐ教室」報告会<br>～カンボジア・インドと日本をつなぐ「青春の手紙」～ | 世界の子どもをつなぐ教室(CCC) |
| 11/15(日) | 国際シンポジウム「先住民族と自然資源―持続的資源利用の視点から―」 | 北海道大学文学研究科 |
| 11/15(日) | 国際シンポジウム「持続可能な社会の発展と専門職業人の使命」 | 北海道大学文学研究科・応用倫理研究教育センター |
| 11/16(月)～18(水) | 北方圏の環境研究に関する日本―フィンランド共同研究セミナー | 北海道大学低温科学研究所、農学研究院、環境科学院、北方生物圏フィールド科学センター、ヘルシンキ大学、オウル大学、ラップランド大学北極センター、フィンランドセンター |
| **ロング開催企画** | | |
| 11/2(月)～14(土) | 第4回　結～yui～プレゼンツ　フェアトレードフェア | 国際協力学生団体「結～yui」 |
| 11/4(水)～13(金) | 実験展示:統合科学が解明する「洞爺湖・有珠火山地域の過去と未来」 | 北海道大学総合博物館 |
| **ポスト企画** | | |
| 12/7(月)～9(水) | 北海道大学触媒化学研究センター20周年記念国際シンポジウム | 北海道大学触媒化学研究センター |

# サステナビリティ・ウィーク2009

サステナビリティ・ウィークとは、
「持続可能な社会」の実現に寄与する研究と教育を推進させるために
北海道大学が主催する事業です。
2007年に産声を上げ、毎年全学を挙げて開催しています。
3年目となる2009年は、
より多くの若手研究者の参加を促しました。
国内外から研究者・教育者・学生・市民が集まり、
最新の科学知識を共有し議論することによって、
より良い未来に向けた次なる一歩を探りました。

## 【データで見るサステナビリティ・ウィーク2009】

**期間：2009年11月1日～11月18日**

（プレ企画を10月4日～10月31日の間、またポスト企画を12月7日～9日に開催）

**企画数** 33企画

（プレ企画4、ポスト企画1を含む）

**学生企画** 5企画

**課題別企画数**

※ひとつの企画が複数の課題をまたぐものもあります。

| | |
|---|---|
| 気候・環境変動 | 19企画 |
| 知的革命・技術革新・社会変革 | 16企画 |
| 自然史・生物多様性・自然保護 | 13企画 |
| 食糧・水・衛生・健康 | 12企画 |
| 教育・人材育成・啓発 | 19企画 |
| 人権・文化・平和 | 8企画 |

**参加者数** 8,440人

（うち、海外から702人が参加）

**大学間交流協定校からの参加**

16/24※ケ国　28/76※機関

（うち、2大学から学長、3大学から副学長が参加）　※2009年11月1日現在

**ウェブサイト訪問者数** 25,776人

（期間2009年4月1日～12月9日）

## 皆様からの声

（アンケートより抜粋）

持続可能性こそ重要です。
持続的開催を期待しています。

市民レベルの広がりに期待します。

市民、大学、企業、政府に対する具体的な行動提言を期待します。

教育、研究、社会貢献における今後の更なる発展を期待するとともに、異分野の専門家同士の協働にも期待します。

低炭素社会実現のために今後とも研究をお願いします。市民としてシンプルな生活を心がけていますが、参加して大変感動しています。

## オープニングシンポジウム
### 「持続可能なグローバル社会に向けた５課題解決への提言」

オープニングを飾るシンポジウムとして、“「持続可能な開発」国際シンポジウム～持続可能なグローバル社会に向けた5課題解決への提言～”を開催しました。数ある課題の中でも特に喫緊の5課題である、「感染症の拡大の阻止」、「水の総合的管理」、「低炭素・循環型社会の構築」、「食料とエネルギーの確保」、「地球温暖化時代の新たな枠組みづくり」をテーマに、文部科学省、環境省などの省庁関係者や研究者を始め、漁業関係者、酪農家、新聞記者など様々な立場の方々が講演し、活発な議論を交わしました。

オープニングシンポジウム会場

会場からの質問に答える講演者

## 第１回　北海道大学サス
## 学生研究ポスターコンテ

学生が今取り組んでいる自らの研究を「持続可能な社会づくりへの貢献」という観点で見つめ直すように学生に奨励すると共に、人類共通の課題解決に挑む逸材の輩出を目指し、11月2日のオープニングシンポジウムの一部として「第1回北海道大学サステナビリティ学生研究ポスターコンテスト」を開催しました。12の大学院と4つの学部から募集枠を超える72件の参加があり、あらゆる学問分野の視点から持続可能性について議論が交わされ、異分野交流の良い機会となりました。同日夜には「第1回北海道大学サステナビリティ研究ポスター賞」の授賞式が執り行われました。

## 国連大学グローバル・セミナー
### 北海道最終記念セッション

「持続可能な社会の担い手となるために～2015年までに国際社会が達成すべきミレニアム開発目標の現状を知る～」と題し、国際社会の課題解決に貢献したいと望む、全国9大学から集まった学生48名が、人類共通の目標であるミレニアム開発目標の達成状況を学びました。分科会では参加者と講師との間で熱心な議論が交わされ、参加した学生からは、現場の声が聞けて将来のキャリアプランを考える機会となった、等の感想を寄せられました。

国連大学グローバル・セミナー集合写真

分科会の様子

## 協定校ジョイントシンポジウム

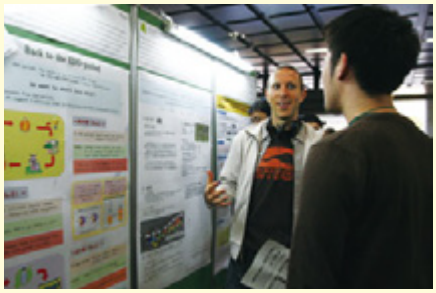
北海道大学が協定を結んでいる世界の有力大学との連携に力を入れた今年は、期間中16ヶ国28の海外協定校から多数の研究者が本学を訪れました。中でも、アジア工科大学（タイ）、オウル大学（フィンランド）、パランカラヤ大学（インドネシア）、トリノ工科大学（イタリア）、デラサル大学（フィリピン）、ジュネーブ大学（スイス）、アラスカ大学（アメリカ）とはそれぞれジョイントシンポジウムを開催し、地球環境分野はじめ、健康、産学連携など様々な分野において、組織ぐるみで連携を深める機会となりました。

トリノ工科大学とのジョイントシンポジウム
「サステナビリティな産学連携を求めて」

オウル大学等とのジョイントシンポジウム
「日本-フィンランド共同研究セミナー」

・ウィーク2009」ウェブサイトで公開しています。
http://www.sustain.hokudai.ac.jp/sw2009/jp

## テナビリティ
ェスト


活発な議論が繰り広げられた

総長と記念撮影する受賞者

## 協定校プロモーションイベント

サステナビリティ・ウィーク参加のために来学した海外協定校関係者のうち、7大学の学長・教員らが一同に会し各大学のPRをするプロモーションイベント「北大から世界へ！～国際キャリアパスの入り口へ～“SD on Campus”」を開催しました。このイベントでは、各大学が持続可能な開発(Sustainable Development =SD)についてどのような教育を行っているか、また学生が授業や課外活動でどのようにSDに関わっているかを紹介し、会場に入りきれないほど集まった学生達からは、一度に色々な国の大学の話を聞ける大変貴重な機会であったという声が多く聞かれました。また協定校関係者らにとっても、学生達に自分の大学を直接アピール出来る絶好の機会であったと大変好評でした。

ポートランド州立大学学長からの大学紹介

協定大学留学生からの説明

## 学生企画

若者の視点で積極的な活動を続け「北大元気プロジェクト」に採択されている学生団体のうち５つの団体が、「持続可能性」という合い言葉のもとウィークに参加しました。期間限定の映画館設置に始まり、フェアトレード商品の展示・販売と講演会や、途上国の子どもとの交流支援の報告会、「地球交響曲ガイアシンフォニー」の上映会、小学生を対象とした科学の実験企画などが、学生の手によって企画・運営されました。次世代を担う学生の活動に多くの市民・学生・研究者が足を運び、どの企画も大盛況のもと終了いたしました。

科学の面白さを伝えた
「Let'sサイエンス」

フェアトレード商品の
販売を行った
「フェアトレードフェア」

## 市民向け企画

情報の溢れる現代において、人々が持続可能な社会づくりに向けた正しい情報を選び取る手助けをするために、一般市民が気軽に参加出来る市民向け講座を数多く用意しました。地球温暖化問題やエネルギー資源問題、持続的な農業技術など、人々の関心の高い分野において、最新の研究成果を広く公開いたしました。参加者にとっては日頃疑問に思っていることを聞く絶好の機会となり、また研究者にとっても、市民の大学に対する期待の声を直接聞く良い機会となりました。

意見交換会「地球に優しい社会への大学→市民との協働」

市民も気軽に参加できる
行事を開催

# 北海道大学の今後の展開

G8大学サミット「札幌サステイナビリティ宣言」の具現化に向けて、
北海道大学は次の４項目に重点的に取り組みます。

## 1 サステナビリティ・ウィークの開催

持続可能な社会づくりに寄与する研究と教育を加速させるため、毎年２～３週間を「サステナビリティ・ウィーク」と定め、国際シンポジウムや国際会議、市民向けの公開講座や展示を集中的に行います。これには、学術界や教育界、産業界、NGOで活躍する人をはじめ学生や市民が世界中から集まり、人類共通の課題について認識を深め、解決策を議論します。次回は2010年10月25日からの開催に向け、世界から企画を募っています。

## 2 サステナビリティ・ネットワークの牽引

一国一地域では解決が難しい課題に取り組む際に重要なのは「連携」です。そこで、国内外の大学や研究機関、国際機関とのネットワーク構築においてリーダーシップを発揮すべく、英語のウェブサイト「Hokudai Network for Global Sustainability」を運営し、国内外から寄せられた記事や、収集した情報を発信します。
また、アジア-太平洋地域の大学院ネットワーク「ProSPER.Net」に加盟する機関と、ESD大学ランキングコミュニティーづくりなどの協働事業を行います。

Hokudai Network for Global Sustainability
http://www.sustain.hokudai.ac.jp

## 3 未来のサステナビリティを担う人材育成

人類共通の課題に協働で取り組む人材をさらに増やすべく、世界各地で活躍している技術者、政策担当者、教育関係者、研究者など専門家を対象に短期研修コースを提供します。これまでに、鳥インフルエンザ防除対策コース、HIV感染予防対策コース、寒冷都市の上下水道管理コース、廃棄物処理コース、森林エコツーリズムコースなどを開設しました。
北海道大学の学生向けには、サステイナビリティ学教育研究センターが中心となって、社会の課題を俯瞰的に捉えることのできる分野横断型の教育プログラムを提供します。

## 4 サステナブル・キャンパスの構築

１日に数万人が出入りする広大なキャンパスを「実験の場」とみなし、持続可能な社会の新しいモデルを試行します。それには、最先端の研究成果に、学生の斬新なアイデアとバイタリティを融合させ、勉学、研究、経営、生活などあらゆる側面から、サステナブルなキャンパスをつくります。この取り組みを通じて学生は、次世代を築くために必要な知識や技術そして行動様式を育んでいきます。

北海道大学「持続可能な開発」国際戦略本部
〒060-0808 北海道札幌市北区北８条西５丁目
電話：011-706-2093　FAX：011-706-2095　E-mail：office1@sustain.hokudai.ac.jp

■サステナビリティ・ウィーク2009の詳細、報告はウェブサイトで公開しています。
**http://www.sustain.hokudai.ac.jp/sw2009/jp/**

古紙配合率100%再生紙を使用しています。
PRINTED WITH SOYINK
2009年12月発行

作成日：平成 29 年 3 月
作成者：北海道大学サステナビリティ・ウィーク事務局
〒060-0815 北海道札幌市北区北 15 条西 8 丁目
TEL　011-706-8031／ E メール contact@oia.hokudai.ac.jp
北海道大学国際部国際企画課
〒060-0815 北海道札幌市北区北 15 条西 8 丁目
E メール planning@oia.hokudai.ac.jp